

気仙沼市の海洋教育2020

実践記録集



宮城県気仙沼市教育委員会

目 次

ページ

◆ あいさつ 気仙沼市教育委員会 教育長 小山 淳	1
◆ 気仙沼市における海洋教育の推進	2
◆ 気仙沼市の海洋教育特例校の実践事例	13
◇鹿折小学校	14
◇唐桑小学校	28
◆ 気仙沼市の海洋教育パイオニアスクールの実践事例	39
◇唐桑幼稚園	40
◇小泉幼稚園	42
◇大谷幼稚園	44
◇気仙沼小学校	46
◇松岩小学校	54
◇階上小学校	62
◇大島小学校	66
◇面瀬小学校	70
◇中井小学校	72
◇小泉小学校	78
◇大谷小学校	80
◇階上中学校	84
◇大島中学校	88
◇面瀬中学校	92
◇唐桑中学校	96
◇大谷中学校	100
◆ 第7回海洋教育こどもサミット in 気仙沼（オンライン大会）	
◇開催要項	104
◇グループ別発表要旨一覧	106
◆ 気仙沼市教育研究員の海洋教育の実践	113
◇海洋教育に関する研究 松岩小学校 教諭 三浦 大樹	114
◇海洋教育指導案	118

気仙沼市「海洋教育実践記録集2020」の発行によせて

気仙沼市教育委員会 教育長 小山 淳

気仙沼市は、2011年に発生した東日本大震災において、人知を超える海の力の大きさを経験しました。震災から10年の節目を迎えている今、新たなまちづくりを進める気仙沼においては、復興のキャッチフレーズ「海と生きる」を心に留め、暮らしと伝統、自然とのかかわり方などについて、地域の方々と共に学んでいるところです。

学校教育では、震災後数年は近づくことのできなかつた海での活動の再開とともに、海の素晴らしさや暮らしとのかかわりなどを、体験を通して感じることができるようになりました。この3月には気仙沼湾横断橋「かなえおおはし」が開通し、海はますます身近なものとなっています。このきっかけとなったのが「海洋教育」との出会いでした。

海洋教育を進めるにあたっては、平成26年度より、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター（旧 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター）との連携協定により、田中智志センター長をはじめ、同センターの先生方のご指導をいただいております。

また、日本財団、笹川平和財団、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターの「海洋教育パイオニアスクールプログラム」に、幼稚園3園、小学校10校、中学校5校が地域展開部門で参加し、海洋教育の推進に取り組んでおります。なかでも、今年度より海洋教育特例校の指定を受けた鹿折小学校では、特設領域「海と生きる探究活動」において、地域の人と触れ合い、自然・文化・産業にかかわりながら、ふるさと気仙沼への思いを深め、考えを表現し、課題解決に向けて協働して活動することができる児童の育成を目指した取組が行われております。次年度からは、唐桑小学校も海洋教育特例校としての取組を始めます。2校の特例校が本市の海洋教育を牽引してくれることと期待しております。

コロナ禍により、学習面、生活面で様々な制約を受けた今年度においても、学校は様々な工夫をして、海と親しむ活動や海洋教育に係る外部人材から学ぶ活動を取り入れて参りました。また、11月には、「第7回海洋教育こどもサミット in 気仙沼（オンライン大会）」を開催いたしました。本市と岩手県洋野町、福島県只見町、山形県鶴岡市のパイオニアスクールをオンラインで結び、小、中、高校生による学びの発表と意見交流を行いました。その様子は北海道や四国、九州などからも視聴され、海洋教育の広がり、オンライン交流の新たな可能性を示すことができたと感じております。

気仙沼市「海洋教育実践記録集2020」には、本年度の各学校の実践の紹介に加え、各校での海洋教育の位置付けを示した全体計画、海洋教育デザインシート、指導案なども掲載しました。気仙沼市の海洋教育の歩みの記録として、海洋教育の実践を広め、深めるための資料として充実した内容となっています。

貴重な事例を提供いただいた各園・各校の指導者並びに学習を支えていただいているすべての関係者の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、今後さらに気仙沼市の海洋教育が発展していくことを期待しております。

気仙沼市における海洋教育の推進

気仙沼市教育委員会

1 海洋教育に取り組む背景

(1) 東日本大震災による地域学習への影響

気仙沼市では、地域の自然や伝統文化に触れたり、基幹産業である水産業を体験したりすることを通して地域理解を深めるふるさと学習を基盤に、地域の魅力を生かし地域の課題の解決を考える協働的で探究的な学習が盛んに行われてきた。公民館やPTAなど地域の方々がコーディネーター役となり、その地域、学校の特色を生かした個性的で多様性に富んだ学習活動を積み重ねてきた。

しかし、平成23年3月の東北太平洋沖地震によって発生した大津波、火災によって、沿岸部一帯や川沿いの居住地域が壊滅的な被害を受け、状況は一変した。地盤沈下による海岸線の地形が変化、海底の様子に変化など、自然環境にも大きな影響が出た。

さらに、児童・生徒や保護者には心理的な影響が出るとともに、沿岸部の復旧・復興に向けた工事などにより、海岸線に容易に近づくことができない状況となった。これらのことにより、海をフィールドに海の素材を生かした学習活動の再開が困難な状況が続いた。

(2) 海での学習の再開

震災後一年以上は海での学習活動が停滞していたが、学校と地域が再び連携を取り合い、地域の子供たちに海での学習を行わせたいという機運が高まり始め、海をフィールドにした学習が再開された。唐桑地区では、公民館と学校が学社融合事業として取り組んで実施した「定置網起こし」が平成25年に再開し、大島地区では、小田の浜海水浴場が整備された平成24年には、大島小学校の「海に親しむ集い」が部分的に実施となり、平成29年に本格的に再開された。また、大谷地区では、大谷小学校で、平成29年度から大谷海岸での「砂の造形展」が再開された。このように、各幼稚園や各小・中学校では、安全面や子供たちの心理面に配慮しながら、海をフィールドとし海の素材に触れる体験的な学習活動が実施されるようになってきた。

(3) 震災から復興に資する地域探究型の海洋教育

本市では「海と生きる」を震災復興のキャッチフレーズに掲げ、市民参加型による人材育成を重視したまちづくりを進めている。学校教育においては、継続して心のケア、サポートなどの配慮が必要な児童・生徒もいるが、地域の自然、人、取組などとの関わりとつながりを通して学ぶ学習が行われるようになってきている。気仙沼の子供たちは、震災で甚大な被害を受けながらも、多くの人々の熱意と努力、様々な地域の方々の支援と協力によって力強く復興を進めている水産業や加工業、造船業などについて学んだり、海と関わりの深い地域の自然やそこに生きる人の営みを改めて見つけ、そのよさを感じ取ったりしている。これまでの地域展開による学習の積み重ねを生かしながら、子供たちが主体となって意欲的に取り組む「地域探究型の学び」を目指して海洋教育を進めている。

2 海洋教育のとらえ

平成19年4月に制定された「海洋基本法」の第28条には、「広く国民一般が海洋についての理解と関心を深めることができるよう、学校教育及び社会教育における海洋に関する教育の推進等のために必要な措置を講ずるとともに、大学等において海洋に関する政策課題に対応できる人材育成を図るよう努めるよう…」とある。

このことを受けて、海洋政策研究財団（現：海洋政策研究所）では、平成19年に教育分野と海洋分野の有識者からなる「初等教育における海洋教育の普及推進に関する研究会」（委員長：佐藤学 東京大学教授、日本教育学会会長（当時））を設置し、『21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン』を提言した。国内での海洋教育推進の中心となっている東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター（旧：東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター）では、次のように述べている。

私たちのいのちを実際に支えているものこそが、海ではないでしょうか。

そうした海と人のつながりを考えるために必要なことは、具体的な体験プログラムを踏まえつつ、理科や社会科などの各教科をつうじて自然科学的知見・社会科学的知見を身につけ、さらに海に関する文学・思想に親しむことで、海と人とのつながりという見えないものを見る構想力を養うことです。

そのためには、体系的な知識技能型ではなく、「素朴な問い」に対する探求型の実践と、単一の教科ではなく既存の諸教科を横断する知の教育＝『学際知教育』が必要です。海洋教育の最終目的は、命の源泉である海について、自ら考え実践し学びを深めることで、＜海とともに生きる＞という私たちの本来的な生き方に気づき、＜よりよく生きる＞ことを伝えていくことです。

【東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターHPから】

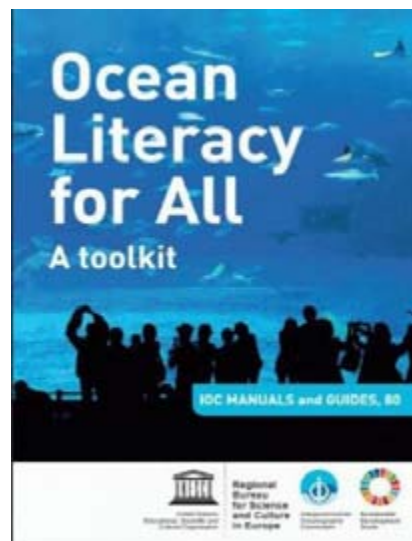
平成29年に改訂された小・中学校の新学習指導要領では各学校において、社会に開かれた教育課程を重視し、知識の理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」のためのカリキュラム・マネジメントの確立が強く求められている。海と人とのかかわりを考える上で、地域の文化や産業などを踏まえることや地球の環境・生命を支えているものとして海を考えることは、子供たちにより深い理解と思考を促すことにもなる。「海と人との共生」という理念を掲げる海洋教育は、新学習指導要領に示された、社会で生きて働く「知識・技能」、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育み、「持続可能な社会の創り手」の育成に合致するものと言える。

【東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターHPから】



2021年から2030年までの10年間は、「持続可能な開発のための国連海洋科学の10

年」とされ、提案した UNESCO-IOC（ユネスコ・政府間海洋学委員会）が平成 29 年に刊行した『Ocean Literacy for All』に、子どもから大人までの学習者のための「海洋リテラシー」（7つの重要原理と45の基本概念）が示された。このことは、これまで「地域のもの」として取り組まれることが多かった海洋教育を、地球規模で起こっている海洋の問題という国際的な枠組の中に位置付けることにもなり、海洋リテラシーという観点によって、海洋教育での学びと経験は「海と人との共生」に向けての重要な意義をもつ。学校教育に期待されることは、児童・生徒に、海と人の親和性を理解する「海洋リテラシー」を育成することであり、学習を通して、海の役割や人とのつながりを理解するとともに、直面している深刻な海洋問題の解決に対応できる人材を育成することである。本市においては、今後、UNESCO-IOC による科学的な「海洋リテラシー」を踏まえつつ、文化や思想、暮らしや人の営みなどの観点からも「日本ならではの海洋リテラシー」「気仙沼ならではの海洋リテラシー」を考え、新学習指導要領が掲げる3つの資質・能力と関連させながら整理していく必要がある。



【UNESCO-IOC（ユネスコ・政府間海洋学委員会HPから）】

本市では、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターと気仙沼市教育委員会が研究拠点としての協定（平成26年8月促進拠点協定、平成28年8月研究拠点協定）を結び、指導・助言のもとに海洋教育を進めている。このほかにも、気仙沼市が連携協定を結んでいる東京海洋大学のほか、市内外の海洋に関わる研究機関や市内のスローフード気仙沼、水産業関連機関・団体との多様な関わりを通して海洋教育を進めている。

次の図は、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」という海洋教育の4つのコンセプトであり、海洋教育の12分野（生活・健康・安全など）とともに示されている。



【東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターHPから】

本市では、新学習指導要領に掲げる資質・能力と UNESCO-IOC（ユネスコ）の海洋リテラシーを育てていくため、各学校において海洋教育のカリキュラムを作成する際に、この4つのコンセプト及び12の分野に基づいたねらいを位置付けるようにしている。

さらに、海洋を「公共財」「公共圏」ととらえ、「海とともに生きる」という海洋教育の理念に沿った教育活動を展開するために、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターでは、「環境」「生命」「安全」という3つの柱（エッセンシャルズ）を取り組むべき優先主題として設定している。これら相互のつながりと結び付きを統合的に探究するのが海洋教育である。



【東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターHPから】

3 気仙沼市の海洋教育の現状

(1) 気仙沼市の海洋教育推進体制の概要

気仙沼市は、平成28年度から海洋教育パイオニアスクールプログラムの実践に取り組んでいる。令和3年2月現在、市立学校等では、地域展開部門で幼稚園3園、小学校10校、中学校5校が海洋教育パイオニアスクールとして実践を展開している。

そのうち小学校1校（鹿折小学校）は、文部科学省より令和2年度から「特別の教育課程編成による教育実践校（海洋教育に関する教育課程特例校）」に指定され、新たな領域「海と生きる探究活動」を中心に教科・領域を横断させ、探究的で協働的な海洋教育の推進に力を入れている。令和3年度からはさらに小学校1校（唐桑小学校）が教育課程特例校となる予定である。

これらの市立学校等の海洋教育パイオニアスクールメンバー校のほか、県立高等学校として地域探究的なカリキュラムの中で海洋教育の実践を行っている気仙沼高等学校と、水産業を支える情報海洋や産業経済などの学習を展開している気仙沼向洋高等学校が加わり、海洋に関する教育推進の方向性を共有しながら、取組を充実させるための連携に努めている。

(2) 気仙沼市海洋教育推進連絡会

気仙沼市海洋教育推進連絡会（以下連絡会）は、市立幼稚園から市内高等学校までの海洋教育パイオニアスクールと海洋に関する学習を展開する学校、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター、東京海洋大学関係者、地域の教育に関する有識者等で組織している。この連絡

会は、海洋教育の目的と方向性等を共有するとともに、それぞれの実践についての情報交換、相互の連携を図るための具体的な方法等を協議し合う場であり、本市海洋教育推進の中核となる組織である。令和2年度からは、連絡会の専門委員会として「海洋教育推進委員会」「海洋教育副読本編集委員会」を組織し、本市海洋教育のさらなる充実のために必要な事項を協議したり、研修等の企画・推進のための支援を行ったりするほか、海洋教育副読本の編集等を行っている。



4 実践の概要

(1) 地域展開としての取組・・・海洋教育パイオニアスクールの実践

【気仙沼市海洋教育研究開発事業〔地域展開部門〕の目標】

地域展開メンバーが連携を図り、地域連携の見直しや再構築を進め、気仙沼の海で子供たちが学び、育つ「海洋教育」として各校のカルキュラムを往還的・探究的・協働的なものへと改善する。幼・小・中の発達段階を踏まえて研究を進め、「海と生きる」気仙沼の特色を生かした海洋教育モデルを創出することで、新学習指導要領のキーワードの一つである「地域に開かれた教育課程」の具現につなげ、質の高い学びを実現する。

- 事務局 気仙沼市海洋教育推進連絡会（気仙沼市教育委員会）
- メンバー校 唐桑幼稚園、大谷幼稚園、小泉幼稚園
気仙沼小学校、鹿折小学校、松岩小学校、階上小学校、大島小学校、
面瀬小学校、唐桑小学校、中井小学校、小泉小学校、大谷小学校
階上中学校、大島中学校、面瀬中学校、唐桑中学校、大谷中学校
- 特例校 鹿折小学校（令和2年度～）

(2) 海洋教育こどもサミット

平成28年度から、東北地方で海洋教育に取り組んでいる幼稚園から高等学校が一堂に会して実践を伝え合い、テーマに沿った対話による学び合いを行う「海洋教育こどもサミット」を開催している。平成28年度は気仙沼市（面瀬小学校）で、平成29年度は岩手県洋野町で、平成30年度は気仙沼市（鹿折小学校）で開催し、令和元年度は岩手県洋野町で開催した。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催地の気仙沼市がホストとなりオンラインで開催した。

本年度は名称を「第7回海洋教育こどもサミット in 気仙沼（オンライン大会）」とし、気仙沼市教育委員会、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター、公益財団法人日本財団が主催し、気仙沼市内の小・中学校14校と高等学校2校、岩手県洋野町の小・中学校10校、山形県加茂水産高等学校、そして、新たに福島県只見町の小・中学校2校の児童・生徒などが参加して11月27日（金）に開催した。「こどもサミット」の名前のとおり、進行とあいさつも児童・生徒が務め、これまで同様に子供たちによるサミットとして学び合いが展開された。

今回のテーマは「海に学び、海と生きる～海と自分たちとのつながりを考える～」であり、実践発表では、コロナ禍のため海での直接的な体験や交流による学習が制限されてしまった中に

あっても、海洋プラスチックごみ問題や気候変動などの海の環境対策に目を向けた学び、山間部と沿岸部とのつながりの重要性を考えた学び、海の魅力を地域づくりに生かそうと行動する学びなど、海と人との共生に関する各地域での多様な実践の発表がオンライン形式で行われた。児童・生徒のほか、保護者や地域で学びを支援している方々、東北地方以外の地域の教育関係者などにもオンライン配信し多くの方々に視聴していただいた。子供たちの発表の質の高さと学びの行動化に対する称賛の声があがっていた。

学びの共有・振り返り・学びの深め合いでは、「海の役割と現状」「自分たちに何ができるのか」をテーマに、自分たちがとらえている海の現状をもとに課題を出し合い、その課題を解決するために何をすべきかについて、オンライングループでの話し合いによって深め合った。



(3) 第8回全国海洋教育サミット

2月11日(木)に、新型コロナ感染拡大防止のため初めてのオンライン開催となった「第8回全国海洋教育サミット」に、市内の4校の児童生徒(気仙沼小学校、鹿折小学校、面瀬小学校、面瀬中学校)と気仙沼高等学校の生徒が発表に参加した。また、本市の海洋教育実践校からも多くの教員と保護者等がオンライン視聴し、海洋教育が目指すもの、今後の海洋教育推進に向けた方向性、海洋教育における体験の意義について学び合うことができた。

オンライン発表では、小学校の部、中学校の部、高等学校の部それぞれにおいて、活動写真や手作りポスター、図など視覚に訴える資料を効果的に活用しながら、全国各地から参加した方々に伝わるように、表現豊かに発表した。気仙沼市の魅力と課題に向き合いながら実践行動に結び付けている児童・生徒の発表についての関心は高く、参加した全国の方からの質問や意見の一つ一つにもしっかりと答えていた。

(4) 地域別発表会の開催

① 大島小学校「第5回海洋教育発表会・研修会」

大島小学校では、平成28年度より「大島小学校海洋教育発表会・研修会」を開催しており、本年度は令和3年2月18日(木)に保護者や地域の方々を招いた授業参観を兼ねて開催した。

1～3年生は日頃の学習の成果を発表し、4～6年生は大島の自然・海・人の豊かさについて体験したり調べたりした成果を、校内オンラインを併用しながら学年毎にポスター発表した。大島小学校は、大島漁業協同組合青年部の協力を得て、ワカメ、カキ、ホタテといった大島で養殖される海の幸に視点を当て、豊かな体験活動を積み重ねながら、それぞれが成長する過程や環境、

生産に携わる人々のふるさとへの熱い思いと営みを通じて「海を知り、海を守り、海を利用する」学びを地域と共に継続している。



② 唐桑小学校「第4回リアスサミット in 唐桑」

唐桑小学校では、生活科や総合的な学習の時間等における地域を題材とした体験的・探究的な学びの成果を、保護者や地域の方々に発信する場として「リアスサミット in 唐桑」を毎年開催しており、本年度は令和3年1月28日（木）に開催した。

会の進行は全て6年生が担当し、1・2年生は自分たちが学んだ時の様子や様々な発見や気づき、思いを歌や踊りを交えて楽しく発表した。その後、3～6年生がそれぞれの学年での取組をテーマ別グループに分かれてポスター発表し、参加者からの質問や意見について答えていた。

本年度は、市内山間部にある月立小学校の5・6年生も会場参加し、八瀬川の生き物や炭焼きなど自分たちの取組を紹介するとともに、対面によるワークショップでの意見交流を通して「森・川・海のつながり」が育む豊かな環境を深く学び合った。



③ 鹿折小学校「海洋フォーラム in 鹿折 2020」

鹿折小学校では、平成30年度より「海洋フォーラム in 鹿折」を開催している。本年度は令和3年2月4日（木）にオンラインを併用しながら、5・6年生が2年間あるいは1年間取り組んだ「海と生きる探究活動（教育課程特例による新設領域）」の成果を、個人または課題別グループで発表した。鹿折地区は唐桑地区や大島地区のように養殖や沿岸漁業が盛んに行われている地区ではないが、震災後に新たに整備された水産加工場や造船場が多く立ち並ぶ地域である。その特色を生かし、海と人々の暮らしとのつながりについて、工業を通して学ぶ探究的なカリキ

ユラムの中でグループ研究や個人研究が進められている。各ブースの発表において児童は、探究した成果をタブレットの学習支援アプリを活用しながら分かりやすくまとめ、写真や動画、説明などを提示しながら効果的にプレゼンテーションを行っていた。発表後には、5・6年生に加え、地域の学習支援者や公民館、企業の方々も各グループに参加し、スローフードや環境、船などの視点から、「海と生きる」気仙沼のあるべき姿について活発な意見交流がなされていた。東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターの梶川萌特任研究員からオンラインで指導助言をいただき、水産業を通じた世界とのつながりから考えを広げ深め、海と人との共生を目指す気仙沼のために自ら行動できる児童を育むことにつながる学びの足跡がみえるフォーラムとなった。



(5) 教職員地域研修会の実施

気仙沼市では、初めて市内小・中学校に勤務する教職員を対象に、地域理解を深め指導に生かすことを目的とした地域研修会を長きに渡り実施している。

本年度は、海洋教育の基本理念であり、気仙沼市の復興キャッチフレーズでもある「海と生きる」をテーマに、令和2年7月9日（金）に開催した。市内の児童・生徒が海洋教育を通じて、海と人の共生を体験的・探究的に学ぶことができるようにするためには、教員自身の価値観と構想力、指導力などを磨き高めることが不可欠である。

本年度は新たに、気仙沼魚市場・水産情報等発信施設（水産振興センター）、(株)みらい造船（造船所）、(株)ミヤカン（水産加工場）を訪問地に加え、「海と生きる」気仙沼として力強く復興する市民の信念と努力、未来への展望と熱意などを見聞し肌で感じる事ができた。「復興と創造」「協働と融合」「ローカルとグローバル」の3つを研修コンセプトに、参加者一人一人が「問い」をもって臨み、震災後の気仙沼の復旧・復興の状況と地域・産業が抱える魅力と課題等への理解を深め今後の指導に生かすための貴重な研修となった。



(6) 気仙沼市教育研究員による海洋教育の実践研究

昭和46年(1971年)にスタートした気仙沼市教育研究員制度によって、これまでに多くの実践研究が行われ、気仙沼市の教育を支える多くの人材を輩出してきた。

海洋教育に関しては、平成29年度から研究領域に加え、本市の特色ある教育の推進を目指して実践的な研究を進めている。

令和2年度は、三浦大樹教諭(松岩小学校)が、海に関する学びを探究的な学習の核として位置付け、思考ツール等の活用により思考の習慣化を図るとともに、教科・領域と海洋教育との往還を重視した単元デザインや授業展開の工夫を通して研究を進めた。

松岩小学校は、本年度からパイオニアスクールとして活動を始めた学校である。三浦教諭の研究によって、地域素材を生かした体験活動や地域人材からの講話を取り入れた単元構想を実践に移し、効果的な学習展開を探ることができた。実際に見聞きしたり体験したりすることで、児童が身近な海について関心を持ち、環境・社会・経済の面から覗き見ることができた。また、総合的な学習の時間「海と生きる～ぼくらは気仙沼の海大使～」 「森と海のつながりを考えよう」と国語科や社会科、理科などを関連付けた学習カリキュラムをつくり、習得・活用・探究を通して学習を広げたり深めたりできるようにした。海洋教育のカリキュラムづくりや具体的な授業の在り方の方向性を示す研究となっている。



5 今後の気仙沼市における海洋教育の展開

気仙沼市は、震災から10年の時を経て、保護者の理解や地域の方々の協力、大学等の専門機関の指導・助言を得ながら、水産業関係者や専門的立場の方々などと連携・協働し、多様な体験を土台とした学びが行えるようになってきている。その多様な体験を通して生まれた気付きや問いを原動力に、他者と協働しながらより探究的に進める学びの質を高め、深めていくことが、海洋教育に求められる海洋リテラシーを豊かに育み、学習指導要領で目指す資質・能力の育成につながると考える。

今年度は、地域の海を学ぶことに留まらず、海に親しみながら、海の役割と恵み、海と地球環境、海と自分などへの思考を促し、「海と人との共生」による持続可能な未来に向けて、海を守り、海を上手に活用していくための在り方を深く考え、行動化につなげる学びを重視してきた。これらを踏まえ、各パイオニアスクールには、子供たち自身が「海と生きるとはどういうことか」を探究し、深めていくためのカリキュラム改善と指導の在り方についてのさらなる研究が期待される。

令和3年度からは、海洋教育に関する教育課程特例校が、鹿折小学校と唐桑小学校の2校となる。それぞれの学校での「海と生きる探究活動」の実践を通して、子供たちが海洋リテラシーをいかに身に付けて行くか、持続可能な社会の創り手として資質・能力をいかに育んでいくかが問われている。気仙沼市教育委員会の指導・助言のもと、成果を他校に波及させながら進めていくこととなる。

また、本市の海洋教育で活用する副読本の編集も進んでおり、編集過程での協議・検討は、各校の海洋教育を見つめ直し、改めて素材の意味と実践の意義を問い直す機会にもなっている。市全体で取り組む海洋教育の価値を高め、気仙沼らしい教育の一つとして海洋教育を充実・発展させていきたい。

「海と生きる」の探究を軸とした気仙沼市の海洋教育推進イメージ

(東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 梶川萌特任研究員 講話資料を参考)

学校教育

- ・ 教科で身に付く資質・能力
- ・ 総合的な学習の時間で身に付く資質・能力

クロス・カリキュラム
(資質・能力の育成の
効率化や質の向上に貢献)

「海と生きる」の探究

大人にとっても子どもにとっても 未知

「海と生きる」とはどのようなこと？
実現するためには、どう考え、行動する？

海と生きる



子ども



学校



地域の大人

「海と生きる」ための力

気仙沼の海洋リテラシー

を考え、つくっていく

子どもたちが「海と生きる」を
探究する／し続けるために

求められる力は何か？

学校教育は何かができる？

学校教育でできないことはどうする？

何を(対象)？

- ・ 自然としての海
- ・ 多様性を育む海
- ・ 影響を与える海
- ・ 生活を支える海
- ・ 守り、伝える海
- ・ 共に生きる海

なぜ、どうするために？(目的)

- ・ 海となかよし〔親しむ〕
- ・ 海の恵み〔知る〕
- ・ 海の仕組み〔知る〕
- ・ 海を生かす〔利用する〕
- ・ 海を支える〔守る〕
- ・ 海とまちづくり〔共生〕

探究

探究

思考の習慣化
価値の行動化

新しい教育課程を検討
(教育課程特例校)

卒業後も「海と生きる」
(社会教育施設)



F-I-S-Hの力 (「海と生きる」)	コンピテンシー (ESDコアスキル)	育長・能力 (学習指導要領)	価値観と力
F (Foresight) 先を見通す力	情報の読解力	生きて働く 知識・技能	価値観の力
I (Insight) 本質を見抜く力	批判的思考力 自己決定力	未知の状況にも対 応できる 思考力・判断力・ 表現力等	
S (Strategy) 道を切り拓く力	科学的思考力 繋がる心		価値観の力
H (Harmony) つなぐ力	自律 協働 感性 志	学びを人生や社会 に生かそうとする 学びに向かう力・ 人間性等	価値観

(自然・社会科学、産業・経済、文化・思想、生業・地域創生などの面から)

海と
生かす

海洋教育2020
特別の教育課程編成による教育実践校
(海洋教育に関する教育課程特例校)
実践事例

令和2年度～

1	鹿折小学校	「問い」をもち、主体的に学び続ける児童の育成 ～海と生きる探究活動・生活科を中心とした横断的・ 探究的なカリキュラムデザインを通して～
---	-------	---

令和3年度～

1	唐桑小学校	地域の豊かな体験学習と多様な交流を通じ、豊かな心 をもち、ふるさと唐桑を愛する子どもの育成 ～力キ養殖体験等を中心とした探究活動を通じて～
---	-------	---

「問い」をもち、主体的に学び続ける児童の育成

～海と生きる探究活動・生活科を中心とした横断的・探究的なカリキュラムデザインを通して～

1 海洋教育（特設領域「海と生きる探究活動」）指導計画

(1) 「海と生きる探究活動」の全体テーマ

地域の人と触れ合い、自然・文化・産業にかかわりながら、ふるさと気仙沼への思いや考えを深め、自分の考えを表現し、課題解決に向けて協働して活動することができる「持続可能な社会の創り手」としての児童の育成を目指す。

(2) 指導計画

① 「海と生きる」気仙沼市を目指す教育大綱（第2期：令和元年度～4年度）

○ 基本理念

第2期気仙沼市総合計画に掲げる将来像「世界とつながる 豊かなローカル」に向けて、ふるさとを愛し、創造力に富み、持続可能な社会の創り手として人間性豊かで心身ともに健康な市民の育成を目指し、生涯にわたる教育の充実に努める。

I 人を思いやる心と高い倫理観，豊かな感性～幅広い人間性～

II 創造的に自律して生きていく力～未来への飛躍～

III 郷土に貢献し，世界で飛躍するためのグローバルな視点～社会の創り手～

○ 基本理念実現のために必要な力

F (Foresight) 「先を見渡す力」 ・現状を正しくとらえ，先を見渡す力

I (Insight) 「本質を見抜く力」 ・何が大切なのか適切に判断する力

S (Strategy) 「道を切り開く力」 ・進むべき道筋を見出し，構想を立てて邁進する力

H (Harmony) 「つなぐ力」 ・周囲と調和し，つながり，支え合い，高め合いながら社会の一員としての役割と責任を果たす力

② 「海と生きる探究活動」の目標

○ 「海と生きる」気仙沼市の地域，環境，産業，文化に関心を持ち，自分とのつながりとかかわりに目を向けながら意欲的に課題を解決することができる児童を育成する。

○ 自分の「問い」をもち，課題について学ぶ必要性と道筋を理解しながら他者と協働して学習を進め，自分の生活の在り方を深く考える児童を育てる。

○ 学ぶ目的や内容に応じた探究の仕方やまとめ方，表現を工夫しながら分かりやすく説明する力を高める。

(3) 「海と生きる探究活動」を通して身に付けさせたい力

① 身に付けさせたい力のとらえ

学んだことを人生や社会に生かそうとする

【学びに向かう人間性等】

H (Harmony) 「つなぐ力」 『つなぐ』

実際の社会や生活で生きて働く

【知識・技能】

F (Foresight) 「先を見渡す力」 『とらえる』

未知の状況にも対応できる

【思考力・判断力・表現力等】

I (Insight) 「本質を見抜く力」 『判断する』

S (Strategy) 「道を切り開く力」 『切り拓く』

② 学習段階に沿った「身に付けさせたい力」

	中 学 年	高 学 年
実際に社会や生活に生きて働く知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○自然や伝統・文化，人など，身の回りの事象に興味・関心・疑問をもち，課題解決に必要な知識・技能を身に付けることができる。 ○課題解決に必要な情報を収集することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他教科と関連付けたり，グローバルな視点で考えたりしながら，課題解決するために必要な知識・技能を身に付け，活用しようとするすることができる。 ○課題解決に必要な情報を収集ことができ，自分が伝えたい考え・思いに合わせて活用することができる。

未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的・探究的に情報を収集し、課題解決に向けた自分の考えをもつことができる。 ○考えたことを基に適切に表現することができる。 ○学んだことを他教科で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決に向けた見通しをもち、体験的・探究的に収集した情報を精査しながら、自分の考えを深めることができる。 ○グローバルな視点から自分の考えをみつめ、多面的に考えを広げ深めることができる。 ○学んだ学習内容及び習得した知識・技能を、教科・領域を横断しながら深めることができる。
学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ○自然や身の回りの生活に興味・関心・疑問をもち、進んで活動しようとする。 ○他者と進んでかかわり、共に考えようとするすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調べたことを互いに交流しながら分かりやすくまとめ活用・発信することができる。 ○他者と協働的・対話的にかかわり、考えを深化させたり、新しい価値を創造しようとしたりする。

(4) 各学年のテーマと学習内容

学年・時間	海と生きる探究活動の学習内容
3年生 (50時間)	【鹿折の宝～人・自然・ものを見つけよう～】 ○わかめ養殖体験 ○白山小唄 ○波板虎舞 ○天旗 ○気仙沼みなとまつり
4年生 (50時間)	【山・川・海～命をつなぐ鹿折川～】 ○川の働き（治水・利水・環境） ○鹿折川環境調査 ○米づくり体験 ○鹿折川のゴミ調査 ○岩井崎探検（塩づくり・マイクロプラスチック）
5年生 (60時間)	【世界とつながるぼくらの海郷学】 ○魚市場・海の市見学 ○水産加工場見学 ○海流実験 ○造船所見学 ○地球温暖化の講話 ○舞根森里海研究所自然体験 ○海洋教育こどもサミット参加（開催予定地：洋野町） ○全国海洋教育サミット ○海洋フォーラムin鹿折（5・6年合同）
6年生 (61時間)	【海で復興 未来へつなぐ「気仙沼の魅力」発信プロジェクト】 ○地域づくり協議会・震災復興企画課の出前授業 ○探究旅行（猪苗代・会津若松） ○気仙沼市のまちづくり（産業・環境・国際・食・観光・防災） ○海洋教育こどもサミット参加（開催予定地：洋野町） ○外国人異文化交流会 ○全国海洋教育サミット ○海洋フォーラムin鹿折（5・6年合同）

(5) 評価の方法

- ① 評価の観点
 - ・評価の観点として3つを設定し、その観点に照らして評価する。
 - 【知識・技能】
 - 【思考力・判断力・表現力等】
 - 【主体的に学習に取り組む態度】
- ② 評価規準の明確化
 - ・評価の観点を基に、各学習や活動場面における評価規準を明確にし、教師の評価や児童同士の相互評価、自己評価が適切にできるようにする。
- ③ 評価の資料
 - ・一人一人に海と生きる探究活動の個人ファイルを持たせ、学習評価の資料とする。
 - ・児童の自己評価や児童同士の相互評価を行わせる。
 - ・一人一人の活動の様子や発言など、顕著な事項や特徴などを記録し評価に生かす。
 - ・外部講師の方や保護者などからも活動の様子や意見などを伺い、評価の資料とする。

2 「海と生きる探究活動」デザインシート（別紙）

3 今年度の海洋教育の成果と課題

(1) 「海と生きる探究活動」で目指す目標について

○ 気仙沼の地域性、環境、文化に関心を持ち、自分とのつながりに目を向けながら、主体的に課題を解決しようとする姿を目指してきた。1・2年生では、大島の小田の浜や舞根森里海研究所に行き、様々な生き物に触れる体験をしたり、3年生では、気仙沼の伝統的な祭りである天旗まつりについて学んだりすることができた。実際に自然の中で、多様な生き物に触れる経験や、祭りなどの由来、海とのつながり、気仙沼の伝統を守る人の思いについて知ることで、上学年で学習する「海との共生」についての基礎を培うことができた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響から、計画どおりに校外学習を行えない活動があったり、対面ではなくリモートでの調査・講話に変更したりするなど活動が制限された。そのため、課題を深掘りすることや、多面的な調査活動ができず、考えを深めることが難しく課題が残った。

○ 自分の『問い』を持ち、課題について学ぶ必要性と道筋を理解しながら他者と協働して学習を進め、自己の生活の在り方を考える児童を育成するために指導を続けた結果、多くの学年で変容が見られた。6年生では気仙沼で見られた地球温暖化の影響の一つ「さんまの不漁」を課題として探究活動を進める児童がいたり、人口の減少が進む気仙沼市の問題を解決するために、スローフードに焦点を当てて、気仙沼市の魅力を他地域に発信したりする児童が見られた。



写真1 オリジナルレシピ作り

(写真1) 5年生では気仙沼の水産業の学習をしてきたが、昨年には見られなかった、マグロの水産資源を守る取組について調べ、まとめた児童もいた。学校で学んだことを環境保護のために実践したり、地域で生活している中で生じた疑問を学校での学びで解決しようとしたりする探究的な姿は、今後につながる成果だと考える。個人毎に課題を設定し、他者と協働的に学習する活動を系統立てて行ってきたことで、昨年度まで限定的だった課題を自分ごととして考える児童の姿が、各学年に広がってきた様子が見える。

○ 学ぶ目的や内容に応じた探究の仕方やまとめ方、表現を工夫しながら自分の考えを、筋道を立てて分かりやすく説明する力を高めるために、思考ツールを活用した活動を行ってきたところ、課題の解決につながる筋道をイメージして協働的に学ぶ児童が増えた。具体的には、付箋を活用しながら友達と協働的に課題の原因や背景、影響などのつながりについて考え、模造紙や発表スライド等に整理して他者に伝える姿が見られた。11月に開かれた「海洋教育こどもサミット in 気仙沼」、2月に行われた「全国海洋こどもサミット」、「海洋フォーラム in 鹿折 (写真2)」等で、他地域や保護者、協力していただいた企業や大学、地域の方々に発信する活動を行うことで、相手意識をもって伝えようとする意欲も高めることができた。各発表会ではタブレットを使いながら、スライドで説明したり、動画を作成して映したりするなど、発表する内容に応じて、発信する方法を工夫する様子も見られた。今回は発信する方法としてタブレットを活用したが、コロナ禍では調査活動や友達と情報を練り合う活動でもICT機器を活用することが求められる。今年度の成果と併せて、来年度につなげていきたい。



写真2 海洋フォーラム in 鹿折

学校教育目標

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 新学習指導要領
 - ◆知識・技能
 - ◆思考力・判断力・表現力等
 - ◆学びに向かう力・人間性等
- 国連持続可能な開発目標 (SDGs)
- 海洋基本法
- 国連持続可能な海洋科学の10年
- 気仙沼教育大綱

『志高く、夢に向かって、たくましく未来を拓く児童』の育成

- 夢や志をもち、進んで学ぶ子ども (かしこく) … 自分の考えをもつ力 ●自立・責任
- 思いやりをもち、助け合う子ども (やさしく) … 人を大切にする力 ●調和・協働
- 協力し合い、喜んで活動する子ども (なかよく) … 自らかかわる力 ●志・創造
- 心と体をきたえ、粘り強い子ども (たくましく) … チャレンジする力

- 今日的課題
 - ・社会で生きて働く力の育成
 - ・Society5.0社会
- 児童の実態
 - ・素直で活動的
 - ・思考力、表現力が十分ではない
- 保護者の願い
 - ・思いやりと向上心を育みたい
 - ・確かな学力を身に付けてほしい
- 教師の願い
 - ・相手意識をもって対応できる
 - ・夢や志、目標に向かって学び、努力する

海洋教育のねらい ※国連持続可能な海洋科学の10年に向けて

「海洋と人間の共生」(海とともに生きる)についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力などの海洋教育リテラシーを有する人材の育成を目指す。この目的を達成するために、海洋教育は、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を推進する。

本校の海洋教育「海と生きる探究活動」の目標

- 「海と生きる」気仙沼の地域、環境、産業、文化に関心を持ち、自分とのつながりとかかわりに目を向けながら意欲的に課題を解決することができる児童を育てる。
- 自分の「問い」をもち、課題について学ぶ必要性と道筋を理解しながら他者と協働して学習を進め、自分の生活の在り方を深く考える児童を育てる。
- 学ぶ目的や内容に応じた探究の仕方やまとめ方、表現の仕方を工夫しながら、自分の考えを豊かに表現する力や筋道立てて分かりやすく説明する力を高める。



教科学習等と海洋教育との往還による「思考の習慣化」「価値の行動化」

- 教科領域との関連
- 各教科や道徳、特別活動での学習や体験を通して課題意識(問い)を持ち、つなぎ、ふくらませる。
 - ※国語…読解力と表現力
 - ※社会…社会的な見方・考え方
 - ※理科…科学的な見方・考え方
 - 総合的な学習の時間での体験的・探究的な学習を生かす。
 - 生活科での学習の経験を生かす。

各学年の「海と生きる探究活動(思考と行動のドリル)」のねらい・概要	
3年(50)	海と生きる地域 「鹿折・気仙沼に残したい宝～人・自然・もの～」 鹿折・市の人々が守ってきた海にかかわる自然・伝統文化・養殖など参加・体験を生かした実感的な探究を通じて、それらの価値を考え、今自分たちにできることを実践する。
4年(50)	海と生きる環境 「生命をつなぎ、生命を支える鹿折川」 鹿折川の水の恩恵を、多様な生命が育まれている「環境」の視点と、稲作・防災など「生活」の視点から探究し、その豊かさを守るために自分たちに今できることを実践する。
5年(60)	海と生きる産業 「未来につながるぼくらの海郷学」 震災で壊滅的な被害を受けた造船業、水産加工業を中心に、ふるさとの復興と創造に向けた地域の人々の熱い思いと水産業を通じて世界とつながる気仙沼の水産業の現状を探究することで、「海と生きる」気仙沼とは何かを考え、自分たちにできることを実践する。
6年(61)	海と生きる自分、未来 「海と生きる気仙沼の魅力発信プロジェクト」 復興と発展に向かう気仙沼の将来像について、水産業の魅力と課題の視点から探究する学習を通して、自分たちと産業、地球環境、国際協調での関係性、互恵性を多面的・多重的に捉え、自分たちにできることを個またはグループで提案し、実践行動につなげる。

- 地域・関係機関との連携
- 人のつながり、家庭・地域とのつながり、他地域・大学等とのつながりを大切にしたい
 - ※行政間、企業間、市民間、校種間
 - 地域素材の教材化と学習環境の積極的な活用
 - 他の海洋教育パイオニアスクールやユネスコスクールとの交流
 - ※学校間、地域間

地域リソースの教材化

- 地域リソースの開発と効果的活用
 - ・地域のひと・もの・ことに進んでかかわりをもつため、学区周辺の自然や人材、行事等の学習素材を調査し整備する。
- 教材化のコンセプト
 - ・各教科や総合的な学習、特別活動との関連から地域のひと・もの・ことへ児童の課題意識がつながるように教材化する。
 - ・人や自然、産業との出会いやふれ合い、道徳科などで培った心情をさらに深めるように教材化する。
 - ・課題を解決する目的と必要性、自分たちの生活とのつながりの自覚を促し、学んだことの発信・実践へと広げ深められるように教材化する。

プロジェクト型の課題探究プロセス

- (1)「課題意識・課題設定」の段階
 - ・教科学習の見方・考え方の発展として
 - ・総合的な学習の時間の拡充・深化として
 - ・行事等特別活動への主体的なかかわりから
 - ・生活の中での気づきや疑問を生かして
 - ・様々な体験や問題から
- (2)「計画・探究」段階
 - ・なぜ調べるか(目的・意義)
 - ・どこで、何について、どのような方法で調べるか(対象・方略・プロセス)
 - ・誰に、どのように伝えるか(相手意識)
 - ・何に取り組み、どうするか(実践行動)
- (3)「まとめ・表現・発信・行動」段階
 - ・成果や感想、意見を自分の言葉でまとめる
 - ・まとめたことをもとに交流する(共有)
 - ・学んだことを生かして提言する(主張)
 - ・自ら行動し、周囲に働きかける(変容)

指導方法・指導体制マネジメント

- 教師の適切な指導
 - ・児童の興味関心、課題意識、学習状況等に応じた(生かした)適切な指導
- 学びを深める単元づくり
 - ・必然性(意義や価値)とつながり(系統性と学びの文脈)のある探究単元の創造
- 学習形態の工夫
 - ・課題意識を生かした個人探究
 - ・課題別グループによる協働での取組
 - ・学年の枠を超えた異学年での取組
- 指導体制の工夫
 - ・地域のGTの積極的な活用
 - ・大学や専門機関による指導・助言
 - ・TTによる連携・指導
- 学習環境の工夫
 - ・ICT(タブレット)活用と整備
- 評価の工夫 パフォーマンス・ルーブリック

3年『海と生きる探究活動』年間指導計画デザインシート（プログラムチャート）

単元名	鹿折の宝～人・自然・もの～【50時間】	テーマ	歴史民俗、水産資源、食文化	関連教科等	総合的な学習の時間、国語、社会、理科、学校行事
総括目標	鹿折地区の人が守り続けてきた自然・伝統・産業などを体験的に学び、自分たちが自然の恩恵を受けて生活していることに気づく。また、活動を通して自然や伝統、産業を大切にしようとする態度を育む。				
身に付けたい資質能力	<p>【知識及び技能】・・・気仙沼市や鹿折地区に、昔からある伝統文化や自然産業を知り、それらに携わっている人々の思い等を理解することができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】・体験的・探究的に情報を収集し、課題解決に向けた自分の考えをもつことができる。 ・自分やグループで設定した探究課題についての考えを、相手や目的に応じて分かちやりやくまため、表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力・人間性等】・自然や身の周りの生活に興味・関心・疑問をもち、進んで活動しようとする。</p>				
学期	1学期（4～7月）				
探究過程	<p>課題設定（問題・理由） 知識及び技能</p> <p>とらえる【F】 ～情報の読解力～</p> <p>判断する【I】 ～科学的に思考・吟味する力～</p> <p>切り拓く【S】 ～能動的に学ぶ姿勢、価値を生み出す感性、探究力～</p> <p>つなぐ【H】 ～対話力・志～</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>				
探究活動（海探）	オリエンテーション				
探究内容エッセンス	<p>学習の見通しをもちよう（1）時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年間の学習の流れをつかむ。 <p>課題設定（個）【第1次】</p> <p>鹿折・気仙沼の宝を見つげよう①【第1次】</p> <p>鹿折・気仙沼の宝とは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然 ・食（魚、米、ワカメ） ・伝統行事（浪板虎舞、ひなまつり、天旗まつり） <p>※海に関係する事柄について調べることを確認する。 【4月】</p>				
【生命】生態系多様性水産資源食文化健康歴史民俗国際協調	<p>探究活動【第1次】（一斉・グループ）</p> <p>鹿折・気仙沼の伝統行事を調べよう①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○天旗学習【5月】 <ul style="list-style-type: none"> ・天旗の意味、柄に込められた思い、柄の種類を知る。 ○浪板虎舞【5、6月】 <ul style="list-style-type: none"> ・虎舞の意味、込められた思いについて知る。 <p>【教科等との関連】</p> <p>【国語】メモを取りながら話を聞こう（2） 【課外】「天旗まつり」参加は任意</p>				
【環境】気候変動大気循環地形地質海洋資源海洋汚染観光居住	<p>行動・発信・振り返り【第1次】</p> <p>鹿折・気仙沼の伝統行事を調べよう②【第4次】</p> <p>○天旗と浪板虎舞について学習したこと、グループごとにまとめる。</p> <p>○学習を比較し、どちらも海（安全祈願、大漁祈願、海風など）とつながりのある文化に気付かせる。</p> <p>【教科等との関連】</p> <p>【国語】調べて書こう、わたしのレポート（4）</p>				
【安全】防災減災領土領海海上輸送法規条約	<p>課題探究【第2次】</p> <p>鹿折・気仙沼の宝を見つげよう【第2次】</p> <p>○1学期の活動の振り返りと、夏季休業中のみなとまつりについて話し合い、再度、鹿折・気仙沼の宝は何かを考える。</p> <p>課題探究【第2次】（探究課題別グループ・個）</p> <p>鹿折・気仙沼の宝を見つげよう【第2次】時間</p> <p>対話・発表・共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べたことを発表しよう ・グループごとに、探究したことを、写真などを使って模造紙にまとめる。自分たちが調べたやり方を発表しよう。 <p>対話・発表・共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べたことを発表しよう ・グループごとに、探究したことを、写真などを使って模造紙にまとめる。自分たちが調べたやり方を発表しよう。 <p>【教科等との関連】</p> <p>【国語】グループの話し言葉を決めよう（3） 【社会】店ではたらく人（2） 工場の仕事（5）</p>				
	<p>課題探究【第2次】</p> <p>2学期を振り返ろう【第2次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小浜漁港でワカメの刈り取り体験をする。（講師：熊谷さん） ○伝統文化を大切にすることや、自分たちが自然の恩恵を受けて生活していることを、どう伝えるか考える。 <p>【教科等との関連】</p> <p>【国語】外国のことをしようか いしよう（2）</p> <p>行動・発信・振り返り（グループ）</p> <p>発表会をしよう【第3次】時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ○調べたことを発表しよう ・参観日で、保護者に学習成果を発表する。 ・1年間の学習を振り返り、感想をまとめたり、新たな課題を見付けたりする。 <p>【教科等との関連】</p> <p>【国語】外国のことをしようか いしよう（2）</p>				

3学期（1～3月）

発信（発表・提言・行動）

学びに向かう力・人間性等

つなぐ【H】
～対話力・志～

切り拓く【S】
～能動的に学ぶ姿勢、価値を生み出す感性、探究力～

判断する【I】
～科学的に思考・吟味する力～

とらえる【F】
～情報の読解力～

知識及び技能

オリエンテーション

学習の見通しをもちよう（1）時間

1年間の学習の流れをつかむ。

課題設定（個）【第1次】

鹿折・気仙沼の宝を見つげよう①【第1次】

鹿折・気仙沼の宝とは何だろう。

自然

食（魚、米、ワカメ）

伝統行事（浪板虎舞、ひなまつり、天旗まつり）

※海に関係する事柄について調べることを確認する。【4月】

課題設定【第1次】（一斉・グループ）

鹿折・気仙沼の伝統行事を調べよう①

天旗学習【5月】

天旗の意味、柄に込められた思い、柄の種類を知る。

浪板虎舞【5、6月】

虎舞の意味、込められた思いについて知る。

【教科等との関連】

【国語】メモを取りながら話を聞こう（2）

【課外】「天旗まつり」参加は任意

行動・発信・振り返り【第1次】

鹿折・気仙沼の伝統行事を調べよう②【第4次】

天旗と浪板虎舞について学習したこと、グループごとにまとめる。

学習を比較し、どちらも海（安全祈願、大漁祈願、海風など）とつながりのある文化に気付かせる。

【教科等との関連】

【国語】調べて書こう、わたしのレポート（4）

課題探究【第2次】

鹿折・気仙沼の宝を見つげよう【第2次】

1学期の活動の振り返りと、夏季休業中のみなとまつりについて話し合い、再度、鹿折・気仙沼の宝は何かを考える。

課題探究【第2次】（探究課題別グループ・個）

鹿折・気仙沼の宝を見つげよう【第2次】時間

対話・発表・共有

調べたことを発表しよう

グループごとに、探究したことを、写真などを使って模造紙にまとめる。自分たちが調べたやり方を発表しよう。

【教科等との関連】

【国語】グループの話し言葉を決めよう（3）

【社会】店ではたらく人（2） 工場の仕事（5）

課題探究【第2次】

2学期を振り返ろう【第2次】

小浜漁港でワカメの刈り取り体験をする。（講師：熊谷さん）

伝統文化を大切にすることや、自分たちが自然の恩恵を受けて生活していることを、どう伝えるか考える。

【教科等との関連】

【国語】外国のことをしようか いしよう（2）

行動・発信・振り返り（グループ）

発表会をしよう【第3次】時間

調べたことを発表しよう

参観日で、保護者に学習成果を発表する。

1年間の学習を振り返り、感想をまとめたり、新たな課題を見付けたりする。

【教科等との関連】

【国語】外国のことをしようか いしよう（2）

4年『海と生きる探究活動』年間指導計画デザインシート（プログラムチャート）

単元名 包括目標	山・川・里・海の生命をつなぐ鹿折川【50時間】	テーマ	生態系、大気循環、海洋汚染	関連教科等	総合的な学習の時間、国語、社会、理科、業前活動							
	鹿折川流域に住む人々の生活の仕方を見つめ、鹿折川の水の恩恵を受けて人を含む多くの生き物のいのちが育まれていることを知る。水辺の環境を守るために、自分たちでできることを考え実践しようとする心情を育む。			SDGs 関連	気仙沼市 2次総合 計画関連							
身に付けたい資質能力	【知識及び技能】 ・地域の自然環境や社会環境に目を向けながら、川の水が地域の田や工場と関わりのあることを理解することができる。 ・探究課題の解決に必要な情報を収集し、それらを整理・分析する技能を身に付けることができる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・環境保全のために、自分たちができていることを考えることができる。 ・自分やグループでの考えを、地図やレポートに表露して、分かりやすく発表することができる。 【学びに向かう力・人間性等】 ・探究課題解決のために、友達と協力し合いながら情報収集したり、集めた資料を整理・分析したりしてまとめようとする。 ・学んだことを進んで日常生活に生かそうとする。				【主な連携機関と内容】 ・気仙沼市役所環境課 ・米農家村上俊一さん・鹿折公民館館長 ・気仙沼自然塾 ・宮城教育大学陣方准教授 ・気仙沼グリーンヒルセンター・終末処理場 ・水山養殖場 山信さん							
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学期	1学期（4～7月）			2学期（8～12月）			3学期（1～3月）					
探究過程	課題設定（問題・理由） 科学的に思考・吟味する力～ 判断する【I】 ～科学的に思考・吟味する力～											
育みたい資質能力（学力）	知識及び技能 とらえる【F】 ～情報の読解力～											
探究活動（海探）	オリエンテーション 一年間の見通しをもう(2)時間 ・鹿折川が海につながっていることを知り、鹿折川について学習することに関心をもつ。 ・学習の見通しをもつ。											
探究内容 リソース	探究活動（一斉）(第1次) 鹿折川はどんな命を育んでいるのだろうか？ 鹿折川から環境を考えよう①(5)時間 ・鹿折川の流れについて知る。(3時間) ・市役所環境課の方の講話 ・鹿折川の水質、生物環境、川の役割、流域の土地利用等、各自課題を設定する。 ・鹿折川の水を利用する農家を調べよう①(2時間) ・稲を発芽させ、苗を育てる。 ・成長した苗の観察を行う。 鹿折川から環境を考えよう②(7時間) ・鹿折川の水質調査を行う。 ・鹿折川上流(白山地区)の生物・水質の調査を行う。 ・宮城教育大学の棟方先生を招き生物調査を行う。 ・分かったことをまとめよう。 ・分かったことをまとめよう。											
【環境】	第一次探究課題の設定・調査（一斉・グループ） 探究課題を見よう(1)時間 ・第一次探究課題を設定する(1時間) ・鹿折川の水質と生態系を保護するためにできることを調べる。 ・山と川をつなぎ、海の豊かさをもたらす川の動きを理解し、水産資源の保護や豊かな海を守るためにできることを考える。 ・鹿折川の水質を調査し、防災減災のためにできることを考えよう。											
【安全】	第一次行動・発信・振り返り 調べたことを発表しよう(4)時間 ・第一次探究課題についてまとめ(3時間) ・テーマ毎に調べたことをまとめる。 ・模造紙に資料などを貼り、発表原稿を作成する。 ・発表会をしよう(1時間) ・学級の中でポスター発表会をする。 ・川と海のつながりが分かり、川の環境を守ることが海の環境を守ることにちなむことを理解させる。											
【環境】	第二次課題探究（探究課題別グループ） 鹿折川から環境を考えよう②(8・5)時間 ・終末処理場を見学し、海を汚さないよう下水をきれいに仕組みや働く人々の思いを知る。 ・「森は海の恋人」運動について、鳥山重篤さん・信さんの話に行き、豊かな海とはどのような海か知る。 ・鹿折川下流(鹿折地区)の生物・水質、水辺の環境を調査し、分かったことをまとめる。 ・グリーンヒルセンターを見学し、ごみ処理の仕方やゴミの種類を知り、減らせるゴミがあることに気付く。働く人々の思いを知る。 ・鹿折川の流れから河口まで、川の全体の姿を捉えて、これまでの調査や見学から分かったことをまとめる。											
【環境】	第二次 対話・発表・共有 発表会をしよう(6)時間 ・調べたことを整理しよう(4時間) ・グループごとに、探究したことをグループや画像などを使って、ポスターや地図にまとめる。 ・ポスターにまとめ発表しよう(2時間) ・自分たちができていることを考え、活動計画を立てて、参観日に保護者や地域の方に発表する。											
【環境】	第三次課題探究【発表】(個) 発表会を振り返る(2)時間 ・探究課題を修正する。(1時間) ・補充探究の見直しをもつ。(1時間) ・環境に配慮した生活の仕方を知り、自宅や学校で実践したことを振り返り、まとめる。											
【環境】	第三次行動・発信・振り返り(個) 調べたことを発信しよう(8)時間 ・家族や3年生等、身近な人々に伝える。(7時間) ・一年間の学習を振り返り、感想をまとめたり、新たな課題を見つけたりする。(1時間)											

5年『海と生きる探究活動』年間指導計画デザインシート（プログラムチャート）

単元名	世界につながるぼくらの海郷学【60時間】	テーマ	生態系・多様性・水産資源・食文化・国際協調 気候変動・防災減災・海洋汚染	関連教科等	総合的な学習の時間、国語、社会、理科、学校行事
総括目標	震災から9年が経過し、以前のようないびつな町並みや水産関連会社等が戻りつつあるこの鹿折地区について、故郷復興へ向けた地域の人々の熱い思いと、水産業を通して世界とつながっている鹿折のよさを「ひと・もの・こと」の視点からみつめ、「海と生きる」ふるさとを気仙沼について自分の考えをもち行動できる児童を育む。			SDGs 関連	気仙沼市 2次総合 計画関連
身に付けたい資質能力	【知識及び技能】・・・気仙沼市や鹿折地区が抱える課題が、身の回りの地域のみならず、地球規模での自然・社会環境の変化に起因していることを理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】・・・気仙沼市や鹿折地区が抱える課題を解決するために向かふ必要なのかを、学んだことを多角的・多面的に考えて表現することができる。自分やグループで設定した探究課題についての考えを、学校内外の人々に広くわかりやすく情報発信することができる。 【学びに向かう力・人間性等】・・・探究課題解決のために学校外の他者と協働し、対話的に考えを深めようとする。探究課題解決に主体的に取り組む、学んだことを進んで日常生活に生かそうとする。				【生活連携型学習内容】 ・東京大学海洋生物資源学研究所（気仙沼） ・鹿折水産加工組合（気仙沼） ・気仙沼市環境課（気仙沼） ・鹿折水産加工組合（食・農） ・みらい造船所（船） ・みらい造船所（船） ・みらい造船所（船） ・みらい造船所（船） ・みらい造船所（船）
学期	1学期（4～7月）	2学期（8～12月）	3学期（1～3月）		
探究過程	課題設定（個・班） 知識及び技能	課題設定（体験・見学・観察・実験・調査・情報収集・分析・根拠・整理） 思考力・判断力・表現力等	発見（発表・報告・行動） 学びに向かう力・人間性等		
育みたい資質能力（学力）	とらえる【F】 ～情報の調力力～	判断する【I】 ～科学的に思考・吟味する力～	切り拓く【S】 ～能動的に学び姿勢、価値を生み出す感性、探究力～	つなぐ【H】 ～対話力・感～	
探究活動（海探）	（オリエンテーション） 一年間の見通しをどう（1）時間 ・4年生での学習を振り返る。 ・意見と理由を区別して、正しく聞き取ることを学ぶ。	課題探究【第1次】（一斉・グループ） 課題探究【第1次】（一斉・グループ） 探究課題を設定しよう（1）時間 ○1次探究課題を設定する（1時間） 【予想される課題】 ・なぜ、気仙沼にカツオなどの魚が多く水揚げされるのか。 ・漁船はどのように漁をするのか。 ・水産加工品の製造工程を調べよう。 ・漁船にはなぜ外国人が乗船しているのか。 ・気仙沼の海が豊かなのは、潮目が近くにあるから。 ・気仙沼に外国人が乗船しているのは外国から日本に勉強をしにきているから。	ガイダンス【第2次】（探究課題カテゴリの吟味） 1学期を振り返ろう（1）時間 ○1学期の学習を振り返る（1時間） ・1学期の第一次課題について振り返り、第二次課題を設定する。 課題探究【第2次】（探究課題別グループ・個）	課題探究【発展】（グループ・個） 海洋サミットを振り返って（2）時間 ○課題を修正する（1時間） ・海洋サミットで他地域、他校の発表を聞き、自分の探求課題を振り返って修正・発展・補充を行う。 ○海とつながる産業と私たちの生活（1時間） ・海とつながる産業と私たちの生活について考える。 ・京都議定書に基づいて環境保護活動に取り組んでく組について考える。 ・造船業の課題（後継者問題等）について考える。 ・多文化理解と私たちの町の変容について考える。 ・これからの産業の在り方と自分たちの生活について考える。	
探究内容 【サイエンス】	気仙沼の水産資源を調べよう①（11）時 気仙沼と海はどんなつながりがあるのだろうか？	気仙沼の水産資源を調べよう②（25）時間 ※他教科の時間も含む（社8・国3） A環境 課題探究（グループ・個） ・舞浜森里海研究所の崑山重篤・信さんの講話（体験学習） ・丹羽教授（東京大学海洋アライアンス）の講話 ・須賀教授（東北大学）の講話 B国際 課題探究（グループ・個） ・マクロ延縄船や水産加工場の外国人労働者 ・漁船の航路等、気仙沼との地理的なつながり ・SDGsとの関連（岸線並上国の産業基盤形成に向けた気仙沼企業の取り組み）・外国人交流会 C漁業 課題探究（グループ・個） ・マクロ延縄船の船内見学（北かつ葉田氏） ・みらい造船所見学 ・シーラス号乗船体験 ・出船送り D食・加工 課題探究（グループ・個） ・鹿折水産加工協同組合冷凍庫見学 ・水産加工場見学（気仙沼ばいり、ミヤカン） ・水産加工場の外国人労働者との対話 ・スローフードについて調べる D船 課題探究（グループ・個） ・みらい造船所の製造工程調査 ・気仙沼向洋高等学校との交流（シーラス号乗船） ・マクロ延縄船の乗船体験 ・海上輸送（国土交通省）について調べる	対話・発表・共有 海洋サミットでもサミットで発信しよう（10）時間 ○調べたことを整理しよう（5時間） ・議論に対して2つの立場に別れ、互いの主張とその理由を明確にしながら計画的に討議をする。 ・資料から情報を読み取り、読み取った情報を活用して、文章を書いたり選択したりすることができよう。 ○調べたことや実践したことをポスターにまとめ発信しよう（5時間） ・個人探究課題について調べたことを発表する。（動機・課題・方法・内容・成果・課題） ・発表したことを振り返り、疑問に思ったことや、さらに調べたいことをまとめる。	行動・発信・振り返り（グループ・個） 海のフォーラムin鹿折（6）時間 ○調べたことをまとめよう（4時間） ・ポスター発表の準備をする。 ・ポスターの他にCMやパンフレット等を作成する。 ○調べたことや実践したことをポスターにまとめ発信する（2時間） ・個人探究課題について調べたことを発表する。（動機・課題・方法・内容・成果・課題） ・友達の発表を聞き、意見交換を行う。（ハナレティスカッション）	
【生命】 生態系 多様性 水産資源 食文化 健康 歴史民俗 国際協調					
【環境】 気候変動 大気循環 地形地質 海洋資源 海洋汚染 観光居住					
【安全】 防災減災 領土領海 海上輸送 法規案約					

6年『海と生きる探究活動』年間指導計画デザインシート（プログラムチャート）

<p>単元名 海で復興「気仙沼の魅力」発信プロジェクト 【60時間】</p> <p>テーマ 生態系・多様性・食文化・気候変動・海洋汚染・防災減災</p> <p>関連教科等 国語、社会、理科、音楽、道徳、学級活動、学校行事</p>	<p>総括目標 震災で大きな被害を受けた気仙沼市及び鹿折地区の復興と魅力について調べる活動を通して、自分たちと自然環境、海とのつながりについて考えを深め、鹿折・気仙沼のまちをよりよくしていくために自分たちができることを進んで実践していこうとする心情を育てる。</p> <p>身に付けたい資質能力 【知識及び技能】・・・気仙沼が抱える問題を知り、よりよい気仙沼（鹿折）にするために、どのようなことが必要か、実践を通して理解することができ、 【思考力・判断力・表現力等】・・・探究活動を通して、問題につなげる解決策を、適切な方法で情報収集や整理・分析を行いながら見つけたり、分かりやすくまとめて発信したりすることができる。 【学びに向かう力・人間性等】・・・地球規模で起こる課題を気仙沼・鹿折に当てはめながら、自分のこととしてとらえ、実践を通してよりよい気仙沼（鹿折）について考えることができる。</p>	<p>1学期（4～7月）</p> <p>課題設定（問題・理由）</p> <p>知識及び技能 とらえる【F】 ～情報の読解力～</p> <p>判断する【I】 ～科学的に思考・吟味する力～</p>	<p>2学期（8～12月）</p> <p>課題探究（体験・見学・観察・実験・実証・情報収集・分析・根拠・整理）</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p> <p>切り拓く【S】 ～能動的に学ぶ姿勢、価値を生み出す感性、探究力～</p>	<p>3学期（1～3月）</p> <p>発信（発表・提言・行動）</p> <p>学びに向かう力・人間性等 つなぐ【H】 ～対話力・志～</p>	
<p>探究活動（海探）</p> <p>探究内容 エッセンス 【生命】 生態系 多様性 水産資源 食文化 健康 歴史民俗 国際協調</p> <p>【環境】 気候変動 大気循環 地形地質 海洋資源 海洋汚染 観光居住 【安全】 防災減災 領土領海 海上輸送 法規条約</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>1年間の見直しをもと （1）時間 ・5年生で学習した気仙沼市・鹿折の海の学習を想起する。 ・今年度は、まちづくりがテーマになり、個人探究を進めることを知る。</p> <p>課題設定（個）【第1次】 気仙沼市の魅力について調べよう（6）時間 「海と生きるまち」とはどんなまちなのだろう？ ○震災復興・企画課の方の話聞く ・市役所の復興企画課に話を聞く。 ・「スロワード都市宣言」を行った気仙沼の魅力について考える。 ○移住してきた人から魅力について聞く ・他地域から見た気仙沼の魅力について知る。 ・魅力と自然の豊かさ、人の思いについて考える。 ○調べたことを整理し、学習の見直しをもつ。</p>	<p>課題探究【第1次】（一斉・グループ）</p> <p>探究課題を設定しよう（1）時間 ○第一次探究課題を設定する 〈予想される探究課題〉 ・「スロワード」とはどのような食のことだろう。 ・豊かな自然に育まれた新鮮な食材やそれを生かした料理を調べよう。 ・海のまち「気仙沼」と山間部のまちを比較して違いを考えよう。 ・海とのつながりを生かして、水産業を営む人について調べよう。 ・気仙沼のよさ、みんなに伝えたいよさは何か考えよう。</p>	<p>ガイダンス【第2次】（探究課題カテゴリーの吟味）</p> <p>2学期の学習の見直しをもと（1）時間 ・これまでの学習を振り返り、第二次探究課題を設定する。 課題探究【第2次】（探究課題別グループ・個） 気仙沼市の魅力について調べよう②（27）時間 課題探究（課題探究別グループ） オリジナルレシピを作り ○気仙沼の食材を使用したオリジナルレシピを考える。 ・気仙沼市の海の幸（カツオ・サワラ・ツブ・フカヒシ）を使ったレシピを家庭で作り、気仙沼の食の豊かさについて考える。 ○リモート発表会 ・会津若松市で食育に携わる山際博美さんに自分たちが考えたオリジナルメニューを発表しアドバイスをいただく。</p>	<p>探究旅行（課題探究別グループ）</p> <p>調査・分析・行動 ○気仙沼の魅力「豊かな食」を支える人について考える。 ・漁業（北部鯉鮒漁業協同組合） ・造船業（みらい造船） ・加工業（ミヤカン） ・料理人（まぐろ屋・プランチ） ○気仙沼の食を守るために ・地球温暖化の影響（丹羽教授、須賀教授の講話） ・コロナ禍の影響について （外国人研修生、インディアン・ミャンマー） ・後継者不足と高齢化問題 調査・行動 ○気仙沼の食を守るために自分たちができていることを考える ・自分たちができることを考え行動する。</p>	<p>課題探究【発展】（グループ・個）</p> <p>発表会を振り返って（4）時間 海と生きる気仙沼、海との共生について考えを整理する。 ○課題を修正・整理する。 ・これまでの学習を踏まえて、海との共生について話し合う。 ・学んだことを個人でレポートにまとめ、卒業論文として集約する。</p> <p>行動・発信・振り返り（グループ・個） 海のフォーラムin 鹿折（6）時間 「海とのつながり」について考える ○調べたことをまとめよう ・ポスター、スライドの修正をする。 ・発表の形態を工夫しながら資料を作成する。 ○実践したことを発信する ・個人探究について調べたことを発表する。 ・発表を聞き合い、意見交流をする。</p>

第1学年1組 海洋教育（生活科）学習指導案（略案）

1 単元名 みんなのこうえんであそぼう「おおしま・うみたんけん」

2 研究の視点

(1) 視点1 教科・領域との関連を明確にした指導（横断的）

ア グループごとの発表の際に、大島での活動の写真や貝殻の本物、貝殻と紙粘土で作った海の思い出作品などを見せながら、楽しかったことを思い出せるようにする。

(2) 視点2 探究サイクルの活用（探究的）

イ 海の匂いや波の音、砂の手触りなど、五感で得た気付きから海への理解を深め、海に親しみをもたせることで、様々な事象と出会う期待感と学習意欲を高める。また、終末の振り返りでは、友達の発表を聞いて、自分との違いや友達の良さを考えられるように、ワークシートを使用する。

3 本時の指導（5/5）

(1) 小単元名 楽しかったことを伝えよう

(2) 本時のねらい 海での活動を振り返り、気付いたことや楽しかったことを友達と交流する活動を通して、海の自然を生かして遊ぶ楽しさを想起し、海への親しみを深めることができるようにする。

(3) 準備物 教師 大型テレビ、マイク、「うみ」CD、活動の画像、ホワイトボード
 児童 発表模造紙、貝殻、紙粘土作品

(4) 指導過程

段階	主な学習内容	教師の ◯発問 ◯指示 ・予想される児童の活動	・教師の働きかけ (※研究の視点に基づく手立て)	評価 (方法)
導入 5分	1 大島・小田の浜での活動を振り返る。	○大島でどんなことをしましたか。 ・波の音を聞いた ・貝殻を拾った ・砂の造形遊びをした ・「うみ」を歌った		
展開 30分	2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ① おおしまのうみであそんで、たのしかったことをはっぴょうしよう。 </div> 3 楽しかったことを発表する。	○大島で遊んで楽しかったことを発表しましょう。 ① きれいな海 A ・児童4名 きれいな海 B ・児童4名 ② 波の音 A ・児童3名 波の音 B ・児童3名 ③ 貝殻 A	・貝殻と紙粘土で作った海の思い出の作品や貝殻の実物を見せ合わせ、貝の種類の高さや貝の名前に興味をもたせる。 視点1 ア ・海の匂いや波の音、砂の手触りなど、五感で得た気付きから海への理解を深め、海に親	海の特徴に気付いて、発表することができたか。(発表)

		<ul style="list-style-type: none"> ●児童 3名 貝殻 B ●児童 3名 貝殻 C ●児童 4名 ④ 砂の造形 A ●児童 4名 砂の造形 B ●児童 3名 	しみをもつことで、次の海での学習への期待感と学習意欲を高める。 視点 2 イ	
終末 10分	4 発表会を振り返り、思ったことをワークシートに書く。 5 「うみ」の替え歌を歌う。	○発表したことを振り返って、思ったことをワークシートに書きましょう。 □友達の発表については、発表の技能ではなく、発表の内容や気付きの良さに目を向けさせる。 ・大島での活動の画像を見ながら、「うみ」の替え歌を歌い、次の海での活動に期待をもたせる。		自然の海の様子（音、匂い、手触り等）に気付くことができたか。 自分との違いや友達の良さに気付いたか。 (ワークシート)

(5) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">おおしま・うみたんけん</div>	発表順 ①きれいなうみ ②なみのおと ③かいがら ④すなのぞうけい	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">たのしかったことをつたえよう</div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;">発表模造紙</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;">発表模造紙</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 80%;">発表模造紙</div>

第4学年1組 海と生きる探究活動学習指導案（略案）

1 単元名 「山・川・里・海の生命をつなぐ鹿折川」

2 研究の視点

(1) 視点1 教科・領域との関連を明確にした指導（横断的）

ア 課題解決の必要感をもたせるために、鹿折川の写真や鹿折川上流と下流の水質の違いが分かる具体物を比較して提示し、水質汚染の問題を自分事として考えられるようにする。

(2) 視点2 探究サイクルの活用（探究的）

イ 鹿折川の水を守る具体的な改善策や取組につながる話し合いを促すために、思考ツール（枝分かれ型のステップチャート）を活用することで、考えを整理させ、児童相互の意見の交流や共有化を図る。


3 本時の指導（13/13）

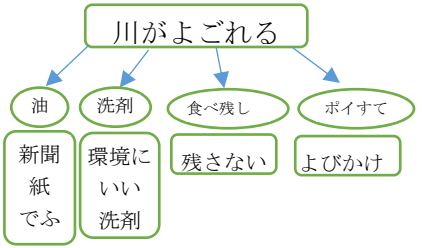
(1) 小単元名 鹿折川から環境を考えよう

(2) 本時のねらい 地域社会の一員として、鹿折川の環境を改善するために、自分にできることを考えることができる。

(3) 準備物 タブレット型パソコン テレビモニター 模造紙（表と座標軸）
付箋紙（2色） 川の水 写真

(4) 指導過程

段階	・主な学習内容	形態	教師の○発問 □指示 ・予想される児童の活動	・教師の働きかけ ※研究の視点に基づく手立て	【評価】 (方法)
導入 10分	<p>1 鹿折川の現状を知り、水質の悪化が自分たちの生活へどのような影響を与えるか考える。</p> <p>・鹿折川上流と下流の水質データや、川の水を比較して、気付いたことを発表する。</p>  <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>① 鹿折川を守るために、自分ができようことを考えよう。</p> </div>	一斉	<p>○水質調査では、鹿折川の上流と下流は、全国の2,470本の川のうちそれぞれ何位だと思いますか。</p> <p>○川の水を比較して気付いたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下流の水は油が浮いている。 ・上流の水はきれい。 <p>○このまま水質の悪化が続くと、自分たちの生活にどんな影響があると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の魚が食べられなくなる。 ・きれいな川に棲む生き物が見られなくなる。 <p>○未来にきれいな鹿折川を残すために、どのようなことが必要ですか。課題を作りましょう。</p>	<p>・鹿折川の水質データや川の水を提示し、地域の環境に対する問題意識をもたせる。</p> <p style="text-align: center;">【視点2-ア】</p> <p>・児童の言葉から課題につなげるようにする。</p>	

<p>展開 30分</p>	<p>3 川が汚れる原因について、思考ツールを用いて整理する。 ・川が汚れるという結果とその原因を整理できるようにクラゲチャートを使用する。</p>  <p>4 川の水をきれいにするために、自分ができる取組を付箋に書く。 ・取り組めることについて、各自の考えを書き出す。</p> <p>5 付箋を表に貼り、共有する。 ※黒板に4枚の表を貼っておき児童が一人ずつ移動して付箋を貼るようにする。</p> <p>6 考えた取組を、川をきれいにするのに効果的な順に貼り替える。 7 それぞれの取組が環境の改善につながるかどうか検討する。</p> <p>8 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 一人一人の毎日の取組によって鹿折川を守ることができる。 </div>	<p>個人</p> <p>個人</p> <p>一斉</p>	<p>○川が汚れる原因にはどんなものがありましたか。 ・油を流すから ・洗剤 ・食べ残し ・ごみのポイ捨て ・工場の排水</p> <p>○川の水をきれいにするために、できる取組を付箋に書きましょう。 ・食べ残しを減らす。 ・環境にいい洗剤を使う ・必要のないものは買わない。 □考えた取組について、当てはまる場所に貼りましょう。</p> <p>□川をきれいにするために、効果的だと思う順に並び変えましょう。 ○この取組で十分でしょうか。よりよい方法を考えて付け足しましょう。 ・調べ学習で、ゴミ拾いでは、ゴミは減らないということがあった。</p> <p>○みなさんの取組が環境を守ることにつながります。行動につなげましょう。</p>	<p>・クラゲチャートの上段には川が汚れるといった結果、中段には、その原因、下段には、改善の取組について付箋紙に書いたものを貼る。</p> <p>・書く内容に困っている児童がいれば、これまで学習したことや収集した資料を見返しながら参考にさせる。 ※ 模造紙の表を活用して、考えた取組について、意見の交流・共有化を図る。 【視点1-イ】 ・考えた取組について座標軸を使って、川をきれいにするために効果的な順番に並べさせる。【視点1-イ】</p> <p>・自分が考えた取組をまとめとしてワークシートに記入させる。</p>	<p>【観察】 (発言) (ワークシート)</p>
<p>終末 5分</p>	<p>9 次の学習内容を知る。</p>	<p>一斉</p>	<p>○次の学習では、今日考えたことを取り組んでいくための計画を立てます。</p>	<p>・実際に計画を立てることを知らせ、意欲を高める。</p>	

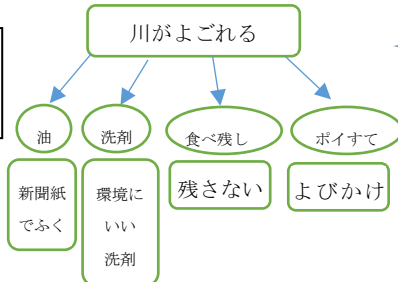
(5) 板書計画

10 / 15

⑧ 鹿折川の環境を守るために、自分にできることは？

鹿折川の上流と下流の写真

水質調査のデータ



油	洗剤	食べ残し	ポイすて
↑	↑	↑	↑
↓	↓	↓	↓

⑨

第6学年1組 海と生きる探究活動学習指導案（略案）

1 単元名 「気仙沼市の魅力について考えよう」

2 研究の視点

(1) 視点1 教科・領域との関連を明確にした指導（横断的）

ア 収集した情報を整理させるために、付箋を用いて様々な事象とのつながりを考えさせる。

(2) 視点2 探究サイクルの活用（探究的）

ア 震災復興企画課職員の講話，第2次気仙沼市総合計画，新聞等の資料を活用して気仙沼市のまちづくりの課題を考えさせることで，探究的な活動に必要感をもたせ，情報を整理する意欲を高めさせる。

3 本時の指導（5/10）


(1) 小単元名 気仙沼市の魅力について考えよう①

(2) 本時のねらい 震災復興企画課職員の話から，気仙沼市のまちづくりの特徴と課題を整理し，気仙沼市の魅力について考えることができる。

(3) 準備物 PC，モニター，タブレット，付箋（黄・青）

(4) 指導過程

段階	主な学習活動・予想される児童の活動	教師の支援	備考
導入 5分	1 前時の講話を振り返る。	◎ 震災復興企画課の佐藤さんの写真を提示し，講話を想起させる。 ◎ 学習プリントを配付し，本時の見通しをもたせる。	
	2 本時の課題を確認する		
	観 気仙沼市のまちづくりの特徴と課題を整理し，気仙沼市の魅力について考えよう。		
	3 本時の学習の見通しをもたせる。		
展開 37分	4 気仙沼市の特徴について考える。 ・自然を生かした産業（水産業）が盛ん。 ・豊かな自然がある。 ・被災した建物が観光資源になる。 ・カツオ等のおいしい食べ物がある。	◎ 震災復興企画課職員佐藤さんの話を想起し，気仙沼市のまちづくりの特徴をプリントに整理する。ノートを見返しながら，気仙沼市のまちづくりの特徴と課題を整理する。 ◎ 気仙沼市の課題についてそれぞれ考えさせ，青い付箋に書かせる。黒板で分類する。 ◎ 青い付箋の分類した課題をもとに，黄色い付箋に	青い付箋 タブレット モニター 黄色い付箋
	5 気仙沼市の課題について考える。 ・少子高齢化が進んでいる。 ・造船業等の後継者不足が進んでいる。		
	6 課題を解決する方策を考えさせる。 ・ポスターで魅力を伝える。		

<p>展開 37分</p>	<p>7 課題解決につながる気仙沼市の魅力について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少が進む。 →食や自然を通じて観光客や移住者を増やすことはできないか。 ・漁業や造船業の後継者不足が進む。 →魅力を「パンフレット」で発信すれば、漁業に関心をもつ人が増えるのではないか。 →帆布を使ってマイバッグをつくり、気仙沼の魅力を発信すれば、水産業のPRにつながるのではないか。 ・地球温暖化が進む。 →おいしい食材を残さず食べればゴミが減り、温暖化を防げるのではないか。 	<p>解決策を考えさせる。</p> <p>◎ 学習プリントに、課題解決につながる仮説を考えさせる。</p> <p>◎ 数名に考えを発表させ、全体で共有する。</p>	
<p>まとめ 3分</p>	<p>8 本時の学習を振り返る。</p>	<p>◎ 本時のまとめを確認する。</p>	

(5) 板書計画

7/29
気仙沼市のまちづくりについて考えよう

課題 気仙沼市のまちづくりの特徴と課題を整理し、気仙沼市の魅力について考えよう。

少子高齢化

食の魅力をPRする

海洋汚染

海洋プラスチック

↓

マイバッグ運動をする

↓

◎ ○○を解決するために、
すればよいのではないか。

◎気仙沼市の特徴

- ・自然を生かした産業（水産業）が盛ん。
- ・豊かな自然がある。
- ・被災した建物が観光資源になる。
- ・カツオ等のおいしい食べ物がある。

→スローフード

地域の豊かな体験学習と多様な交流を通し、豊かな心を持ち、 ふるさと唐桑を愛する子どもの育成 ～カキ養殖体験等を中心とした探究活動を通して～

◎ 海洋教育の位置付け

本校では、持続可能な社会に生きる児童を育てるために、従来の7つの力を意識しながら、本地域の特色である海をフィールドとして、海洋教育を総合的な学習の時間の柱をして推進している。海洋教育のねらいとする、「海に親しむ」ことから始まり、「海を知る」ことで海への関心を高め、さらに海と人との共生のために「海を利用」しながら「海を守る」ことの大切さを学ぶものである。

◎ 目標

- A 海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通して、海に対する。豊かな感受性や海に対する興味関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んで関わろうとする児童を育てる。
- B 海の自然や資源、人との深い関わりについて関心を持ち、進んで調べようとする児童を育てる。
- C 海の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通して、海の環境保全に主体的に関わろうとする児童を育成する。
- D 水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通した世界の人々との結び付きについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童を育成する。

◎ 海洋教育 年間計画

海洋教育一2 令和2年度 海洋教育 年間活動一覧		①柱となる教科・領域：総合的な学習の時間・生活科 ②関連教科・領域：国語、算数、社会、理科、図工、特活など ※(5.3.5)「ふるさと学習会」の 略称で公民館と学校との連携事業のこと						
		1年 生きものななかよし	2年 生きものななかよし大作せん	3年 ワカメのひみつを探ろう	4年 カキのひみつを探ろう	5年 カキが育つ環境を考えよう	6年 豊かな海を愛しよう	
1 学 期	1学期	<p>サケの稚魚を放流しよう ・サケの稚魚の放流 (ふる学)</p> <p>○「海に親しもう」 ・海岸に行き、漂流物や海藻を拾って、海に親しむ。(幼小連携)</p> <p>○「海に親しもう」 ・海岸に行き、漂流物や海藻を拾って、海に親しむ。(幼小連携)</p>	<p>○「サケの稚魚を放流しよう」 ・サケの稚魚の放流 (ふる学)</p> <p>○「海に親しもう」 ・海岸に行き、漂流物や海藻を拾って、海に親しむ。(幼小連携)</p>	<p>○総合のオリエンテーション ○「ワカメのことを知ろう」 ・計画を立てる。 ・海藻としての生態を調べる。 ・図鑑等で調べたり、家の人から聞いたりする。 ・ワカメについての話を聞く。 →学校支援委員小野寺さんや南三陸町関係者などを招く ・ワカメの採苗作業を体験する。 →学校支援委員小濱さんに教えてもらう。 ・分かったことをまとめて発表する。 ・新しい課題を見付ける。</p>	<p>○総合のオリエンテーション カキ養殖体験オリエンテーション 4・5年 ・学校支援委員 島山政也さんの講話</p> <p>「カキのひみつを探ろう」 ・カキの体の仕組み ・カキの成長のひみつ →宮城県気仙沼水産試験場の方を招いて「カキの解剖教室」 ・カキの養殖の方法を調べよう</p>	<p>○総合のオリエンテーション ○カキ養殖体験の準備 ・耳つり作業の準備(ロープ作り)</p> <p>植樹祭に参加しよう・室積西小と交流しよう① 5・6年 ・森は海の恋人！植樹祭参加 ・室積西小の5年生と自己紹介や学校紹介をして交流する。</p>	<p>○総合のオリエンテーション ・3～5年総合で学んだことの確認 ・テーマ、課題づくり</p> <p>○「唐桑のすばらしさを伝えよう」 ・唐桑のよさと課題を話し合う。 ・よい点をリーフレットにまとめる。</p>	
	2学期	<p>○「石や貝で作ってみよう」(図工) ・海岸で拾ってきた石を使って、図工作品を作る</p> <p>○「やさしい育てよう」 ・サツマイモの収穫 ・大根の栽培</p>	<p>○「サケの稚魚を育てよう」 ・サケの成長や飼育する時の留意点について知る ・観察日記をつける ・「リアスサミット in 唐桑」で説明ができるようになる</p> <p>○「やさしい育てよう」 ・サツマイモの収穫 ・大根の栽培</p> <p>○サケの稚魚を育てよう① ・サケ漁業生産組合職員のお話 ・受精卵の観察 ・水の酸素濃度の記録</p>	<p>○「ワカメの養殖について調べよう」 ・ワカメの養殖について本で調べる。 ・リアスアーク美術館の豊岡さんを講師に招き、ワカメ養殖の歴史等についての話を聞く。 ・学校支援委員小野寺さんを招いて唐桑のワカメ養殖のことについての話を聞き、新たな疑問に答えてもらう。 ・養殖について分かったことをまとめる。</p> <p>○「ワカメ加工工場を見学しよう」 ・工場見学をしながら、新たな疑問の解決を図る ○私たちの産業と文化(社会)見学をする。(ふる学)</p>	<p>○「カキのひみつを探ろう」 ・カキの仕組み、工夫 ・事前、事後、振り返り</p> <p>○「カキの産地や養殖の歴史を調べよう」 ・唐桑のカキ養殖について調べる。 ・漁師さんの思いや工夫を調べる。</p> <p>○私たちの暮らしを支える公共施設の見学(社会) (ふる学) ・館山沖水産見学、ゴミ資源場見学</p>	<p>○「カキが育つ環境を考えよう」 ・事前、事後、振り返り</p> <p>○「カキが育つ環境について発表しよう」 ・事前の計画、発表準備 ・森川海のみつを調べる。 ・森川海のみつについてまとめる。</p> <p>○1年間の振り返りと来年の見通し ・話し合い、まとめ</p>	<p>○「豊かな海のひみつを探ろう」(野外活動) ・森を調べる。</p> <p>○「森川海のみみつを探ろう」 ・森と海の間わりをまとめる。(土壌生物調べ) ・事前、事後、振り返り、発表</p> <p>○「唐桑のすばらしさを伝えよう」 ・月立小、室積西小との3校交流会をする。 ・事前、事後、振り返り</p>	<p>○「唐桑のすばらしさを伝えよう」 ・地域、海外のまちを調べる。 ・地域の人たちの思いを調べる。</p> <p>○「唐桑のすばらしさを伝えよう」 ・オリエンタルアフロウダ等作成 ・事前、事後、振り返り</p> <p>○「唐桑のすばらしさを伝えよう」 ・事前の計画、発表準備 ・テーマの作成、会の運営</p> <p>○「唐桑まちづくり発表会」への参加(代表児童)</p> <p>○「育てたカキをおいしく食べよう」 ・水揚げ、カキむき体験 ・6年親子行事(秋祭体験) ・事前、事後、まとめ、振り返り</p>
3 学 期		リアスサミット in 唐桑 (全校)						
		<p>○リアスサミット発表準備 ○「海産物作り」 ※海の自然史博物館の協力をもらって実施する。</p> <p>○「サケの稚魚を育てよう」 ・2年生からサケの稚魚の育て方を教えてもらった児童たちで、放流まで飼育を引き継ぐ</p>	<p>○リアスサミット発表準備 ○「サケの稚魚を育てよう」 ・水の酸素濃度の記録</p> <p>○「1年生に引き継ごう」 ・サケの育て方や成長について紹介し、サケの飼育を引き継ぐ</p>	<p>○「ワカメのひみつを発表しよう」 ・ワカメについてまとめる。 ・事前の計画、発表準備</p> <p>○「メカブのひみつを発表しよう」 ・小濱さんの作業場までメカブの採取作業を体験する。</p> <p>○1年間の振り返りと来年の見通し ・ワカメのリーフレットを作る。 ・話し合い、まとめをする。</p>	<p>○「カキのひみつを発表しよう」 ・事前の計画、発表準備 ・カキの仕組みと工夫、カキ周辺の生きもの等についてまとめる。</p> <p>○1年間の振り返りと来年の見通し ・話し合い、まとめ</p>	<p>○「カキが育つ環境について発表しよう」 ・事前の計画、発表準備 ・森川海のみつについてまとめる。</p> <p>○1年間の振り返りと来年の見通し ・話し合い、まとめ</p>	<p>○「唐桑のすばらしさを伝えよう」 ・事前の計画、発表準備 ・テーマの作成、会の運営</p> <p>○「唐桑まちづくり発表会」への参加(代表児童)</p> <p>○「育てたカキをおいしく食べよう」 ・水揚げ、カキむき体験 ・6年親子行事(秋祭体験) ・事前、事後、まとめ、振り返り</p>	<p>○「唐桑のすばらしさを伝えよう」 ・事前の計画、発表準備 ・テーマの作成、会の運営</p> <p>○「唐桑まちづくり発表会」への参加(代表児童)</p> <p>○「育てたカキをおいしく食べよう」 ・水揚げ、カキむき体験 ・6年親子行事(秋祭体験) ・事前、事後、まとめ、振り返り</p>

◎ デザインシート（6年生分）

6年 『海と生きる探究活動』年間指導計画デザインシート

単元名	自分たちの未来を考えよう	テーマ	産業、環境、生命、伝統	指導時数	5・5時間 (総合25時間、教科30時間)	関連教科等	SDGs関連	総合的な学習の時間、国語、社会、理科		
総括目標	・唐桑と海の間を見つめ直し豊かで恵まれていることや問題となっていることなどについて調べることを通して、自分たちと自然環境との関連性に気づき、自分の住む唐桑のよりよい未来はもたらん、世界に目を向けて自分のできることややるべきことを提案し、発信しようとする心構えを育む。							SDGs関連		
身に付けたい 資質・能力	【知識及び理解】・・・唐桑(気仙沼)や世界の課題を知り、よりよいまちにするために、どんなことが必要なのかを理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】・・・解決に向けて情報収集、整理・分析して探究したことを分かりやすくまとめ、発信することができる。 【学びに向かう力・人間性等】・・・課題を自分事として捉え、主体的に探究活動に取り組もうとする。 ・・・・よりよい唐桑(気仙沼)にするため、自分たちができようことを考え、実践することができる。							【主な関連機関と内容】・森里海研究所 ・気仙沼市役所水産課 ・唐桑漁協 ・探究学習コーディネーター ・唐桑公民館 ・南三陸・海のビジターセンター ・水産試験場		
4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
オリエンテーション 一年間の見直しをもと (1時間) ・5年時に学習したことを中心に、これまでの学習内容を振り返る。 ・自分が知りたいことや更に追究してみたいことを課題に設定することを知らせる。 ・探究学習を通して「唐桑の未来」について考えていくことを知る。 総合1	課題探究【第一次】(一斉・グループ) (11時間) 探究方法を考えよう(2) ○個人課題の整理とグループ作りを行い、グループの共通のテーマを決定する。 ○それぞれの課題を追究できるように計画、見直しを立てる。 ・課題に関する基本的知識について調べる。 ・校外活動、ゲストティーチャーの活用など ・どんな活動が必要か話し合う。 探究しよう(6) ○計画に沿って調べ学習を進める。 ・森里海研究所 ・気仙沼市役所水産課 ・唐桑漁協 ・探究学習コーディネーター ・唐桑公民館 ・リアスアーク美術館 ・南三陸・海のビジターセンター ・水産試験場 ・宮城教育大学 ・学校支援委員会 情報を整理しよう(3) ○集めた情報をテーマに照らし合わせて整理する。 ・分類する。 ・関連づける。 ・比較する。 ・不足している情報を確認する。 ○探究する内容や方法の見直しを行う。 総合11	課題探究【第二次】(探究課題別グループ・個人) 課題を探めよう(2時間) ○課題探究(第一次)を振り返り、二次課題を再設定する。 ・中間発表で明らかになったことを確認し、課題の確認と解決するための方法を改めて見直す。 総合2	課題探究【第二次】(探究課題別グループ・個人) A 産業(生産、加工、流通) 課題探究(グループ・個人) ・磯焼け、貝毒 ・後継者問題 ・唐桑独自の工夫と努力(養殖の方法・流通) ・漁業者(学校支援委員会)の思い B 生態系(循環、生命) 課題探究(グループ・個人) ・森や川と海の関係(日本、世界の川の比較) ・舞根川の自然環境 ・サケの回遊と栄養の循環 C 環境(汚染、資源、温暖化) 課題探究(グループ・個人) ・海洋ゴミの現状と対策(唐桑・気仙沼・日本) ・マイクロプラスチックと海洋との関係 ・海を取り巻く環境 ・自然保護に向けての提案 D 生活・文化(継承) 課題探究(グループ・個人) ・伝えていきたい文化、伝統、歴史 ・唐桑の自然 ・食文化 ・地域の特性を生かした町づくり 総合5 国5:町の未来をえがこう 社4:日本とつながりが深い国々 理4:地球に生きる 総合5	対話・発表・共有【第二次】 リアスサミットで発表しよう(10時間) ○探究学習を通して得た思いを発信する。 ・唐桑の自然、産業、人、文化と自分との関係をとらえ、自分自身に何ができるかを考え、共に生きる方法を提案する。(効果的なポスター制作、対話を重視した発表方法) ○発表を通して学んだことをまとめる。 ・ポスターセッションで得た手応えや新たにふられた疑問や課題をまとめる。 総合2	課題探究【発展】(グループ・個人) 学習の成果と課題をまとめよう(2時間) ○リアスサミットで明らかになった成果と課題を振り返り、課題をまとめる。 ・成果の検証を行う。 ・新たな課題に対し、今後どのような探究ができるのかを考える。 総合2	探究活動を通して学んだこと(5時間) ○「海と生きる探究活動」を通して学んだことを論文に書く。 ・グループの課題のまとめをもとに個人の課題を振り返る。 ・小学校生活の中で、これまで行ってきた海洋に関する活動や探究学習について振り返る。 ・自分の学習と海との共生、自分たちの未来を関連付けて考える。 国5:世界に目を向けて意見文を書こう				

令和2年度 海洋教育活動実施計画

月	学年	活動名	計画立案担当
4月始め	1・2年	サケの赤ちゃんを海に放そう	ふるさと学習会
5月	4～6年	カキ養殖体験オリエンテーション	海洋教育担当
6月第1日曜	5・6年	唐桑の海を豊かにする活動(植樹祭参加)	ふるさと学習会
6月中～下旬	4～6年	カキ養殖体験	学校支援委員会
6月中旬	3年	わたしたちの産業と文化 リアスアーク美術館と笹かま工場の見学	ふるさと学習会
6月下旬	5年	海辺の自然と生物の調査 ～森・川・海の関わりを学ぶ～	ふるさと学習会
9月下旬	4年	カキ湯処分処理作業	学校支援委員会
10月中旬	6年	唐桑の漁業 ～定置網起こし体験乗船～	ふるさと学習会
1月上旬	6年	カキ水揚げ体験・カキむき体験	学校支援委員会
1月下旬	全学年	リアスサミット in 唐桑	海洋教育担当
2月	3年	ワカメの芯抜き作業体験	海洋教育担当

◎ 今年度の活動の概要

6年生

- 海洋教育の最終段階として、様々な場面で体験や探究学習を通じた学びを発信する。
- 地域の人々が自然を大切にしながら自然を活用するために培ってきた知識や技を学び、自分たちの地域をより深く理解する。
- 唐桑のよさをどのような方法で発信するかを自分たちの課題としてとらえ、唐桑の自然の豊かさや人との関わりを深め、地域の人々の思いを理解し、自身の学び方やものの考え方に生かす。

【主な体験学習】

- 6月 カキ砕き体験・耳つり体験・種はさみ体験サポート
- 7月 海のビジターセンターの方を招いての授業、月立小学校との交流（オンライン）
- 8月 舞根川の調査（5年生と合同で実施）
- 11月 「海洋教育こどもサミット in 気仙沼」でのオンライン発表
- 12月 大牟田市立上内小学校との交流
- 1月 カキ剥き体験、カキ水揚げ体験、「リアスサミット in 唐桑」での会の運営・発表
- 2月 唐桑オリジナルポスター制作



ゴーグルを付けて
カキ砕き体験



ビジターセンターの方を招
いての海の環境の授業



島山信さんを講師に舞
根川護岸工事の見学



月立小学校との交流



宮教大棟方先生を招いての
舞根川の生き物調査



カキ剥き体験を通してカキの成長
を実感

5年生

- カキが育つ唐桑の海のすばらしさを実感する。
- カキのエサとなるプランクトンについて、森川海の結び付きとその環境について考える。
- 海の豊かさは山の豊かさと結び付いていることを理解し、唐桑の海が栄養豊富な理由について気付く。
- サケの採卵体験、飼育観察

【主な体験学習】

- 6月 耳つり体験
- 7月 海辺の自然と生物調査（森里海研究所訪問）
- 8月 舞根川の生き物調査（6年生と合同で実施）

11月 サケの採卵体験



森里海研究所訪問



舞根川の生き物調査



サケ採卵体験

4年生

- カキ養殖について理解を深め、カキの種はさみ（カキ養殖体験1年目）体験を通してカキ養殖の工程を知り、海洋教育の支援者と交流を図る。
- カキの解剖を行い、カキの体の仕組みを観察し成長のひみつを調べる。
- カキ養殖業に携わっている地域の方からカキ養殖に必要なカキ筏の仕組み等を学んだり、乗船した際に、カキ筏の周辺の生物を観察したりする。
- カキ養殖業に誇りをもって取り組む地域の方々の工夫や努力、思いに触れ、自身の学び方やものの考え方に生かしていく。

【主な体験学習】

- 6月 カキ養殖オリエンテーション、種はさみ体験、海の生きもの調べ(カキ筏周辺)
- 7月 カキの解剖
- 8月 唐桑の海を知ろう（探究コーディネーター・支援委員会・海友会の方と語ろう）
- 9月 温湯処理見学



学校支援委員の方々を招いてオリエンテーション



水産試験場の方を講師にカキの解剖



唐桑の海を知ろう

3年生

- 海洋教育の初段階として、ワカメを題材とした学習を進める。
- ワカメの生態についての調べ学習や、唐桑のワカメの養殖業者へのインタビューを通して、課題
- ワカメ以外にも唐桑の宝について探究することで、唐桑には特産物がたくさんあることに気づき地元の産業や環境に興味を持つきっかけとする。

【主な体験学習】

6月 ワカメについての専門家に話を聞く学習



ワカメ養殖の漁師さんに話を聞く会



リアスアーク美術館の方によるワカメの生態の授業

作成したワカメ養殖カレンダー



2年生

- 1年生や唐桑幼稚園の園児と合同で行う馬場の浜での体験活動で、2年生がリーダーとして活動することによって、自分自身の成長に気付き、自信と意欲を持って生活できるようにする。
- サケを卵から飼育して放流する活動を通して、サケの育つ場所や成長の様子を知る。
- サケは自分たちと同じように生命を持っていることに気付き、生き物に対して親しみを持って大切に世話を続けることができるようにする。

【主な体験学習】

7月 1年生や唐桑幼稚園児と一緒に海に親しむ活動

11月 サケの卵・採卵の様子の観察、稚魚の飼育・観察



馬場の浜で磯あそび



サケの採卵の様子見学



周りが白くなった卵は成長しない

1年生

- 2年生や唐桑幼稚園の園児らと馬場の浜での磯遊びを通し、「海に親しむ」体験をする。
- 様々な形や色の石・流木・海藻を拾い集め、それを材料にした作品を制作する。

【主な体験学習】

7月 1年生や唐桑幼稚園児と一緒に海に親しむ活動



シーグラス集め

園児のみんなと生き物さがし



◎ 今年度の成果と課題

成果

今年度、本校の「海と生きる探究活動」のデザインシートを作成するために、総合的な学習の時間と国語科や社会科、理科などの他教科を海洋教育という柱で横断的に進められるよう計画を練ることができた。これまでの体験重視の海洋教育を、児童の学びを高める探究学習となるように見直し、学年によっては、その内容を今年度から取り入れ、自ら進んで行動する児童が増えた。特に6年生は、学んだことから視野を広げ、実際に自分にできることを各自が実行する姿が見られた。様々な体験から総合的に考える力が育ったと感じられる。



「マイクロプラスチック」をテーマに調べた児童は、登校時にゴミを拾いながら登校するなど、行動面でも変化が見られた。



集めたゴミを友達に手伝ってもらいながら分別している様子



「第4回リアスサミット in 唐桑」の運営。地域の支援者から感想をもらった。



閉会の言葉で、「サミット」を締めくくる言葉を当日の様子を振り返りながら話す6年生。

課題


今年度、これまで体験中心となっていたこれまでの海洋教育を見直し、児童の学びを高める探究的な学習「海に生きる探究活動」の作成を行ってきた。正式な実施は来年度からであるが、今年度からその学びのスタイルを生かして取り組んできた。その中で、これまでの体験活動をどのように精選し、さらに探究的課題を設定させていく模索しながらの実践となった。今後は、児童が課題を設定し、探究した成果についてフィードバックをしながら児童に次のステージに進ませることを考慮し、今後も作成した計画を継続的に改善しながら実施していく必要がある。また、インターネットや文献で調べるだけの学習に偏らず、自分で動いて観察したり見学したりするなど、行動することで新たな疑問が生まれるという探究型学習の手順を踏んでいるかどうか、検討しながら学び方をコーディネートする支援の在り方について、指導者の共通理解が必要である。

海洋教育一 令和2年度 海洋教育 年間活動一覽

①柱となる教科・領域：総合的な学習の時間・生活科 ②関連教科・領域：国語、算数、社会、理科、図工、特活など
 ※【ふる学】「ふるさと学習会」の 略称で公民館と学校との連携事業のこと

	1年 生きものななよし	2年 生きものななよし大作せん	3年 ワカメのひみつを探ろう	4年 カキのひみつを探ろう	5年 カキが育つ環境を考えよう	6年 豊かな海を賞しよう	
1 学 期	<p>サケの稚魚を放流しよう ・サケの稚魚の放流【ふる学】</p> <p>○「海に親しもう」 ・海岸に行って、漂流物や海藻を拾って、海に親しむ。(幼小連携)</p> <p>○「海に親しもう」 ・海岸に行って、漂流物や海藻を拾って、海に親しむ。(幼小連携)</p>	<p>○「海に親しもう」 ・海岸に行って、漂流物や海藻を拾って、海に親しむ。(幼小連携)</p> <p>○「海に親しもう」 ・海岸に行って、漂流物や海藻を拾って、海に親しむ。(幼小連携)</p>	<p>○総合のオリエンテーション</p> <p>○「ワカメのことを知ろう」 ・計画を立てる。 ・海藻としての生態を調べる。 ・図書館で調べたり、家の人から聞いたりする。 ・ワカメについての話を聞く。 →学校支援委員小野寺さんや南三陸町阿部さんをお招きする。 →学校支援委員小濱さんに教えてもらう。 ・分かったことを見とめて発表する。 ・新しい課題を見付ける。</p>	<p>○総合のオリエンテーション</p> <p>カキ養殖体験オリエンテーション 4・5年 ・学校支援委員 島山敬也さんの講話</p> <p>「カキのひみつを探ろう」 ・カキの体を探ろう ・カキの成長のひみつ →宮城県気仙沼水産試験場の方を招いて「カキの解剖教室」 ・カキの養殖の方法を探ろう</p> <p>カキ養殖体験をしよう 4～6年 4年：種ばさみ体験 5年：耳つり体験 6年：カキ歩き</p>	<p>○総合のオリエンテーション</p> <p>カキ養殖体験の準備 ・耳つり作業の準備(ロープ作り)</p> <p>植樹祭に参加しよう・富根西小と交流しよう① 5・6年【ふる学】 ・森は海の恋人！植樹祭参加 ・富根西小の5年生と自己紹介や学校紹介をして交流する。</p>	<p>○総合のオリエンテーション</p> <p>・3～5年総合で学んだことの確認 ・テーマ、課題づくり</p> <p>○「唐桑のすばらしさを伝えよう①」 ・唐桑の上と課題を話し合う。 ・よい点をリーフレットにまとめる</p>	<p>○総合のオリエンテーション</p> <p>・3～5年総合で学んだことの確認 ・テーマ、課題づくり</p> <p>○「唐桑のすばらしさを伝えよう②」 ・他地域、海外のまちを調べる。 ・地域の人たちの思いを調べる。</p>
2 学 期	<p>○「石や貝で作ってみよう」(図工) ・海岸で拾ってきた石を使って、図工作品を作る</p> <p>○「やさいを育てよう」 ・サツマイモの収穫 ・大根の栽培</p>	<p>○「サケの稚魚を育てよう」 ・サケの成長や飼育する時の重点について知る ・観察日記を付ける ・「リアスサミット in 唐桑」で説明ができるようにする</p> <p>○「やさいを育てよう」 ・サツマイモの収穫 ・大根の栽培</p> <p>○サケの稚魚を育てよう① ・サケ漁業生産組合職員のお話 ・受精卵の観察 ・水の積算温度の記録</p>	<p>○「ワカメの養殖について調べよう」 ・ワカメの養殖について本で調べる。 ・リアスアーク美術館の豊岡さんを講師に招き、ワカメ養殖の歴史等についての話を聞く。 ・学校支援委員小野寺さんをお招きして唐桑のワカメ養殖のことについての話を聞き、新たな疑問に答えてもらう。 ・養殖について分かったことを見とめる。 ・ワカメの栄養やワカメを使った郷土料理等、ワカメに関係することをさらに詳しく調べる ・分かったことを見とめる</p> <p>○「ワカメ加工工場を見学しよう」 ・工場見学をしながら、新たな疑問の解決を図る</p> <p>○私たちの産業と文化(社会) ・リアスアーク訪問や釜ヶ崎工場の見学をする。【ふる学】</p>	<p>○「カキのひみつを探ろう」 ・カキの仕組み、工夫 ・事前、事後、振り返り ・カキの学習を見とめる</p> <p>○「カキの産地や養殖の歴史を調べよう」 ・唐桑のカキ養殖について調べる。 ・漁師さんの思いや工夫を調べる。</p> <p>○私たちの暮らしを支える公共施設の見学(社会)【ふる学】 ・館山浄水場見学、ゴミ焼却場見学</p>	<p>○「豊かな森のひみつを探ろう」(野活動) ・森を調べる。</p> <p>○「森川海のひみつを探ろう」 ・森と海の間わりを見とめる。(土曜生物館へ)</p> <p>・事前、事後、振り返り、発表</p> <p>他地域と交流しよう② 5・6年生 ・月立小、富根西小との3校交流会をする。 ・事前、事後、振り返り</p> <p>○「他地域の学校と交流しよう②」 ・大牟田市立上内小と交流する。(社会)</p>	<p>○「唐桑のすばらしさを伝えよう②」 ・オリジナルリアスアーク等作成</p> <p>○「カキ養殖の工夫や努力を調べよう」 ・事前、事後、振り返り</p> <p>○「唐桑の豊かな海を感じよう」 ・定置網こし体験【ふる学】 ・事前、事後、振り返り</p>	<p>○「まちづくりについて考えよう」 ・他地域、海外のまちを調べる。 ・地域の人たちの思いを調べる。</p> <p>○「まちづくりについて考えよう②」 ・オリジナルリアスアーク等作成</p> <p>○「唐桑のすばらしさを伝えよう②」 ・参加(代表児童)</p> <p>○「まちづくり発表会」への参加(代表児童)</p>
3 学 期	<p>リアスサミット in 唐桑(全校)</p>						
	<p>○リアスサミット発表準備</p> <p>○「海産物し集をつくろう」 ※ 館の自然史博物館の協力をもらって実施する。</p> <p>○「サケの稚魚を育てよう」 ・2年生からサケの稚魚の育て方を教えてもらったり尋ねたりして、放流まで飼育を引き継ぐ</p>	<p>○リアスサミット発表準備</p> <p>○「サケの稚魚を育てよう②」 ・サケの稚魚の飼育 ・水の積算温度の記録</p> <p>○「1年生に引き継ごう」 ・サケの育て方や成長について紹介し、サケの飼育を引き継ぐ</p>	<p>○「ワカメのひみつを発表しよう」 ・ワカメについて見とめる。 ・事前の計画、発表準備</p> <p>○「メカブの出荷作業体験をしよう」 ・小濱さんの作業場でメカブの並取り作業を体験する。</p> <p>○1年間の振り返りと来年の見通し ・ワカメのリーフレットを作る。 ・話し合い、見とめる。</p>	<p>○「カキのひみつを発表しよう」 ・事前の計画、発表準備 ・カキの仕組みと工夫、カキの周辺の生きもの等について見とめる。</p> <p>○1年間の振り返りと来年の見通し ・話し合い、見とめる</p>	<p>○「カキが育つ環境について発表しよう」 ・事前の計画、発表準備 ・森川海のつながり等について見とめる。</p> <p>○1年間の振り返りと来年の見通し ・話し合い、見とめる</p>	<p>○「唐桑のすばらしさを伝えよう」 ・事前の計画、発表準備 ・テーマの作成、会の運営</p> <p>○「唐桑まちづくり発表会」への参加(代表児童)</p> <p>○「育てたカキをおいしく食べよう」 ・水揚げ、カキむき体験 ・6年親子行事(飲食体験) ・事前、事後、見とめる、振り返り</p>	

3年 『海と生きる探究活動』 年間指導計画デザインシート

単元名	唐桑の「宝」を知ろう	テーマ	伝統文化, 自然, 歴史民族	指導時数 (総合2.5時間, 教科2.0時間)	4.5時間	関連教科等	総合的な学習の時間, 国語, 社会, 理科				
総括目標	唐桑地区の人が守り続けてきた自然・伝統・産業などを体験的に学び, 自分たちが自然の恩恵を受けて生活していることに気付く。 ・学習を通して, 唐桑の人たちの温かさやつながりの強さについて実感し, 自分たちも地域の一員として受け継いでいこうとする態度を育む。					SDGs 関連					
身に付けたい 資質・能力	【知識及び理解】・・・唐桑の宝を, 有形のよさ(自然や住居など)のみでなく, 無形のよさ(伝統や継承など)をも理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】・・・課題解決の方法や手順を考え, 必要な情報を収集・整理することができる。 【学びに向かう力・人間性等】・・・目標を設定し, 課題解決に向けて行動しようとする心情を育む。						【主な関連機関(内容)】 ・早馬神社 ・唐桑御殿 ・唐桑公民館 ・賀茂・御崎神社 ・打ち囃子保存会 ・海友会 ・からくわ夕市				
時期	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学習活動	オリエンテーション 一年間の見通しをもと(2時間) ①一年間の学習の流れをつかむ。 ②唐桑の伝統や自然など, 地域のことについて話を聞く。 (講師:海友会会員, 児童の祖父母) 総合2	課題探究【第一次】(個人)(7時間) 探究課題を考えよう(1時間) ○第一次探究課題を設定する。 設定した課題を探究する方法を考える。 探究しよう(6時間) ○計画に沿って調べ学習を進める。 ・早馬神社 ・唐桑御殿 ・公民館 ・御崎神社 ・打ち囃子保存会 ・海友会 ・唐桑漁協 ・探究学習コーディネーター 社2:市の様子 国6:調べて書こう わたしのレポート	課題探究【第二次】(探究課題別グループ) 1学期を振り返ろう(2時間) ・課題探究(第一次)を振り返り, 二次課題を設定する。 ・唐桑の宝について, もっと詳しく調べる計画を立てる。 総合2	A 行事 課題探究(グループ・個) ○海と関係のある年中行事について調べる。 ・神社のお祭り, 地区や家庭で行われている行事を知り, その行事の由来や込められた思いを聞く。(早馬神社) ・宿地区と大沢地区の小正月の行事を比較する。 ・神社の祭りについて調べる。 ・地区の打ち囃子保存会の方に話を聞いたり体験したりする。 B 住居 課題探究(グループ・個) ○唐桑御殿について調べる。 ・唐桑御殿の歴史について知る。(鈴木實夫さん, 吉田恵吉さん) ・唐桑御殿の見学。(石浜地区小野寺さん) ・様々な唐桑御殿を比較し, 共通点と相違点を調べる。 C 食生活 課題探究(グループ・個) ○唐桑で育てているものについて調べる。 ・唐桑の地形や「やませ」について調べる。 ・「からくわ夕市」にどんな物が出品されているか調べたり, 話を聞いたりする。 ・唐桑の名産品のPR方法を考える。 D 自然(環境) 課題探究(グループ・個) ○唐桑の自然について調べる。 ・大理石海岸や巨釜半造, 折石など, 唐桑の地形の特徴を調べる。 ・観光ボランティアから話を聞き, 思いや願いを聞く。	対話・発表・共有【第二次】 リアスサミットで発表しよう(1.2時間) ①調べて分かったことを整理する。(1) ②発表の計画を立てる。(1) ③まとめる。(4) ④練習する。(3) ⑤リアスサミット(2) ⑥リアスサミットの振り返り(1) 国4:自分の考えを伝えよう 国4:外国のことをしようかいししよう 総合4	課題探究【発展】(グループ・個) 2学期を振り返ろう(2時間) ・伝統文化を大切にす意味や, 豊かな自然, 地域の方たちの温かさや共に生活していることなどを, どう伝えるか考える。 総合2	課題設定【第一次】(個人) 探究課題を設定しよう(4時間) ○唐桑の宝を調べよう① ①唐桑の良さについて, 知っていることを出し合う。 ②家族にインタビューする。 唐桑の宝は何だろう。 ・自然(巨釜半造, 大理石海岸など) ・食(ワカメ, カキ, 魚など) ・伝統文化(マヨイ, 早馬神社幸祭, えびす講など) ・伝統的な家屋(唐桑御殿, 御崎神社など) ・人 ・「結」の文化 総合4	行動・発信・振り返り【第一次】 調べたことを発表しよう(5時間) ○第1次探究課題についてまとめる。(3時間) ・テーマをもとに調べたことを, 新聞やリーフレットなどにまとめる。 ○中間発表会をする。(2) ・発表を聞き合い, 質問をすることで, 新たな課題を見つける。 ・友達の発表から, 唐桑の宝は海(安全祈願, 大漁祈願, 海への敬意)とつながりがあることに気付く。 総合4	唐桑の宝について伝えよう(3時間) ○調べたことを発表する。 ・2年生などの身近な人々に伝える。(2) ・1年間の学習を振り返り, 感想をまとめたり新たに課題を見付けたりする。(1) 総合3		
教科・領域との関連	国4:自分の考えを伝えよう 国4:外国のことをしようかいししよう 総合4										

4年 『海と生きる探究活動』 年間指導計画デザインシート

単元名	唐桑の海の豊かさを探ろう	テーマ	自然 (環境), 多様性, 産業, 食文化	指導時数	4.5 時間 (総合 2.5 時間, 教科 2.0 時間)	関連教科等	総合的な学習の時間, 国語, 社会				
総括目標	唐桑の海の豊かさを盛んなわけを調べることができ、自分たちと自然環境, 社会とのつながりについて理解し, 森・川・海がながる唐桑の町や気仙沼の環境をよりよくしていくために自分たちができていることを考え, 実践していくことができる。	自然	自然 (環境), 多様性, 産業, 食文化	4.5 時間 (総合 2.5 時間, 教科 2.0 時間)	関連教科等	総合的な学習の時間, 国語, 社会					
身に付けたい資質・能力	【知識及び理解】唐桑の海での体験活動を通して, 森とのつながりや海の豊かさを知るとともに, 課題となる事象について理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】唐桑の海の良い点のみでなく, 課題となる点にも目を向けて多面的に探究し, 自分たちの生活と関連付けて考えることができる。 【学びに向かう力・人間性等】探究課題の解決のために, 情報収集したり, 集めた資料を整理・分析したりし, 自分の考えを伝えることができる。	テーマ	自然 (環境), 多様性, 産業, 食文化	指導時数	4.5 時間 (総合 2.5 時間, 教科 2.0 時間)	関連教科等	総合的な学習の時間, 国語, 社会				
時期	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学習活動	オリエンテーション 一年間の見通しをもとう (2時間) ○唐桑のよさについて知っていることを整理する。 ・ KJ 法, ウェビングマップ等 ○唐桑のよさが海と関連のあることから, 唐桑の海の豊かさや地域の人と海との関わりについて学習するという課題を捉え, 一年間の学習の見通しをもつ。 総合 2	課題探究【第一次】(個人) (6時間) 探究方法を考えよう(1) ○個人課題をもとにグループを作り, 共通の探究課題と探究方法について話し合う。 探究しよう(5) ○森川海つながりを調べる。 【予想される課題】 ・なぜ唐桑ではカキの養殖がさかんなのか。 ・なぜカキの成長に川や森(山)が関係しているのだろうか。 ・カキ筏周辺にはどんな生きものがあるのだろうか。 ・植物プランクトンと森川の関係はどうなっているのだろうか。 総合 6	課題探究【第二次】(探究課題別グループ・個人) 1 学期を振り返ろう(2時間) ・課題探究(第一次)を振り返り, 二次課題を設定する。 ・唐桑の海の豊かさややすらしさについて, 今までの活動を通してもっと詳しく調べる計画を立てる。 総合 2	対話・発表・共有【第二次】 リアスサミットで発表しよう(10時間) ○探究して分かったことをまとめ, 保護者や地域の人に発表する。 ・分かったことを整理し, 発表の計画を立てる。(1) ・ポスター, 写真, 実物, 模型などにまとめる。(5) ・発表練習をし, 他のグループの発表を聞き合う。(3) ・リアスサミット(2) ・リアスサミットの振り返りをする。(1) 総合 3	課題探究【第二次】(個人) (12時間) A 自然 (環境) 課題探究 (グループ・個人) ○唐桑の海にはどんな特徴があるのか調べる。 ・内湾と外洋ではどんなことが違うのか, 磯焼けや貝毒の問題, 原因について調べる。 ・リアス海岸について調べる。 ・植物プランクトンとカキとのつながりについて調べる。 B 産業 課題探究 (グループ・個人) ○カキ養殖などに携わる人たちの思いについて調べる。 ・漁業に携わる方はどんな思いをもって仕事をしているのか, 誇りや喜び, 苦労について調べる。 ・課題(海の厳しさ, 後継者問題等)について調べる。 C 食文化 課題探究 (グループ・個人) ○カキやカキの加工品(オイスターソースなど)を使った料理について調べる。 ・地域の方や家族に, どんな料理があるか, 教えてもらう。 ・実際に調理し, 試食してみる。 ・カキの栄養, 調理方法, 旬, 注意点などについて調べる。 D 流通 課題探究 (グループ・個人) ○カキが生産されてから売られるまでの, カキの行方を調べる。 ・カキやカキの加工品などを売っている店を調べる。 ・どんな商品が, どこに, どのように売られているのか, どんな人が買うのかなど, 流通の経路を調べる。 国 4 : 聞いてほしいな心に残っている出来事 国 6 : 「ふるさとの食」を伝えよう 総合 2	課題探究【発展】(グループ・個人) 学習の成果と課題をまとめよう(2時間) ○これまでの活動を通して分かったことを整理し, 唐桑の海の豊かさや, 課題となることをまとめ。(2) ・唐桑の海の周りには, 様々な生きものが生息している。 ・漁業に関係する仕事をしている人が多く, 海と深く関わっている。 ・海産物を使ったおいしい料理がたたくさんある。 ・海で囲まれたすばらしい景観があり, 森川海つながりがある。 ・漁業を継続するには, 様々な課題があり, 解決していかねばならない。 総合 2	探究活動を通して学んだこと(3時間) ○学んだ唐桑の海の豊かさや魅力についてまとめ, 身近な人に発信する。 ・計画を立てる。 ・ポスター, パンフレット, リーフレットなどにまとめる。 ・学校支援委員会や海友会などのお世話になったところへ届ける。 総合 3				

5年 『海と生きる探究活動』 年間指導計画デザインシート

単元名	世界につながる海の「今」を探ろう	テーマ	循環（自然環境）	指導時数	55時間 (総合25時間, 教科30時間)	関連教科等	総合的な学習の時間, 国語, 社会, 理科				
総括目標	<p>・唐桑（気仙沼）と世界の海の現状を探究し、自分たちと自然環境、社会とのつながりについて理解を深め、唐桑（気仙沼）とつながる環境をよりよくしていくために自分たちができることを進んで実践していきこうとする心情を育む。</p>					SDGs 関連					
身に付けたい資質・能力	<p>【知識及び理解】・・・唐桑や気仙沼が抱える諸課題が、身の回りの地域のみならず、地球規模での自然・社会環境から起因していることを理解することができる。 【思考力・判断力・表現力等】・・・地域（気仙沼）が抱える課題を解決するために何か必要かを、多面的・多角的に考え、表現することができる。 【学びに向かう力・人間性等】・・・探究課題解決に主体的に取り組む、学んだことを生活に生かそうとする心情を育む。</p>						【主な関連機関（内容）】・森里海研究所 ・唐桑公民館 ・学校支援委員会 ・唐桑漁協 ・宮城教育大学				
時期	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学習活動	<p>オリエンテーション</p> <p>一年間の見通しをもとろう。 ・4年生までの学習を振り返る。（カキの養殖体験） ・海を取り巻く環境に関して、自分が知りたいことやさらに追究してみたいことを課題に設定する。</p> <p>総合1</p>	<p>課題設定【第一次】（個人）</p> <p>探究課題を設定しよう（4時間） ○自分の興味・関心から課題を絞る。（1） ○課題吟味し、設定する。（3） ・それを知ることにはどんな意味があり、具体的な行動につながる課題か。 【予想される課題】 ・山と海にはどのような関係があるのか。 ・カキの成長に欠かせないプランクトンとはどのような生物なのか。 ・海を汚すゴミは海洋生物にどのような問題を引き起こすのだろうか。 ・地球の温暖化が進むとどのような問題が発生するのだろうか。</p> <p>総合4</p>	<p>課題探究【第一次】（一斉・グループ）（8時間）</p> <p>探究方法を考えよう（2時間） ○個人課題を整理してグループを作り、グループの共通課題を決定する。 ○それぞれの課題を追究できるような計画、見通しを立てる。 ・課外活動やゲストティーチャーの活用など課題探究に必要な活動について話し合う。</p> <p>探究しよう（6時間）→グループ毎 <計画に沿って調べ学習を進める。> ○山と川、海の関係調べ、豊かな海の定義をまとめる。 ○水生生物であるプランクトンの種類を調べる。 ○地球温暖化が及ぼす影響の事例を調べる。 ○海洋汚染の現状とその原因を調べる。</p> <p>国2：知りたいことを聞き出そう 総合6</p>	<p>行動・発信・振り返り【第一次】</p> <p>調べたことを発表しよう（5時間） ○中間発表をしよう。 ・テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。 （テーマについての思い、予想、探究方法、集めた情報、そこから見えてきたことなどを発表する。） ○意見交換をしよう。 ・意見交換を行い、それぞれのグループのさらなる探究活動を促す。出された意見を基に、さらなる探究課題を明確にする。</p> <p>国5：環境問題について報告しよう</p>	<p>（17時間）</p> <p>A 山川海の関係 課題探究（グループ・個人） ○山、川と豊かな海の関係について、より深く調べる。 ・サケなどが回遊してくる豊かな海を探る。 ・唐桑湾の水質と生態系を保護するために、自分たちができていることを考え、活動計画を立てる。</p> <p>B プランクトン 課題探究（グループ・個人） ○豊かな海に関する海の生物プランクトンについて、より深く調べる。 ・川が山の養分を運び、海が豊かになる事や養殖業に携わる人々の思いを知る。 ・豊かな海づくりにするために自分たちができていることを考え、活動計画を立てる。</p> <p>C 気候変動 課題探究（グループ・個人） ○地球温暖化の影響を、より深く調べる。 ・海と大気とのつながりを考え、人間の生活が地球環境へ影響していることを探る。 ・地球温暖化を防ぐために、自分たちができていることを考え、活動計画を立てる。</p> <p>D 海洋汚染 課題探究（グループ・個人） ○海洋汚染について、より深く調べる。 ・プラスチックゴミなどの種類を調べる。 ・自然環境の保護や海洋汚染を防止するため、自分たちができていることを考え、活動計画を立てる。</p> <p>国5：和の文化について調べよう 国3：伝えたい、心に残ることば 社5：水産業のさかんな地域 理4：流れる水のはたらき</p>	<p>課題探究【第二次】（探究課題別グループ・個人）</p> <p>課題への追究を深めよう（2時間） ○課題探究（第一次）を振り返り、二次課題を設定する。（2） ・課題の確認と解決方法を改めて見直す。</p> <p>総合2</p>	<p>対話・発表・共有【第二次】</p> <p>リアサミットで発表しよう（10時間） ○探究して分かったことをまとめ、発表する。 ・調べた動機・課題・方法・内容・成果と課題をまとめる。 ・発表の計画を立てる。 ・発表資料を準備する。（模造紙、イラスト、写真、具体物等） ・発表原稿を準備する。（制限時間に収まるように考える。） ・発表の練習をする。 ・模擬発表会をする。 ・リアサミットで発表する。</p> <p>国3：資料を見て考えたことを話そう 総合7</p>	<p>課題探究【発展】（グループ・個人）</p> <p>学習の成果と課題をまとめよう（3時間） ○個人で課題を振り返る。（1） ・リアサミットでいただいた意見等を参考にし、自分の探究課題を振り返り、修正・発展・補充を行う。 ○グループでテーマを検討する（2） ・個人の成果と課題を持ち寄りグループで設定したテーマの成果と課題について考える。 ・環境に配慮した生活の仕方を考え、各自家庭や学校で実践したいことに取り組む。</p> <p>総合3</p>	<p>探究活動を通して学んだこと（5時間）</p> <p>○学んだことや実践したことをパンフレットにまとめる。（3） ○保護者や身近な人々に伝える。（1） ○一年間の学習を振り返り、自分たちの生活で取り組んだことをまとめ、新たな課題意識を持つ。6年生で追究したい課題に付いても考える。（1）</p> <p>社3：環境を守るわたしたち 総合2</p>		

6年 『海と生きる探究活動』 年間指導計画デザインシート

単元名	自分たちの未来を考えよう	テーマ	産業、環境、生命、伝統	指導時数	5.5時間 (総合2.5時間、教科3.0時間)	関連教科等	総合的な学習の時間、国語、社会、理科
総括目標	<ul style="list-style-type: none"> 唐桑と海の環境を見つめ直し豊かで恵まれていたり豊かでないことなどについて調べ、自分たちと自然環境との関連性に気づき、自分の住む唐桑のよりよい未来はもたらさず、世界に目を向けて自分のできることを提案し、発信しようとする心情を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> SDGs 関連 					
身に付けたい資質・能力	<p>【知識及び理解】・・・唐桑(気仙沼)や世界の課題を知り、よりよい未来にするために、どんなことが必要なのかを理解することができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】・・・解決に向けて情報収集、整理・分析して探究したことを分かりやすくまとめ、発信することができる。</p> <p>【学びに向かう力・人間性等】・・・課題を自分事として捉え、主体的に探究活動に取り組みようとする。</p> <p>・・・よりよい唐桑(気仙沼)にするため、自分たちができていることを考え、実践することができる。</p>	<p>【主な関連機関と内容】・森里海研究所 ・気仙沼市役所水産課 ・唐桑漁協</p> <p>・探究学習コーディネーター ・唐桑公民館 ・南三陸・海のビジターセンター</p> <p>・水産試験場・学校支援委員会</p>					

4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	------	-----	-----	-----	----	----	----

学習活動

オリエンテーション

一年間の見通しをもと(1時間)

- 5年時に学習したことを中心に、これまでの学習内容を振り返る。
- 自分が知りたいことや更に追究してみたいことを課題に設定することを知らせる。
- 探究学習を通して「唐桑の未来」について考えていくことを知る。

総合1

課題設定【第一次】(個人)

探究課題を設定しよう(3時間)

- 自分の興味・関心についてマップで整理する。(1)
- 課題の吟味をする。(2)
 - 何に興味があるか。
 - それを知ることにはどんな意味があるか。
 - 具体的な行動につながるテーマか。
- 調べていく方法は自分で体験できることか。など

【予想される課題】

- 唐桑や世界の漁業は現在どんな問題を抱えているか。
- 唐桑が誇る自然をもっと大切にしたいにはどうしたらよいか。
- 海洋ゴミについて唐桑や気仙沼はどう取り組んでいるか。
- 唐桑の文化をもっと広く発信するにはどんなことができるか。

総合3

教科・領域との関連

課題探究【第一次】(一斉・グループ)
(11時間)

探究方法を考えよう(2)

- 個人課題の整理とグループ作りを行い、グループの共通のテーマを決定する。
- それぞれの課題を追究できるような計画、見直しを立てる。
- 課題に関する基本的知識について調べる。
- 校外活動、ゲストティーチャーの活用などどんな活動が必要か話し合う。

探究しよう(6)

- 課題に対して予想仮説を持つ。
- 計画に沿って調べ学習を進める。

産業、生態系、環境、生活・文化等

- 森里海研究所 ・気仙沼市役所水産課
- 唐桑漁協 ・探究学習コーディネーター
- 唐桑公民館 ・リアスアーク美術館
- 南三陸・海のビジターセンター
- 水産試験場 ・宮城教育大学
- 学校支援委員会

情報を整理しよう(3)

- 集めた情報をテーマに照らし合わせて整理する。
- 分類する。 ・関連づける。
- 比較する。
- 不足している情報を確認する。

○探究する内容や方法の見直しを行う。

総合1 1

行動・発信・振り返り【第一次】

調べたことを発表しよう(3時間)

- 中間発表をしよう。
 - テーマについて調べたことをグループ毎に発表し、聞き合う。
 - 発表について、予想、探究方法集めた情報、そこから見えてきたことなどを視点にして話す。
 - 意見交換を行い、それぞれのグループの活動について見直しを行う。

社2：震災復興の願いを実現する政治

総合1

学習活動

課題探究【第二次】(探究課題別グループ・個人)

課題を深めよう(2時間)

- 課題探究(第一次)を振り返り、二次課題を再設定する。
 - 中間発表で明らかになったことを確認し、課題の確認と解決するための方法を改めて見直す。

総合2

A 産業(生産、加工、流通)

課題探究(グループ・個)

- 磯焼け、貝毒
- 後継者問題
- 唐桑独自の工夫と努力(養殖の方法・流通)
- 漁業者(学校支援委員会)の思い

B 生態系(循環、生命)

課題探究(グループ・個)

- 森や川と海の関係(日本、世界の川の比較)
- 舞根川の自然環境
- サケの回遊と栄養の循環

C 環境(汚染、資源、温暖化)

課題探究(グループ・個)

- 海洋ゴミの現状と対策(唐桑・気仙沼・日本)
- マイクロプラスチックと海洋との関係
- 海を取り巻く環境
- 自然保護に向けての提案

D 生活・文化(継承)

課題探究(グループ・個)

- 伝えていきたい文化、伝統、歴史
- 唐桑の自然
- 食文化
- 地域の特性を生かした町づくり

国5：町の未来をえがこう
社4：日本とつながりが深い国々
理4：地球に生きる
総合5

教科・領域との関連

対話・発表・共有【第二次】

リアスサミットで発表しよう(10時間)

- 探究学習を通して得た思いを発信する。
 - 唐桑の自然、産業、人、文化と自分との関係をとらえ、自分自身に何ができているかを考え、共に生きる方法を提案する。(効果的なポスター制作、対話を重視した発表方法)
- 発表を通して学んだことをまとめ、ポスターセッションで得た手応えや新たに提出された疑問や課題をまとめ、発表しよう。

国5：防災ポスターを作ろう
国3：聞いてほしいこと
国2：さまざまな生き方について考えよう

学習活動

課題探究【発展】(グループ・個)

学習の成果と課題をまとめよう(2時間)

- リアスサミットで明らかになった成果と課題を振り返り、課題をまとめ、
 - 成果の検証を行う。
 - 新たな課題に対し、今後のような探究ができるのかを考える。

総合2

教科・領域との関連

探究活動を通して学んだこと(5時間)

- 「海と生きる探究活動」を通して学んだことを論文に書く。
 - グループの課題のまとめをもとに個人の課題を振り返る。
 - 小学校生活の中で、これまで行ってきた海洋に関する活動や探究学習について振り返る。
 - 自分の学習と海との共生、自分たちの未来を関連付けて考える。

国5：世界に目を向けて意見文を書こう

海洋教育 2020 実践事例



1	唐桑幼稚園	まだまだ知らない海の秘密！ 海の魅力を見つけよう！
2	小泉幼稚園	わくわく うみのたんけんたい ～地域素材に 見て 触れて 感じて～
3	大谷幼稚園	おおやっこ 海のお宝大作戦！ ～地域素材を生かした体験と、 幼児の気づきから広がる遊びを通して～
4	気仙沼小学校	主体的・対話的に深く学び合う児童の育成 ～探究的な見方、考え方を育む海洋教育の授業を通して～
5	松岩小学校	持続可能な海洋社会の実現に向けた新たなスキルの 習得と価値観、姿勢の育成を目指して
6	階上小学校	「豊かな海,気仙沼」 見つめよう,考えよう,気仙沼の水産業 一学校・地域教材の特性を生かした海洋教育の実践一
7	大島小学校	緑の真珠プロジェクト ～見つめよう大島 考えようわたしたちの海～
8	面瀬小学校	自分の考えをもち、行動する児童の育成 ～地域素材の教材化と単元構成の工夫を通して～
9	中井小学校	ふるさとの豊かな海を未来へ ～地域との関わりを通して～
10	小泉小学校	人と海の関わり ～地域の海から世界の海へ～
11	大谷小学校	～海とともにマナンボウ～
12	階上中学校	津波防災・減災について考える ～地域との連携を通して～
13	大島中学校	「30年後の大島に伝えよう」 ～大島の良さを未来に伝えるために、 今の自分にできることを考えよう～
14	面瀬中学校	「海と生きる」気仙沼 ～未来のために私たちにできること～
15	唐桑中学校	「海のまち」唐桑の未来を考える ～まちを知り、どのようなまちを目指し、 そのためにどうしていけばいいのか～
16	大谷中学校	海と生きる大谷地区が元気になるプロジェクトを提 案し行動しなさい

まだまだ知らない海の秘密！ 海の魅力を見つけよう！

◎はじめに

今年度はこれまで行ってきた唐桑の海での活動を通して、海遊びを楽しんだり、色々な生き物に触れたりするとともに、滝浜散策や親子クルージングなど視野を広げ海に親しむ活動を取り入れることで、まだまだ知らない海の秘密・魅力を見つけ、幼児の興味や関心を広げていきたいと考えた。

◎年間計画

・ねらい

様々な視点から海に親しみ海の魅力に気付いたり、海の秘密を発見したりする活動を工夫していくことで、幼児の興味や関心を広げ、好奇心を育てる。

めざす幼児像は以下の二点である。

- ・色々なことに興味や関心をもち、自分なりに試したり、考えたり、調べたりする幼児
- ・体験したことを生かしながら遊びを存分に楽しむ幼児

	活動名	内容
5月～	○馬場の浜遊び ○生き物観察・飼育 ○海の宝物制作	○貝殻やシーグラス探し、生き物との触れ合い、水遊びなど海ならではの遊びを楽しむ。 ○海で拾った物を使い制作を楽しんだり、海で見つけた生き物を観察したり飼育したりする。
8月	○イカの解体ショー ○シーフードカレーパーティー	○海の生き物を調理する過程を見たり、海の幸を味わったりする。
9月	小泉幼稚園との馬場の浜交流	○小泉幼稚園の友達と交流を楽しみ、馬場の浜の魅力を教える。
10月	○松園幼稚園と滝浜交流会 ○気仙沼湾親子クルージング	○馬場の浜とは違う唐桑の海の魅力を感じる。 ○親子で船に乗り海の探検を楽しむ。
11月	○サンマのつみれ汁クッキング ○クルージングごっこ (幼稚園ウィーク)	○クッキングを楽しんだり秋の旬のサンマを味わったりする。 ○親子クルージングの体験を遊びに繋げる。
1月	○漁協見学 ○赤皿貝スープ試食	○海の仕事について学んだり、生き物との触れ合いを楽しんだりする。
2月	○海の幸恵方巻パーティー	○海の食材を使った恵方巻を味わう。

◎活動内容

(1) 松園幼稚園との滝浜交流

今年度は馬場の浜遊びに加え、初めて滝浜にも行き海での遊びを存分に楽しんだ。岩場登りをしたり海の宝物探しをしたり、松園幼稚園の友達と交流を楽しみながら散策を行うことができた。

馬場の浜とは違う海の魅力を感じ、改めて唐桑の海の豊かさに気付き“海が大好き”という気持ちを高めることに繋がった。



海の宝物探し



岩場登り



(2) 気仙沼湾親子クルージング

気仙沼湾親子クルージングでの、大きな船に乗ったり、広い気仙沼の海を眺めたり、カモメにエサをあげたりする体験は幼児の心をワクワクさせる貴重な体験となった。クルージング体験を通し、船に興味をもったり、カモメとウミネコの違いを学んだりと海への興味や関心が更に広がった。その後の遊びにも取り入れ、自分たちで船やカモメを作り、幼稚園ウィークでは保護者や地域の方と一緒にクルージングごっこを楽しんだ。



海を眺める様子



船に興味をもつ様子



クルージングごっこ

(3) 海の幸を味わおう

シーフードカレーや赤皿貝のスープなど海の物を食す機会を多く取り入れた。幼児は海の生き物を調理する過程を見たり、海の食材を使い自分たちで実際にクッキングをしたりしたことで、「どんな味にするんだろう?」「食べてみたい!」と食への意欲が高まった。また、海や漁協で見たワカメや赤皿貝、その時期旬のサンマなどを取り入れたことで、自分たちの食事には海の恵みが日常的に取り入れられていることを改めて感じることでできた。



イカを捌く様子



サンマのつみれ汁を作る様子



自分たちで作ったつみれ汁を食べる様子

◎成果と課題

(1) 成果

- ・海での生き物との触れ合いを通して、海以外の生き物への関心も高まった。図鑑や虫カゴ、飼育するスペースなどを用意したことで、幼児が海や園庭で見つけた生き物について調べ、観察し自分なりに飼育環境を整えたり、大切に育てたりする姿が見られた。
- ・滝浜散策や親子クルージングなど幼児がワクワクするような新たな体験活動を取り入れたことで、生き物以外にも船など、違う視点から海に関心をもったり、その後の遊びに繋げたりする姿が見られた。

(2) 課題

今年度は、新型コロナウイルスの影響で園外での活動が思うようにできないこともあり、当初の計画を改善したり変更したりしながらの実施となったが、今後も地域環境を生かした活動を継続していくとともに、幼児の興味が沸く体験活動を職員間で話し合い、工夫していくことが大切だと感じた。そして、海を通して学びを深めていくために、教師自身が海での経験や海への知識を深めていくことが必要だと感じた。

わくわくうみのたんけんたい

～地域素材に 見て 触れて 感じて～

◎はじめに

本園は気仙沼市小泉地区の高台にあり、川・山・海に囲まれた自然豊かな環境にある。東日本大震災以降、小泉海岸での海水浴の再開や小泉橋の完成等、徐々に復興が進み震災前に戻りつつあるが、海岸沿いには護岸工事のための規制も多い。

海に行ったことのない幼児、家庭での経験から海への関心が高い幼児等海との関わりに差が見られたため、昨年度は海へ出向き、見たり、聞いたり、触れたり、嗅いだり、食べたり等の五感を働かせた体験活動を通して、海に親しみを持てるような活動に取り組んできた。今年度は新型コロナウイルスの影響により、活動内容が精選される中、幼児にとってより身近な地域の海に目を向けながら地域の海の良さに気付いたり、地域の海で働く人に親しみを持ったりすることができるような実践を積み重ねてきた。

◎ねらい

地域の海に関わる体験活動を通し、見たり、聞いたり、触れたりするなど五感を働かせながら存分に遊びを楽しみ、様々な発見や気づきを日々の遊びに生かすことで地域の海の良さに気付く幼児を育成する。また海で働く人との関わりや海の幸を食する機会を通し、地域の海や働く人への親しみの気持ちを持つ幼児を育成する。

◎海洋教育 年間指導計画

○今年度の実践計画

日時	活動名	ねらい	内容
6月 下旬)	「小泉の海で思いきり遊ぼう！」 (全園児) ・小泉海岸(砂浜)で遊ぼう！ ・石割浜(岩場)で遊ぼう！	・五感を活用しながら夢中になって遊ぶ楽しさを味わう。 ・地域の海や海の生き物に触れ、様々な気づきや発見を楽しみながら海への親しみの気持ちをもつ。 ・砂浜と岩場の海の違いに気付く。	「小泉海岸の砂浜遊びをしよう！」 ・砂浜の感触を楽しもう。 ・砂浜を散策してみよう。 ・見つけたこと、不思議に思ったことを調べてみよう。 「岩場の磯遊びをしよう！」 ・岩場を散策してみよう。 ・岩場の生き物との触れ合いを楽しもう。
9月 月上旬	「作業場(蔵内之芽組)を見に行こう！」 (全園児)	・海の生き物との触れ合いを楽しむ。 ・地域の海で働く人の話を聞き、親しみの気持ちをもつ。 ・海で働く人や仕事について興味や関心をもつ。	「海の仕事(蔵内之芽組)を見学しよう！」 ・海の生き物とふれあいを楽しもう。 ・海の先生に「小泉の海では、何が育てているの？どんなお仕事があるの？」聞いてみよう。 ・海のお仕事を見てみよう。
9月 月上旬	「唐桑の海に行ってみよう！」 (年長児)	・様々な海の生き物や海藻などの発見を楽しむ。 ・唐桑幼稚園児との関わりを楽しむ。 ・小泉の海との違いに気付く。	「馬場の浜で遊ぼう！」 ・馬場の浜を散策してみよう。 ・唐桑幼稚園のお友達に教えてもらおう。 ・岩場の生き物との触れ合いを楽しもう。 ・ソーグラスや貝殻を見つけよう。
10月 月上旬	「気仙沼海の市に行こう！」 (全園児)	・海に関わる仕事について、興味や関心をもつ。 ・地域の海で採れる食べ物のおいしさを感じ、感謝の気持ちをもつ。	「海で採れたものを売るお店を見てみよう！」 ・海で採れたものがどのように変身するかお店の人に教えてもらおう。 ・海の食べ物を味わおう。
12月 月上旬	「小泉川のサケを見に行こう！」	・地域の川でとれる生き物について関心をもつ。 ・川で働く人や仕事について、興味や関心をもつ。	「小泉川・サケの孵化場を見に行こう！」 ・小泉川のお仕事見てみよう！ ・サケがどこに行くのか見てみよう！ ・川の先生に「サケはどこに行くの？どうなるの？」教えてもらおう！

体験活動後は、体験を思い出しながら「ごっこ遊び」を展開し、学びを深める。

「小泉海岸ごっこ」「石割浜ごっこ」「蔵内之芽組ごっこ」「馬場の浜ごっこ」「海の市ごっこ」など

◎主な保育実践

【海ってたのしいね】(海に出向く体験活動)

地域の海水浴場である小泉海岸では、砂浜や波の感触を全身びしょ濡れになりながら思い切り楽しむ様子が見られた。石割浜では潮溜まりにいる海の生き物を夢中になって探していた。“海の先生”との出会いもあり、積極的に知りたいことを海の先生に尋ねる姿も見られた。

6月 小泉海岸で遊ぼう！(全園児・砂浜遊び、浜辺散策)

7月 石割浜散策(全園児・浜辺散策、生き物探し)

9月 馬場の浜遊び(年長児・唐桑幼稚園との交流、)



波との追いかっけっこを楽しむ様子



石割浜を散策している幼児



海の先生の説明を興味深く聞く様子

【海のおしごととみてみよう！】(海や川の仕事に触れる体験活動)

地域の漁協である蔵内之芽組を見学し、海の仕事や生き物について海の先生に教えてもらったことをきっかけに、「ここでとれたものはどこにいくんだろう?」という疑問が幼児の中で生まれた。そこで、海の市での体験活動を設定し、幼児と話し合いながら幼児の興味の所在に合わせて、各クラスごとにねらいを立てて海の市を見学した。

- 9月 蔵内之芽組見学 (全園児)
- 10月 海の市見学 (全園児・秋の遠足)
- 12月 サケ捕獲所見学 (全園児)



「プラスとマイナスがある！」
ホヤを観察している様子



「これはどこからきたんですか？」
お店の人に質問する年長児



サケの卵を触っている年少児

【わくわく海の市をつくらう！】(体験活動を生かしたごっこ遊びや活動)

海の市での体験活動からサメや漁師になりきって海ごっこが始まった。その後、それぞれの年齢が興味を持った遊びへと広がっていき、「シャークナゲット屋さん」「お魚・お土産屋さん」「シャークミュージアム」など“海の市ごっこ”へと展開した。

- 9月 わくわく運動会〜うみのたんけんたい〜
- 10月 海ごっこ (サメごっこ, 海の生き物に変身, 海賊), わくわく海の市をつくらう!
- 11月 わくわく海の市オープン!

(年少: シャークナゲット屋さん, 年中: お魚屋さん・お土産屋さん, 年長: シャークミュージアム)



海の市で見たサメのオブジェを再現しようとする幼児



海の市で見た太刀魚などを制作し、販売する年中児



シャークナゲット屋さんごっこを楽しむ年少児

◎成果と課題

(1) 成果

- ・昨年度は小泉海岸に何度も出向き、海を知ることができたが、今年度は石割浜の磯の違いを見つけたり、地域の海で出会う生き物や地域で働く人の身近なモデルである海の先生との出会いを通して、「蔵内之芽組ごっこ」が始まり、「海の先生みたいだね!」「かっこいいね!」「いいなあ」などと呟きながら遊びを広げる幼児の姿が見られた。新しい海での経験から、さらに海への興味が深まり、幼児の「知りたい!」「やってみたい!」を引き出す活動を展開することができた。また、自分の住んでいる地域に対する愛着が湧き、地域が素晴らしいと感じ誇りに思える「こいずみっ子」の育成につながっていくものと思われる。
- ・昨年の経験が生きる体験活動の工夫や、幼児の興味が教師側が丁寧に見取り、子どもたちの呟きから幼児目線でねらいを一緒に考えたことで、各学年に合ったねらいで活動を進めていくことができた。そのことが教師間でのねらいの共有にもつながり、幼児もねらいが明確化されたことで活動の視点やイメージが共有でき、主体的に遊びを進めていく姿が見られた。

(2) 課題

- ・2年間の体験活動から地域とつながる土台作りができた。来年度は地域とのつながりをさらに深めながら地域環境の良さを生かせるような体験活動の工夫をしていきたい。また、教師側も地域を知ろうとする、地域とつながろうとする意識を持ちながら今後の活動を展開していきたい。
- ・各学年にあったねらいや年齢に合わせた活動が大切であると感じた。各学年に合った活動の吟味をしていきたい。また、同じ活動の中でも、幼児の変容を丁寧に見取りながら、今年度の活動とのつながりを持たせた体験活動を精査していきたい。

おおやっこ 海のお宝大作戦！

～地域素材を生かした体験と、幼児の気付きから広がる遊びを通して～

◎はじめに

大谷地区は海や山に囲まれ、自然が豊かな地域である。幼児の生活圏には沼尻海岸や大谷海岸、日門漁港等があり、海がとても身近な環境であると言える。本園では、豊かな地域素材を生かした体験活動を土台としながら、海洋教育を推進している。今年度はそこで幼児が感じた「気付き」から広がる遊びを支えることで、幼児の学びを促したいと考え指導を積み重ねてきた。

◎海洋教育 年間指導計画

●ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで海に関わろうとし、海に対する親しみの気持ちをもつ。 ・海での体験から得た気付きを遊びに生かし、好奇心や探究心を高める。 		
●育てたい 幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の海を愛し、進んで関わろうとする幼児 ・海での体験から得た気付きを表現しながら、遊びを発展させていこうとする幼児 		
<p>「うみだ～いすき」なおおやっこ 海のお宝大作戦！ 【海に親しむ】【海を知る】【海を生かす】</p>			
<p>「うみだいすき！」 大谷・地域のお宝を見つけよう</p>		<p>「うみのことであそぼう！」 自分たちだけの海を作ろう</p>	
<p>「うみのものをたべよう」 宝物を変身させて食べよう</p>			
月	活動名	ねらい	内容
5月	「お魚を観察しよう」	海に対する興味や関心をもつ。	地元で獲れる魚を見たり触れたりする。
6月	「海のようにえん」 ～日門漁港見学～	地域の人への親しみや憧れの気持ちをもつ。 また、地域の海への興味・関心を高める。	地元の日門漁港で突きん棒船と日門網船の見学から、地元で獲れる豊かな魚について知る。
6月	「沼尻海岸散策」 ～年長親子行事～	海への興味や関心をさらに高め、家庭での啓発に生かす。	親子で地元の沼尻海岸での自然物採集や生き物探しを行う。
6月	「幼稚園子どもサミットIN馬場の浜」	地域以外の海に興味や関心を持ち、他園の友達との交流を楽しむ。	馬場の浜散策と思いの交流（見つけたものを見せ合ったり意見交換をしたりする）
6月～ 年間	※ごっこ遊び (年長:突きん棒ごっこ 年中:海のお宝探し 年少:お魚になろう) 「きらきら海のお宝夏祭り」 「きらきら海のお宝運動会」	体験活動で気付いたことを自分なりに工夫しながら表現したり、友達と思いを伝え合ったり協力したりする中で、さらに思いや考えを深める。	体験活動で気付いたことを自分なりに工夫しながら表現する。 ※「ごっこ遊び」→「夏祭り」→「運動会」の流れは、幼児の気付きを大切に見取って設定する。
7月	「寒天ゼリー」実験	海の食材が、様々な形に変わる不思議さや面白さに気付く。	寒天の匂いを嗅いだり、水に溶ける様子を楽しんだりしながら調理を行う。
10月	「大島遠足」	気仙沼地域の海への興味・関心を高める。	小田の浜散策・亀山散策を行う。 気仙沼で捕れた食材を使った料理の試食（シャークナゲット・鱈ちゃんコロッケ）
10月	「沼尻海岸散策」 ～全園児での散策～	自然物採集や生き物観察を通して、地元の海への興味や関心を高めると共に、地域への親しみの気持ちをもつ。	沼尻海岸での自然物採集や生き物探しを行う。
11月	「道の駅 大谷海岸 見学」	地域で捕れた海産物が、様々な工夫で売られていることを知る。	道の駅大谷海岸を訪れ、自分たちが使う鮭の買い出しを行う。
11月	「つみれ汁づくり」	自分たちがいつも食べているものが、海のものであることを知り、関連性に気付いたり、大切に食べたりする。	鮭の解体の見学やつみれ作りを行う。
1月	「向洋高校見学」	近隣地域の水産業に関する学校の見学を通して、海への様々なかかわり方に興味や関心をもつ。	向洋高校の施設見学と思い出缶作りを行う。
1月	「かまぼこ作り」	自分たちで海のもを調理することで、関連性に気付いたり大切に食べたりする。	かまぼこ作り体験を行う。

◎主な保育実践

(1) 【うみだいすき！～大谷・地域のお宝を見つけよう～】

・沼尻海岸散策（6月・10月）

今年度は沼尻海岸での散策活動を取り入れた。沼尻海岸ではウミウシやカニ、ヒトデ、ウニ、ヤドカリ等、豊富な生き物との出会いがあった。石をどかすと幼児でも簡単に生き物を見つけることができ、どの幼児も夢中になって生き物採集をおこなった。「お宝探してみたいだね」「おもしろい」とつぶやく幼児の姿が見られた。

・日門漁港見学（6月）

「日門網」と突きん棒「第八宝洋丸」の皆さんにご協力いただき獲れた魚と船上見学をさせていただいた。当日は大きなマンボウが獲れ、目の前でさばいてもらい、園に帰ってから試食を行った。命のつながりを感じ、大事そうに食べる姿が印象的だった。



箱メガネで真剣に探す

ウミウシを嬉しそうに触る幼児の姿



マンボウを見つめる姿

大事そうに食べる姿

(2) 【うみのことであそぼう！～自分たちだけの海を作ろう～】

・日門ごっこ（突きん棒ごっこと日門網ごっこ）（6月～）

日門漁港見学から帰ってきた幼児は、すぐに「突きん棒つくりたい」とつぶやいた。幼児の思いをくみ取りながら材料を準備すると、自分たちで話し合っ制作を進める姿が見られた。進める中で「メカジキの本当の大きさとどのくらいなの」「本物くらいのおおきなものを作りたい」などと話す姿が見られたため、図鑑やメジャーも準備した。そのことを知った保護者からの協力もあり、本物のメカジキの「フン」も園内で観察し、制作とごっこ遊びに役立てることができた。



自分たちで作った大きなメカジキを釣り上げる瞬間

(3) 【うみのものをたべよう！～宝物を変身させて食べよう～】

・つみれ汁づくり（11月）

前日に自分たちで道の駅大谷海岸を訪れ鮭の注文を行った。その鮭を園内で目の前でさばいてもらおうと「すごい」「ここが赤いと新鮮な証拠」などと興味津々で見ていた。その後はつみれを自分たちで作って食べた。とても大事そうに食べる姿が印象的だった。



つみれを嬉しそうに食べる姿



本物と背比べをして大きさを実感する姿

◎成果と課題

(1) 成果

- ・今年度も大谷地区の環境を生かしながら活動を行うことができた。幼児は地域の海で見つけた自然物を「宝物」と呼び、そのイメージは、1年を通して大切にしながら活動を展開することができた。日門漁港で出会った漁師さんになりきる幼児の姿や、「沼尻には宝物がいっぱいなんだよ」などつぶやく幼児の姿から、この気持ちが土台となって、自分の住む地域を愛する気持ちにつながっていくものとする。
- ・体験活動については新型コロナウイルスの影響により、全園児での活動が難しい場面もあった。そのことから、年長のみで取り組んだものも、写真などを活用して全園児で共有し、「伝え合う」活動を大切にしたい。そのことが海に対するイメージを膨らませたり、自分たちなりの遊びに発展させたりして、「もっと知りたい」「もっと遊びたい」という好奇心や探求心を高めたりするきっかけになっていた。幼児の気付きを丁寧に広げていくことで、学びや活動が大きく広がっていくことを感じた。
- ・「海と食」というつながりでは、日門で捕れたマンボウを目の前でさばいてもらい、食べる体験をしたり、自分たちが大切に作った梅ジュースを組み合わせた梅寒天作りをしたり、シャクナゲトや鱈ちゃんコロケの試食等を通して「海のものっておいしいね」「だいすきだね」「大事に食べたいね」などという気持ちが育まれていったことが感じられた。

(2) 課題

- ・来年度も継続して大谷の地域を生かした活動を行うために、活動の意味づけを考慮した上での地域素材の生かし方や、新たな地域の魅力について、教員同士でさらに練っていきたい。

主体的・対話的に深く学び合う児童の育成

～探究的な見方，考え方を育む海洋教育の授業を通して～

令和2年度 気仙沼小学校 海洋教育全体計画

<全体目標>

海的环境や資源，海を取り巻く人や社会とのつながりについて関心を高め，海と共生しようとする考え方や行動力を身に付けた児童を育成する。

<アプローチを図るSDGs(持続可能な開発目標)>



探究的な見方，考え方を育む海洋教育の授業実践

<実践のキーワード>

つなぐ

海につなぐ

海でつなぐ

海をつなぐ

<カリキュラム・マネジメントの重点>

授業で学んだことや日常生活で見聞きしたことを海と結び付けること。

授業で学んだことと日常生活で見聞きしたことを，海を切り口に結び付けること。

海を介した気仙沼市と他地域や他国との結び付きに気付かせること。

・あわびの開口があつたらしい。

・教科書に生鮮かつお日本一と。今日の新聞にも。

・インドネシア人がたくさんいるらしい。

	柱となる単元と主な学習活動例	目指す児童の姿
第1学年	【国】いろいろなふね ・船の「役目」「つくり」「できること」について学んだことを活用して気仙沼港に停泊している船の特徴を知る。	海での体験や生き物の観察を通して海に興味を持ち，親しもうとする児童
第2学年	【生】まちたんけん ・地域のお店の方との交流	地域の方々との対話を通して，地域の方の努力や，海とのつながりについて気付くことのできる児童
第3学年	【総】海を生かした地域の産業 ～スペシャルフィッシュの謎を追え～ ・サメの生態や加工品の調べ活動 ・観光客に向けたポスターづくり	気仙沼の経済を支える水産業の一つであるサメの製品やサメの生態を調べる活動を通して，サメの持つ用途の広さや，地域への経済効果に気づき，発信しようとする児童
第4学年	【総】防災マップをつくろう ～防災・減災のためにできること～ ・東日本大震災時の学区内の被害状況の整理 ・防災マップの作成，マップ活用方法の構想	安心・安全で環境に優しい町作りという視点で海と人との関わり方を見つめ直すことを通して，持続可能な開発と地域の発展について自分の考えを持つ児童
第5学年	【総】海と人との共生について考えよう ・沿岸部に生息する魚，水揚げされる魚と漁獲量の調査 ・地元の水産加工会社や卸売業者の方の講話 ・海洋ミニサミットの開催	海で起きている様々な環境問題を調べることを通して，自分たちの生活や水産業の課題を見だし，海環境保全に主体的に関わりながら，海と人との共生を目指そうとする児童
第6学年	【総】気仙沼復興プロジェクト ～私のまち 未来の気仙沼～ ・地域の復興状況，海に起因する環境問題の調査 ・これからの海との向き合い方についての提案	気仙沼市の復興に携わる方と意見交換しながら探究的な学びを展開することを通して，これからの自分たちの生き方について考え，海と共生する市民として自分の考えを提案できる児童

海に親しむ学び

海を知る学び

海を守る学び

海を利用する学び

R2海洋教育 学年別 年間カリキュラム (※盛りつぶしなしの箇所は、今後実施できそうな内容)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
第1学年	単元、活動											
第2学年	利用施設、人材											
第3学年												
第4学年												
第5学年												
第6学年												

学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
第1学年				【書】うみ 気仙沼の海は…		【図】かいがら ・貝の採集(海に親しむ)		【図】いろいろなふね ・気仙沼港で見られる漁船を教材に				
第2学年								【生】まちたんけん① ・調べたことのまとめ		まちたんけん② ・発表会		
第3学年										【船】スペシャルフィッシュの題を通して～ ・魚市場見学 シャークミュージアム・シャークスの見学 ・フカヒレ試食 ・まとめ ・発表会		
第4学年										【船】防災マップを作ろう ～防災・減災のためにできること ・災害についての講話 ・学区内の危険箇所の確認・震災伝承館見学 ・まとめ ・発表会		
第5学年										【船】海と人との共生について考えよう ・水揚げされる魚と漁獲量の調査 ・遠洋マグロ船見学 ・亀山、小田の浜、大森公民館		・海洋ミニサミットの開催
第6学年										【船】気仙沼復興プロジェクト～私たちのまちを未来の気仙沼～ ・ポスター作り等の長期講習 ・海洋オンラインサミット・全国海洋オンラインサミット		【船】気仙沼弁当を作ろう ・弁当に盛り込んだ地域食材

各学年の学習活動



1年生 国語科

「いろいろなふね」

気仙沼港で見られる漁船を教材として、サンマ船やカツオ船、サンマ船の写真や説明文から、構造や役割などを読み取り、カードにまとめた。



2年生 生活科

「つたわる広がるわたしの生活」

町探検を行い、魚屋や乾物屋などの仕事内容や商品に対する思いなどを調べ、分かったことをポスターにまとめた。



3年生 総合的な学習の時間

「海を生かした地域の産業」

気仙沼の水産業を支える魚の一つであるサメを教材として、海の市やサメ専門店などに見学に行き、サメの生態や漁の仕方、加工品について調べた。

参観日で、その魅力について発表した。

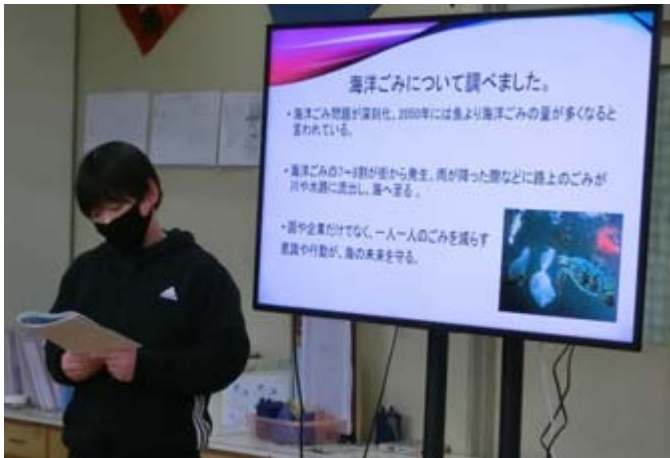


4年生 総合的な学習の時間

「防災マップをつくろう」

自主防災組織の会長や自治会長などと一緒に学区内を歩き、土砂崩れが発生しそうな場所や津波がきそうな場所などを確認した。

調べたことを基に、危険箇所や安全な場所などを書き込んだ防災マップを作成した。



5年生 総合的な学習の時間

「海と人との共生について考えよう」

水産業に関する職場見学や体験などの校外学習を通して、海の豊かさや恵みなどを知り、それらを守るために自分たちができることを考えた。

海洋ごみを減らす取組や気仙沼の豊かな海などを紹介するために、ICT機器を活用してポスターや新聞を作成した。

6年生 総合的な学習の時間

「気仙沼復興プロジェクト」

「海と生きる」を復興のスローガンに掲げる気仙沼において、自分たちができることを考えて発信する活動に取り組んだ。

地元の食材を使ったお弁当作りや内湾地区のお店の魅力を伝えるポスター作りなどを行った。

「海洋子どもサミット」や「全国海洋教育サミット」に参加し、他校と学習したことを交流した。

【成果】

- 身近な地域の自然環境を題材として学習を展開することにより、地域への興味・関心を高める児童が増えた。主体的に取り組む児童が増えているので、次年度にも引き継いでいきたい。
- 自然環境についての問題を自分事として捉え、その解決策を自然と人との共生という観点から探究的に学習しようとする姿が見られた。
- 調べたことをポスターや新聞などにまとめたことで、情報を活用する力が身に付いてきた。
- 地域の歴史や文化、自然に触れたことで地域の魅力に気付き、郷土への愛着が深まった。

【課題】

- 総合的な学習の時間だけではなく、他教科や領域と関連付けて指導ができるように年間指導計画の改善を図る必要がある。
- 質の高い課題を設定させるために、体験活動や見学を充実させるとともに、探究的な学びに合わせて課題を変えていくなど、工夫する必要がある。
- 児童の学習を更に充実させるために、新たな講師やゲストティーチャーなどの人材発掘をする必要がある。

気仙沼市立気仙沼小学校 1年1組 国語科 学習指導略案

単元(題材)の目標		のりもののことを調べよう「いろいろなふね」		
単元(題材)の目標		・事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉え、文章の中の重要な話や文を考えて選び出すことができる。		
本時の指導	本時の指導	・漁船「マグロ船」「カツオ船」「サンマ船」の内容を読み取り、カードにまとめることができる。		
	研究の視点に沿った指導の手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼の漁船の写真を提示し、特徴に気付かせることによって、視覚的なイメージを持って「やく目」「つくり」「できること」を読み取ることができるようにする。 ・「やく目」「つくり」「できること」を表す大事な言葉を確認し、色分けをしながら、情報を整理することができるようにする。 ・学びを確かなものにするために、学習したことを対話形式で確認するとともに、学習感想をノートに記述させる。 ・全文掲示を活用することで、自分の考えを分かりやすく説明させる。 		
	評価規準			
	十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する子供への手立て	
・漁船の内容を読み取り、正確にカードにまとめることができる。	・漁船の内容を読み取り、カードにまとめることができる。	・「やく目」「つくり」「できること」を表す大事な語に注目させ、線を引かせたりカードにまとめさせたりする。		
本時の指導過程 (本時 14 / 14)				
段階(分)	主な学習活動	☆ 留意点 ※ 個への配慮	対話の目的	
つかむ見通す5分	<p>1 前時までの振り返りを行う。</p> <p>○「いろいろなふね」では、これまでどんな学習をしてきましたか。</p> <p>・教科書や本を読んで、乗り物のことについてカードにまとめました。</p> <p>2 本時の学習内容について確認する。</p> <p>□今日は気仙沼にある漁船について、もっと学習します。</p> <p>めあて</p> <p>けんせんぬまにある「ぎょせん」について、カードにまとめよう。</p>	<p>☆前時までの学習が本時の学習にもつながることを確認する。</p> <p>☆気仙沼の漁船「マグロ船」「カツオ船」「サンマ船」の3つの写真を提示する。</p> <p>☆写真を見て、以前学習した「巻網漁船」との違いに気付かせることで、本時への意欲を高めることができるようにする。</p>		
解決する32分	<p>3 「マグロ船」「カツオ船」「サンマ船」について書かれた文章を音読する。</p> <p>□自分がカードにまとめたい漁船を一つ選びましょう。</p> <p>□「やく目」「つくり」「できること」を探しながら読みましょう。</p>	<p>☆児童にとってなじみのない言葉については、写真を活用して説明することで、イメージを持たせることができるようにする。</p> <p>☆初めて読む文章であるため、丁寧に音読するように声掛けをする。</p>		

	<p>4 文章を読み取り、「やく目」「つくり」「できること」に分けて線を引く。 <input type="checkbox"/>自分が選んだ漁船について、「やく目」「つくり」「できること」が書かれている文を探して、線を引きましょう。</p> <p>5 読み取ったことをカードにまとめる。 <input type="checkbox"/>線を引いた「やく目」「つくり」「できること」をカードにまとめましょう。 <input type="checkbox"/>まとめたカードを友達と見せ合ひましょう。</p> <p>6 本時の学習のまとめをする。 <input type="checkbox"/>カードにまとめたことを発表しましょう。</p>	<p>☆全文掲示を活用し、文章に線を引かせる。 ※線を引くことが難しい児童に対しては、「やく目」「つくり」「できること」を表す大事な語に注目させ、一緒に線を引くようにする。</p> <p>☆カードにまとめる時は、文章をそのまま写すのではなく、省略してもよい言葉があることを確認する。 ☆児童同士で、文字の誤りや分りにくいところはないか、確認し合うようにさせる。</p> <p>☆「マグロ船」「カツオ船」「サンマ船」の3つについて、カードにまとめたことを発表させ、共有する。</p>	比較
<p>確かめる 7分</p>	<p>7 カードを読み返して、本時の学習を振り返る。 <input type="checkbox"/>グループごとに、「やく目」「つくり」「できること」を確認しましょう。</p> <p>8 振り返りをする。</p>	<p>☆グループごとにペアを作らせ、「やく目」「つくり」「できること」を対話形式で確認させる。</p> <p>☆本時のめあてについて、「色分けをしてカードにまとめることができたか」を3段階評価で振り返らせる。 ☆「やく目」「つくり」「できること」という言葉を使って、ノートに学習感想を記述させる。 ☆その他の漁船クイズをする。</p>	

気仙沼市立気仙沼小学校 3年1組 総合的な学習の時間 学習指導略案

単元名(題材)名		『海を生かした地域の産業』 ～スペシャルフィッシュのひみつを追え～		
単元(題材)の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・サメの生態, 漁の仕方, サメを使った加工品等について調べる活動を通して, 地域の産業への興味・関心を持つ。 ・フカヒレ以外の商品の開発に至った経緯を地域の方の思いに触れながら調べ, スペシャルフィッシュと呼ばれる理由について自分なりの考えを持ち, 発信できるようにする。 		
本時の指導	本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼の地理的な特徴や地域の特産品等に着目して, 気仙沼市と人と海とのつながりについて考えることができる。 		
	研究の視点に沿った指導の手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住んでいる地域に焦点を当て, 地理的な面や特産品等から気仙沼を見直させ, その特徴について自分なりの考えを持たせる。 ・自分の考えと友達の気付きや考えを伝え合わせることで見方, 考え方を広めさせる。 ・本単元では気仙沼港に多く水揚げされるサメについて学習していくことを確認する。 		
	評価規準			
	十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する子供への手立て	
<ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼の地理的特徴に気付いたり, 知っている特産物等について考えを書き出し, 仲間分けしたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼の地理的特徴に気付いたり, 知っている特産物等について考えを書き出したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真のどこに注目すればいいのか, 特産物とはどのような物を指すのかヒントを与えながら取り組ませる。 		
本時の指導過程 (本時 2 / 13)				
段階(分)	主な学習活動	☆ 留意点	対話の目的	
	<input type="radio"/> 発問 <input type="checkbox"/> 指示 <ul style="list-style-type: none"> ・予想される児童生徒の活動 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 個への配慮 		
つかむ・見通す3分	1. 前時の振り返りを行う。 <input type="radio"/> どんな活動を行ったか覚えていいますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・サメの話 2. 本時の学習内容について確認する。 <input type="checkbox"/> 今日は自分の住んでいる気仙沼のことをどれくらい知っているか確かめたり, 考えや気付きを発表したりします。 <ul style="list-style-type: none"> ・家の周りのことなら知っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 確認程度にする。 ☆ この場では, まだ発表しないことを指導する。 		
解決する37分	3. 気仙沼の航空写真を見て気付いたことを書き出す。 <input type="checkbox"/> 今から写真を見せます。どんなことでもいいので, 分かったことや気付いたことをノートに書いてください。	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 口に出さないことを指導する。 ※ どこに注目すればよいかを指導する。 		

	<p>・何個でもいいですか。</p> <p>4. 分かったことや気付いたことを発表する。 □ 気付いたことを発表してください。</p> <p>5. 気仙沼のイメージを書き出す。 めあて 気仙沼といえば、どのようなものを思い出しますか。ふせんに書きましょう。 ・いっぱい書いていいですか。 ・思いつかない。</p> <p>6. にているものを集めて仲間分けする。 □ にているものを集めて仲間分けをしよう。</p> <p>7. 本時の学習のまとめをする。 □ 考えを発表してください。 ・海のことが多い。 ・サメが有名。 ・魚がたくさんとれる。 ・海が近い。 ・魚が多い。 □ みんなで見出しを考えよう。 気仙沼は、海とのつながりが深い。</p>	<p>☆ 児童が発表したことは似た内容のものを集めて板書する。</p> <p>※ イメージしにくい児童には、「気仙沼で有名なもの」「気仙沼にある建物」「気仙沼でやっていること」「気仙沼にたくさんあるもの」「気仙沼で作っているもの」「気仙沼でじまんでできるもの」「気仙沼でよく見かけるもの」「気仙沼でよくとれるもの」などのヒントを与える。</p> <p>☆ パワーポイントで仲間分けの仕方を説明する。 ※ 仲間分けが難しいときには、まとめに移り、みんなで黒板で考える。</p> <p>☆ 児童が発表したことは似た内容のものを集めて板書する。</p> <p>※ 児童の気づきから導くようにする。</p>	<p>比較</p> <p>比較</p>
確 か め る 5 分	<p>8. 次時の学習を知る。</p> <p>9. 振り返りをする。</p>	<p>☆ 単元名を発表する。</p> <p>☆ 気付いたことや次時への意欲をワークシートに書かせる。</p>	

持続可能な海洋社会の実現に向けた新たなスキルの習得と価値観、姿勢の育成を目指して

～SDGs 14「海の豊かさを守ろう」のための提言における認知学習目標を見据え、児童の探究心を高める学習プログラムの構築～

1 今年度の海洋教育全体計画について

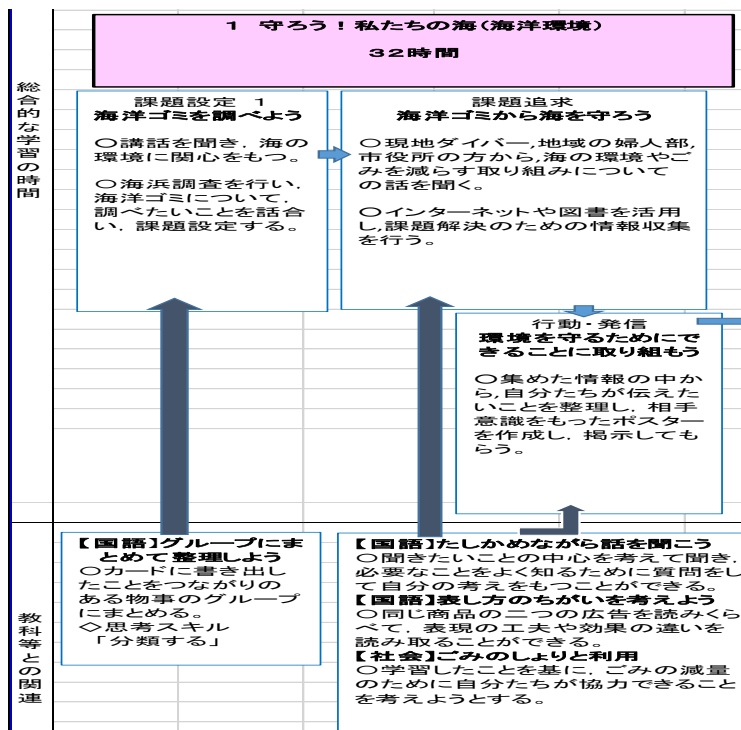
新学習指導要領の実施が開始された本年度より、本校では、ESDの内容を海洋教育の視点で整理を行い、地域と世界、過去と未来を行き来し、海洋リテラシーの習得と探究的かつ柔軟に思考する児童の育成を目指し学習を推進してきた。4月時点で作成した海洋教育全体計画（資料1）を記載する。

2 単元計画について

上記の海洋教育全体計画のもと、4、5年生を中心としたプログラムを構築し、単元構想表（資料2、3）を作成、更に必要に応じてステークホルダーの拡充を行い学習の展開を図った。

3 指導の実際（例 4学年「守ろう！私達の海」）

4年生単元構想 （コロナ禍のため、6月～12月実践）



田中浜でマイクロプラスチック調査



東京海洋大学院 内田准教授による講話



マイクロプラスチックの実物

<本単元で身に付いた力>

(1) 海洋リテラシーの習得

原則5「海洋が豊かな生物多様性と生態系を支えている」原則6「海洋と人間は密接に結びつい

ている」という点について、児童はフィールド調査の実施や各種専門家との講話や対話を通して、学年レベルに応じた知識を取得した。

(2) 価値観の育成

3年生までの学習で海に対する親和性を醸成していた児童が、4年生となり世界的規模で問題視されているマイクロプラスチック問題という海洋の喫緊の課題に体験的かつ専門的に触れる学習であった。この学習を通して、児童は、環境に対する意識、生態系への関心、自分の生活の見直し、また震災後の海の環境の変化を自分事として捉えることができ、「海を守る」意識への価値観の高まりが見られた。

(3) 姿勢の育成（行動化）

学習のまとめとして、児童自身から自分達の学びを学区の人々にも伝えたいという要望が上がった。受動的な児童の多い本校児童が、自ら動き出したのは、初めての事である。児童は、国語科で学習した「効果的なポスターの作り方」を想起し、みんなが買い物をする大型店舗、学区の幼稚園・中学校・支援学校、公民館等に、相手に応じたポスターを準備し、掲示をお願いした。



店舗に掲示するポスターを準備したグループ

4 今年度の海洋教育の成果と課題

成果

(1) 学習プログラムの構築

4年生において「海洋環境」(SDGs 14「海の豊かさを守ろう」のための提言における認知学習目標4)、5年生において「海洋生態系」「海洋環境システム(森と海のつながり)」「海洋と人・産業」(SDGs 14「海の豊かさを守ろう」のための提言における認知学習目標1, 2, 4, 5)について学ぶプログラムを作成し、計画に準拠しながら学習を展開した。コロナ禍ではあったものの、体験や講話を充分取り入れながら、単元のねらいに迫る学習を進めることができた。この1年間の、4, 5年生におけるプログラムの構築は、本校の海洋教育の足場となり、大いなる成果となった。

(2) 多様なステークホルダーの確保と「学び」の多様性の担保

昨年末より、大学との連携を始め、諸専門家とのアクセスを図り、児童の学習に必要とされると考えるステークホルダーを準備していた。また、今年度実際の授業を進めていくと、更なる人材が必要となったが、これまでに培った地域コミュニティや諸専門家と相談を重ね、学習内容に対応した人材を開拓することができた。今年度、海洋教育で本校との連携を行った団体・個人は、20以上となり、児童の学びを本質的な学びへの転換するための重要なファクターとして、次年度以降も連携を図る予定である。

更に、関わっていただいた方々とは、一度の講話や体験ばかりではなく、オンライン等を通して、児童と対話的な学習を進めていくことに快諾していただいている。児童の学習に質の向上に応じて、対話を通じた多様な学びができる体制作りを行った。

(3) 探究型学習の推進

本年度より実施となった新学習指導要領に掲げられている「主体的・探究的学び」の在り方を、児童・指導者が、海洋教育の実践を通して、身に付けることができた。問い直しを重ねる中で

探究の面白さや喜びに触れる姿が見られた。そうした探究型学習を通して、自己肯定感や自己有用感の高まりが見られたことは、児童の大きな変容であった。前述した4年生は、全校児童に向けても、ゴミ削減についてのポスターを校内にも掲示したり、校内放送を活用したCMを流したりと、全校児童に対して環境意識の向上を促す行動も行う姿が見られた。

次年度の改善点

(1) 理論に裏打ちされた実践の必要性

本年度、海洋教育元年であった本校は、「まずやってみる」から始めた。そのため、海洋リテラシーやSDGs 14「海の豊かさを守ろう」のための提言における認知学習目標といった根底の目標は、実践を通しながら理解を図ることとなった。次年度は、1学期早々に全職員で理論の共有を図り、その上で、授業者が本来のねらいを確実に理解しながら学習展開できるようにしていく。

(2) 全学年を通した海洋教育プログラムの策定

本年度に行った4、5年生の海洋教育をベースとし、その他の学年での海洋教育について、新規プログラムの検討を重ねている。特に、本校では、SDGs 14「海の豊かさを守ろう」のための提言における認知学習目標3「気候変動と海洋」については、プログラム策定がなされていない。この目標に対して、児童の実態に即した具体的な授業プログラムを構想中である。

(3) 児童評価の在り方

本年度は、「探究的学習の学び方」に主眼を置き、ルーブリックを作成した。次年度は、本年度の評価方法について良い点を生かしながらも、「海洋教育における探究内容」や「学びへ向かう力」も見取りの観点として加え、児童の探究心を更に向上させると共に学びの質を高めるための評価の在り方について、指導との一体化を図りながら検討を重ねていく。

学校教育目標

志をもち、かしこく、やさしく、たくましく生きる児童を育成する。

- かしこい子
 - ・課題を見付ける ・深く考える
 - ・進んで自分の考えを自分の言葉で発表する
- やさしい子
 - ・思いやりの気持ちをもつ ・自然に親しみ、命を大切にす
 - ・進んで挨拶をする
- たくましい子
 - ・自分の健康課題を知る ・進んで鍛える ・健康を意識した生活をする

- 今日的課題
 - ・多様に変化する社会で生きて働く力
 - ・Society5.0 社会
- 児童の実態
 - ・素直で明朗
 - ・知識や体験が充分ではなく、自己の意見がもてない。
- 保護者の願い
 - ・思いやりをもち、心身共にたくましく育ってほしい。
 - ・確かな学力を身に付けてほしい。
- 教師の願い
 - ・身近な人や自然との関わりを通して、志や探究心をもち生活してほしい。
 - ・自己の意見をもち、相手と対話ができるようになってほしい。

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 学習指導要領
 - 知識・技能
 - 思考力・判断力表現力等
 - 学びに向かう力人間性等
- SDGs
- 海洋基本法
- 第3期海洋基本計画
- 国連持続可能な海洋科学の10年
- 気仙沼市教育大綱

海洋教育のねらい(持続可能な開発のための海洋科学の10年より)

「海と人との共生」についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする、知識、技能、思考力、判断力、表現力等の海洋リテラシーを有する人材の育成することを目標とする。そのために、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を展開する。

本校の海洋教育の目標



- 海を中心とした自然の在り方や人の営みに関心をもち、自分とのつながりやかかわりに対して課題を主体的に捉えて追究する児童を育成する。
- 自分の問いをもち他者との対話を繰り返しながら問いを更新することで、正しい知見をもつと共に自分の生き方について深く考える児童を育成する。
- 豊富な体験活動や地域の大人との触れ合いを通して、探究の仕方や表現の仕方、より良い生き方について学ぶ機会をつくる。

各学年の生活科・総合的な学習の時間における活動

1・2年	<ul style="list-style-type: none"> ○海と親しもう (親しむ) <ul style="list-style-type: none"> ・八幡神社で遊ぼう 広い海を見に行こう ・ゴーゴー大島遠足 砂浜で遊ぼう
3年 (23)	<ul style="list-style-type: none"> ○松岩ともっとなかよくなろう (知る) <ul style="list-style-type: none"> ・松岩の名人や名勝を知ろう 海博士や環境博士、植林名人の話を知ろう
4年 (70)	<ul style="list-style-type: none"> ○守ろう! 海の命 (守る) <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロプラスチック調査をしよう ・気仙沼市海洋プラスチックごみゼロ運動を知ろう ・自分達ができることを考え、行動しよう ○守ろう! 自分の命 (守る) <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災について知ろう ・震災などの災害時の身の守り方を調べよう ・家族や身の回りの人に伝えよう
5年 (70)	<ul style="list-style-type: none"> ○森と海のつながりを考えよう (守る) <ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼の地理的な特徴を理解しよう ・森と海のつながりを舞根森里海研究所に行き調査しよう ・徳仙丈に木を植えよう ・自然環境の保全について考えをまとめよう ○海と生きる (利用) <ul style="list-style-type: none"> ・松岩のワカメ養殖を体験しよう ・気仙沼市の水産業について見学調査をしよう ・終末処理場の仕事を理解しよう ・水産業が抱える課題について考え、意見をまとめよう
6年 (50)	<ul style="list-style-type: none"> ○気仙沼の味を知ろう 伝えよう (利用する) <ul style="list-style-type: none"> ・気仙沼の特産物に触れ、その歴史や地理的背景、流通の仕組みなどを理解し、他者に伝えよう ○未来の松岩を描こう! 紹介しよう! (守る 利用する) <ul style="list-style-type: none"> ・自然を相手にしている先人達と対話をし、志を立てよう ・海洋を中心とした未来の松岩や気仙沼の在り方を考え、自分の考えを発信しよう

地域・関係機関等との連携
<ul style="list-style-type: none"> ○地域リソースの開発と効果的活用 <ul style="list-style-type: none"> ・地域のひと・もの・ことのかかわりの中から、児童課題に即する地域教材を発掘・整理する。 ○幅広いステークホルダー(専門性を要する関係施設)の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題ともいえる児童課題の解決過程にあたり、調査・観察・実験・対話等を通して、確かな学びを援助する。 (例)・ACCU <ul style="list-style-type: none"> ・東京大学 ・東京海洋大学 ・気仙沼水産試験場 ・松岩愛林公益会 ・舞根森里海研究所 ・松岩浅海漁業研究会 ・松岩公民館 ・市立図書館 宮城県立図書館 ・防災センター ・気仙沼市役所 ・白福本店 ○他校種連携・他地域学校連携 <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携や他地域の小学校との連携を図り、多角的で多様な考えに気付く機会を設ける。 ○バイオニアスクールにおける連携

統合的なアプローチによる単元づくり
<ul style="list-style-type: none"> ○生活科・総合的な学習の時間を通して、ストーリー性のある単元を構成する。 <ul style="list-style-type: none"> <単元構成におけるコンセプト> <ul style="list-style-type: none"> ・育成すべき資質・能力・態度を明確にする。 ・気仙沼 ESD コンピテンシーを生かし、学習の価値を明確にする。 ・体験を重視しながら課題解決的で協働的な探究の学びのストーリーをデザインする。 ・単元間や学年間で系統的・発展的につながる単元配置とする。 ・学習の目的や段階に応じた科学的・専門的知識・情報の支援、交流支援、発信・行動化支援を効果的に位置付ける。 ○教科との横断的な関連を図る。(以下例示) <ul style="list-style-type: none"> <国語> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で育成目標とされる言語能力を身に付け、自分の意見を根拠を用いて相手に表現する力を養う。 <算数> <ul style="list-style-type: none"> ・社会事象をデータから知る力を養う。 <社会・理科・家庭> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会事象や自然環境について歴史的・地理的・科学的観点から理解する力を養う。 <図工・音楽> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋を通して感性を育む。

探究型学習の構成要素
<ul style="list-style-type: none"> ○生きて働く知識及び技能の習得 <ul style="list-style-type: none"> ・思考ツールや思考スキルを活用し、思考を習慣化する授業を展開する。 ○探究のスパイラルを構成する授業プロセス <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の問いをもつ ・課題を設定する ・課題に沿う情報を収集する ・情報の整理と分析を行う ・課題に対する意見をまとめ、表現すると共に、発信や行動を行う。 ・振り返りと考えの更新を行う ・新しい問いに向かう ○実感を伴った道徳性の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・先人のたゆまぬ努力、夢や志、自然環境との関わりなど、探究学習を通して人間としての生き方に触れさせる。 ○探究型学習の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックを活用し、学び方の評価を行う。 ○探究学習コーディネーターの活用の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容に一層の深みや広がりを求め、気仙沼市探究学習コーディネーターの活用も必要に応じて視野に入れ、常に新しい出会いや考えを模索する。 ○ICT機器の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインのメリットを生かし ICT を活用できるよう職員研修を行う。

資料2 松岩小 4学年 単元全体構想(プログラムチャート)

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

第4学年で身に付ける力

- ①自分の生活を振り返り、海の環境を保全することや防災についての理解すると共に、探究的スキルを身に付ける。【知識・理解】
- ②災害を含めた海の環境と自分達との関わりをインタビューや調査を通して考えたり表現できる。【思考力・判断力・表現力】
- ③海の環境保全の意識や防災意識を広げるために、自分ができることを実践しようとする。【学びに向かう力・人間性等】

育む気仙沼ESDコンピテンシー

海洋環境や防災に関する情報の読解力、科学的思考力に裏付けられた表現力
協働して環境を保全したり防災の知識を広げようとしたりする感性と志

海洋教育の視点

【環境】 海洋ゴミなどの生活との関連性の理解とその保全意識 <海洋リテラシー6 海と人間は密接につながっている>
【安全】 命を守るための知見と防災意識の醸成

1 守ろう！私たちの海(海洋環境)

32時間

課題設定 1 海洋ゴミを調べよう

- 講話を聞き、海の環境に関心をもつ。
- 海浜調査を行い、海洋ゴミについて、調べたいことを話し合い、課題設定する。

課題追求 海洋ゴミから海を守ろう

- 現地ダイバー、地域の婦人部、市役所の方から、海の環境やごみを減らす取り組みについての話を聞く。
- インターネットや図書を活用し、課題解決のための情報収集を行う。

行動・発信 環境を守るためにできることに取り組みよう

- 集めた情報の中から、自分たちが伝えたいことを整理し、相手意識をもったポスターを作成し、掲示してもらおう。

【国語】グループにまとめて整理しよう
○カードに書き出したことをつながりのある物事のグループにまとめる。
◇思考スキル「分類する」

【国語】たしかめながら話を聞こう
○聞きたいことの中心を考えて聞き、必要なことをよく知るために質問をして自分の考えをもつことができる。
【国語】表し方のちがいを考えよう
○同じ商品の二つの広告を読みくらべて、表現の工夫や効果の違いを読み取ることができる。
【社会】ごみのしよりと利用
○学習したことを基に、ごみの減量のために自分たちが協力できることを考えようとする。

2 守ろう！私たちの命(防災)

20時間

課題設定 2 災害や防災について調べよう

- 地震や津波などの災害について関心をもつ。
- 3.11東日本大震災の避難所の講話や非常食体験を通して、防災について調べたいことを話し合い、課題設定をする。

課題追求 自分や友達、家族を守る防災を伝えよう

- 防災士の方や身近な大人に、経験した災害や実践している備えなどをインタビューする。
- 図書やインターネットを活用し、防災について調べる。
- 防災新聞を作成する。

【社会】地震からくらしを守る
○学習したことを基にして地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分にできることを考えようとする。
【国語】みんなで新聞を作ろう
○知らせたいことが明確に伝わるように記事を書き、見出しや割り付けを考えて、読み手の興味をひく新聞を作ることができる。

3 伝えよう！命を守るためにできること(海洋環境・防災)

18時間

行動・発信・振り返り 守ろう！ 海の命 自分の命 カルタを作ろう

- これまで学習してきたことを基に海の環境保全や防災に関係したカルタを作成する。

【国語】聞いてほしいな、心に残っている出来事
○自分が感じたことが聞き手に伝わる様に、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫して話すことができる。
【国語】百人一首の世界
○短歌を音読して言葉の響きやリズムを感じ取ったり、かるた遊びをしながら、伝統的な文化を楽しむ。

総合的な学習の時間

教科等との関連

第4学年2組 総合的な学習の時間学習指導案（略案）

1 単元名 守ろう！海の命

2 単元の目標

- (1) SDGs 14に関連し、海の環境問題と自分たちの生活との関わりに気づき、自分の生活を見つめ直すことができるようにする。
- (2) 活動を通して分かったことや自分たちが環境に対してできることを地域の方や校内の人に分かりやすく工夫して伝える行動ができる。

3 本時の指導

- (1) 単元名 守ろう！海の命
- (2) 本時のねらい
 - ・相手に伝わりやすいポスターを作るためのレイアウトを発表し合い、アドバイスしながらより良いものにする。
- (3) 学習過程

段階	主な学習活動	指導上の留意点	評価・準備物
導入 5分	1 前時の学習内容を想起する。 2 本時の学習課題をつかむ。	・これまでの活動で考えたことを発表し合い、さらにより良いもののできるよう積極的にアドバイスすることを助言する。	
相手に伝わりやすいポスターを作るためにアドバイスし合おう。			
展開 35分	3 活動計画の発表会の進め方を確認する。 4 各グループの発表を聞き、話し合う。 ①4班の発表 ・ <u>お店に来る人</u> にエコバッグと再利用について伝えたい。 ②7班の発表 ・ <u>中学校の先輩</u> にエコバッグと再利用について伝えたい。	◇2つのグループの発表を聞き、「よさ」「さらに良くするためにできること」について話し合うことを確認する。 ・2グループの相手の違い(来店客用, 中学生用)を意識しながら、ポスターに取り上げる内容の発表を聞かせ、アドバイスを考えさせる。 ・全体での共有の場では、ピラミッドチャートを活用し、「伝えたい相手」を頂点とし、「キャッチコピー」「伝えたい事」「伝えたい内容」と裾野を広げるように児童の意見をまとめる。	※ワークシート ※ピラミッドチャート ・収集した情報をもとに、海の環境と自分たちの関わりを表現することができるか。科
終末 5分	4 本時の活動を振り返る。	・ワークシートに自己評価や感想を書かせ、本時の活動を振り返らせる。	

(4) 評価

- ・相手に伝わりやすいポスターを工夫して作るために、アドバイスしながらより良いものにするのができたか。（発表・ワークシート・ループリック）

資料3 松岩小5学年 単元全体構想(プログラムチャート)

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

第5学年で身に付ける力

- ①森と海のつながりがあり豊かな海が育まれていること、そうした環境から気仙沼地域の産業が発展していることを理解すると共に探究的スキルを身に付ける。【知識・理解】
- ②教科等の知識に基づいて、気仙沼の産業の課題や問題を捉え、10年後も持続可能な産業の在り方について考えることができる。【思考力・判断力・表現力】
- ③活動を通して分かったことや考えたことをまとめ、相手に分かりやすく工夫して伝えることができる。【学びに向かう力・人間性等】

海洋教育の視点

- 【生命】持続可能な水産資源の活用のための生態系保全 <海洋リテラシー5 海は、豊かな生命の多様性や生態系を支える>
- 【環境】地域の山・川・海との環境と産業 <海洋リテラシー6 海と人間は、密接につながっている>

1 森と海のつながりを考えよう (22時間)

2 海と生きる(29時間) ~ぼくらは気仙沼の海大使~

3 気仙沼の魅力を伝えよう(19時間)

通年課題設定
○気仙沼市の地形や風土などの特徴と産業について講話を聞き、知りたいことを話合う。

課題追求
森と海の間を調べよう
○インターネットや図書を活用し、課題解決のための情報収集を行う。
○大学や各種関係施設にインタビューやFAX、メールでの連絡を取り、課題を追求し新聞にまとめる。

課題設定 2
気仙沼市のアピールポイントを考えよう
○「海に生きる気仙沼」を知り、気仙沼のアピールポイントについて話合う。

行動・発信・振り返り
ぼくらは海大使
気仙沼の魅力を発信!
○自然環境、地域産業と自分達の生活との関わりや産業や生活を支えている環境の保全について学んだことをリーフレットやプレゼンテーションにまとめ、発信する。

課題設定 1
森と海の間を調べよう
○植樹体験やプランクトン採集活動を通して課題設定する。

●予想される児童課題
・生態系、植林事業、養殖と生態系、海の環境保全活動等

課題追求
○海の豊かさや気仙沼の立地を、魚市場や工場見学を通して理解する。
○わかめ養殖を体験し、養殖業への理解やその苦勞を知る。
○気仙沼の産業・自然環境を持続させるための課題とその対策について調べる。

総合的な学習の時間

教科等との関連

【4年社会】水はどこから
○水の循環の経路について理解する。
【国語】事実と考えを区別しよう
○事実と考えを区別しながら文章を書く。

【国語】知りたいことを聞きだそう
○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、質問をして必要な情報を聞き出す。
【国語】環境問題について報告しよう
○テーマに沿って集めた資料から情報を読み取り、分かったことや考えたことを、集めた資料を活用しながら報告する文章にまとめる。
【社会】わたしたちの生活と森林(2月教材)
○森林資源が果たす役割について理解する。

【理科】魚のたんじょう
○卵の誕生から飼育までを経験し、その環境の大切さを理解する。
【社会】水産業のさかんな地域
○水産業の仕事の工夫や努力とその土地の自然条件や需要を関連付けて水産業に関わる人々の働きを考える。
【国語】問題を解決するために話し合おう
○思考ツールを使いながら、多くの意見をまとめて考えを広げたり、比べてまとめたりする。
【国語】反対の立場を考えて意見文を書こう
○自分の意見とその理由、反対意見への対応を明確にして、文章全体の構成や展開を考え、筋道の通った文章を書くことができる。

【家庭科】食べて元気に
○わかめを利用した栄養を考えた食品の組み合わせを考える。
【社会】情報を生かす産業
○情報通信技術の活用が、水産業も発展させることを理解する。
【国語】資料を見て考えたことを話そう
○自分の考えが明確に伝わるように、構成を考え、必要に応じて資料を関係付けながら話すことができる。

第5学年1組 総合的な学習の時間学習指導案（略案）

1 単元名 海と生きる ～ぼくらは気仙沼の海大使～

2 単元の目標

- (1) 地域の産業と自然環境や自分たちとの関わりに関心を持ち、海と共に生きていく気仙沼の在り方について多角的に考えることができる。
- (2) 地域の産業、自然環境、そこに生きる人々の現状について捉えた上で、地域に誇りを持ち、自分たちができることを行う。

3 本時の指導

- (1) 単元名「海と生きる」～ぼくらは気仙沼の海大使～
- (2) 本時のねらい
 - ・これまでに学習した事柄を、環境・産業・人とのつながりから整理し、海と生きる気仙沼の特徴を見つめることができる。
- (3) 学習過程

段階	主な学習活動	指導上の留意点	評価・準備物
導入 6分	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の課題をつかむ。	・学習してきたことをスライドショーの写真で振り返る。 森や海の学習、産業について学習を想起させる。	※テレビ ※パソコン
課題 海大使として、海に生きる気仙沼の今を見つめよう。			
展開 36分	3 気仙沼の海について気付いたことをグループで考えさせる。	・前時に気仙沼の海の学習から気付いた強み(よさや工夫していること)と弱み(困っていること)を整理させる。 ・教師は環境、産業、人とのつながりの3視点を持ち、座席表を使い、グループの考えを捉え全体共有につなげる。	※4つ切画用紙、ペン ※強み(ピンク)と弱み(青)を記入した付箋紙
	4 全体で意見を共有する。	○意図的指名をして発表させる。教師は、3つの視点に応じて、マトリクス表に児童の意見を整理する。 ・よさや工夫した点をじっくり情報共有した後、現在の問題点について取り上げる。	※マトリクス表 ・見学での観察や資料等の情報から、気仙沼の自然環境と産業、そこに生きる人々について、問いをもつことができる。 読
終末 3分	5 次時の予告をする。		※ループリック

(4) 評価

- ・これまでの学習した事柄を、環境・産業・人とのつながりから整理し、海と生きる気仙沼の特徴を見つめることができたか。(発言・発表・ループリック)

「豊かな海, 気仙沼」見つめよう, 考えよう, 気仙沼の水産業

— 学校・地域教材の特性を生かした海洋教育の実践 —

1. はじめに

本校の海洋教育では、低学年の生活科において地域の自然に触れることで、そのよさに気付くことを土台として、中・高学年において、郷土の豊かな自然環境や生活を営む人々に関わり合うことで、「郷土の環境や食文化・人とのかかわりを見つめ、自分のあり方を考え」、「持続可能な郷土の担い手を育む」ことを、教科横断的な学習を通して理解を深めながら取り組んでいる。

そこで、地域の主たる産業である水産業と自分たちの暮らしが、豊かな自然環境を生かしながら、人々の工夫や努力によって支えられていることに気付き、海と共に生き、ふるさと気仙沼・階上が持続可能な地域となるために、様々な今日的課題を創造的に考え、探究し、発信しようとする児童の育成が必要であると考えた。

2. ねらい

○豊かな自然環境（海）と海洋生物や水産業との関係に気付き、地域の水産業と自分たちの暮らしが、豊かな自然環境を生かした人々の工夫や努力によって支えられていることについて考えを深めさせる。

○豊かな海の恩恵に気付き、海的环境を守る工夫や努力と食文化とのつながりを考えさせながら、「海と共に生きる」ふるさと気仙沼・階上が持続可能な地域となるために、様々な課題を総合的に考え、発信していく態度を育てる。

○探究活動の中で、互いの考えや意見を伝え合い、自分なりの考えを工夫して表現させる。

これらを、海洋教育の4つの視点（海に親しむ、海を知る、海を守る、海を利用する）とESDを通して身に付けさせたい具体的な力と関連させ、海洋教育のねらいとして育てていく。

3. 学習活動の概要

【海洋教育に関する主な内容】

生活科や総合的な学習の時間を主として、教科指導と関連させながら教科横断的に学習を進める。

学年	海に親しむ	海を知る	海を守る	海を利用する
1・2	生活科における「地域探検」や「サケの飼育活動」等を通しての土台づくり			
3	岩井崎の秘密を探る (磯の生き物観察)	階上の水産業と養殖 (アワビ・ウニとり名人に学ぶ)		
4		防災学習 (防災マップづくり・伝承館見学)		
5	岩井崎生物環境調査 (磯の生き物観察)	階上の水産業と養殖 (森と海の間をつなぐによる養殖業) 気仙沼の水産業 (魚市場見学・漁獲量・海流等)	岩井崎の清掃活動 (海洋ごみ調べ) 海環境講座 (親子行事)	ワカメの養殖体験
6		防災学習 (図上訓練・伝承館見学)		海産物を活用した スローフード学習 岩井崎塩作り体験

【「海に親しむ」活動】

○岩井崎の秘密を探る

気仙沼水産試験場の方を講師にお招きし、学区内にある岩井崎の潮だまりで生物調査を行った。今年度は9月に行ったため、昨年と比較することは難しかったが、タコや小魚など、多くの生物がいることを知ることで、地域のよさに気付くことができた。

一方で、海水温が高いことを実感したり、海岸に打ち寄せられて



〔岩井崎のごみ拾い調査〕

いる海洋ごみを目の当たりにし、「地球温暖化」や「海洋ごみ問題」について考えるきっかけとなり、探究学習へとつながった。

【「海を知る」活動】

○「豊かな海」は「豊かな森」から

海の豊かさの秘密を探るために、NPO法人「森は海の恋人」副理事長の畠山信氏から、養殖の牡蠣やホタテが育つためには、エサとなるプランクトンにとって必要な「栄養塩類」が必要であることを教えていただいた。その栄養は、海から遠く離れた森の腐葉土の中で作られることを知った。

さらに、「豊かな海」につながる「豊かな森」を知るために、野外宿泊学習で訪れた一関市のブナの原生林を散策し、森の中の腐葉土の感触を確かめた。また、腐葉土を作り出す土壌生物について、校庭の土と比較しながら調査したことにより、「豊かな森」から栄養分を含んだ水が川となって流れて「豊かな海」に注ぎ、気仙沼・階上の養殖業に大きな恩恵を与えていることへの理解を深めた。



〔豊かな森の「土」調べ〕

○未来の階上を考える～震災遺構・伝承館の見学～

これからも「海と生きる」ために、震災遺構である伝承館を見学した。館長さんや語り部の方から、当時の様子について話を聞き、津波被害のことや避難の状況について知る機会となった。有事の時には、状況に応じて判断することや次世代に伝えていくことの大切さについて考えることができた。



〔語り部から話を聞く児童〕

【「海を守る」活動】

○親子で学ぶ「海の世界」講座の開催

社会的にも問題になっており、岩井崎の生物調査でも実際に体験してきた「海洋ごみ」について考えるために、岩手大学の梶原昌五准教授を講師にお招きし、「マイクロプラスチックごみ」について親子で考えた。気仙沼の特産品でもある「ホヤ」について環境の視点から教えていただいた。さらに、プランクトンとイワシ、イワシとカツオ、カツオと人間という食物連鎖についてワークショップを行いながら「人間が捨てたものが、再び人間に戻ってくる」ことを理解した。

【「海を利用する」活動】

○ワカメの養殖体験

階上地区漁協青年部千尋会の御協力により、年間を通したワカメの養殖体験活動を行っている。この活動を通して、地元の特産品であるワカメの養殖業に携わる人々の思いに直接触れることができる。

ワカメの「種付け」「種ばさみ」「刈り取り」等の作業を体験することで地域を知り、また、海水温の上昇や自然災害などの環境が生育に大きな影響を及ぼすことを知る機会にもなった。それに対応するための工夫についても直接聞くことができた。



〔ワカメの種ばさみ体験〕

4. 今年度の海洋教育の成果と課題

(1) 成果

- ・ 地域の水産業に携わる方々や大学等の専門機関の方々から直接話を伺い、体験したことで、児童はふるさとの海への親しみや理解を深め、自然環境全体を意識して考えることにつながった。
- ・ 課題解決に向けて自分たちの生活や行動を振り返り、「自分たちにできること」を考え、自ら進んで行動しようとする児童の姿が見られるようになった。

(2) 課題

- ・ 各学年や校種間の学習を意識しながら系統立てて指導できるように、内容や活動を精選するとともに、教科横断的な探究学習を展開できるようにする。

令和2年度 総合的な学習の時間全体計画

道徳教育

- 自分でやらなければならないことを最後まで粘り強く行う児童を育成する。
- 相手の立場になって物事を考え、互いに信頼し、助け合える児童を育成する。
- 社会のきまりや友達との約束を守り、自然や公共物を大切にしている児童を育成する。
- 美しさや心の痛みを感じられる児童を育成する。

特別活動

- 諸活動を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。
- 集団の一員としての自覚を高め、互いに協力して活力ある生活を築いていこうとする自主的、実践的な態度を育む。
- 言語によるかわり合いを積極的に取り入れ、活動の活性化につなげる。

生徒指導

- 児童相互、児童と教師の心の交流を図り、望ましい生活習慣を身に付けた児童を育成する。
- 児童の心情面に働きかける指導の手だてを工夫する
- 児童が意欲を持って取り組むことができる実践目標を設定する。
- 震災から7年が経過しているが、心のケアに留意し、生徒指導との関連を図る。

学校教育目標

豊かな人間性と創造性をもち、心身ともに健康で、たくましく生きる児童を育成する。
 ○かしこく：楽しく学び合い考える子
 ○やさしく：思いやりと正しい心をもつ子
 ○たくましく：たくましい心と体ががんばる子

本校の総合的な学習の時間の目標

児童の「伝え合う力」をはぐむ総合的な学習の時間と教科横断的な指導を行いながら、以下に掲げる目標を達成する。

【問題を解決する力】

気仙沼（階上）の自然環境や食文化、それを支える人々の工夫、努力、願いについて、自ら課題を設定し、追究内容や方法に見通しを持ちながら進んで情報を収集し、調べ、体験し、考えることができる。

【主体的・創造的な学び方、考え方、態度】

気仙沼（階上）の自然環境や食文化、それを支える人々の工夫、努力、願いについて、生産、文化、他地域との結びつき等の各視点から、地域人材や統計資料、情報機器を積極的に活用した体験活動や調査活動などで追究し、その成果を目的に応じた自分なりの方法で表現するとともに、他の課題の発表と自分の追究課題・内容とを相互に関連づけながら総合的に考えることができる。

【自己の生き方を考える力】

気仙沼（階上）の自然の豊かさを、環境や食文化、それを支える人々の工夫、努力などの点から総合的に考え、将来の気仙沼（階上）のあり方について自分なりの意見を持ちたり、行動したりすることができる。

【防災力】

災害時に自らの命を守るための方法を知り、最善の行動ができる。

児童の実態

- 与えられた課題に対して真面目に取り組む児童が多い。
- 自分たちで調べ、まとめ、発表し合う学習や実際に体験する活動を好み、自分の興味・関心のあるものについては意欲的に取り組む。
- 自ら設定した課題を見通しを持って探究する学び方がまだ不十分であり、表現の仕方にも指導が必要である。

志教育

- 課題解決学習を進める中で、地域の情報分析や評価・考察を通し、発表の力を高めながら、よりよく課題を解決でき、自己の生き方や考え方を高めることができるようにする。

地域の実態

- 震災により居住区の4割が被災している。浸水域の復旧復興工事が継続中である。
- 地域の基幹産業である水産業が大きなダメージを受けたが、8割方戻りつつある。後継者不足が大きな問題となっている。
- 保護者や地域の人々は学校教育に対し、大変協力的であり、関心も高い。

教科との関連

国語—言語での表現力（意見文、説明文）
 社会—農業（米作り）、豊かな三陸の水産業
 算数—統計資料の読み取り、作成
 生活—草花遊び、季節と自然の様子等社会—地域探検、資源の確保と再利用食料生産、環境を守る努力等
 理科—動植物の成長、食物連鎖と自然界の循環、地球環境
 家庭—健康によい食事よりよい生活
 音図—郷土芸能等

本校の生活科・総合的な学習の時間の柱及び目指す児童像

- 児童像1：豊かな自然や人、食に対する興味・関心
 →地域の自然や人、食に興味関心を持ち、進んで触れ合おうとする子ども
- 児童像2：自然保護と郷土の食文化継承・発展の意識
 →地域の自然や食文化のよさに気づき、大切にしている子ども
- 児童像3：考えを伝え合い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度
 →自分の考えをはっきり表現し、相手の立場や考えを尊重する子ども

生活科・総合的な学習の時間を計画・実践するための本校の視点

自然とふれ合い、食文化を見つめたり、様々な災害から身を守る方法を探るために、多様な人々とかかわり合う活動を基盤とした生活科・総合的な学習の時間「さざなみタイム」の指導を、次の6つの視点から計画し実践する。

視点1	視点2	視点3	視点4	視点5	視点6
育てたい力に沿った効果的な体験活動の位置付け	言語活動を学習のねらいの達成に生かす工夫	教科横断的・総合的な題材構成の工夫	体験的・問題解決的な学習過程の導入	自己評価活動や相互評価活動の工夫	地域人材の活用・関係諸団体との連携

	低学年(生活科)	中学年	高学年
ねらい	触れる 身近な自然や人々と喜んでふれ合い、そのすばらしさを感じ取る子どもの育成	知る・探る 地域の自然や食材、人々に関心を持ち、意欲的に調べようとする子どもの育成	深める 郷土の環境や食文化・人のかかわりを見つめ、自分のあり方を考える子どもの育成
目指す児童像	柱①：豊かな自然や人、食に対する興味・関心 身の回りの自然や人に興味を持ち、なかよくする子ども 柱②：自然保護と食文化継承・発展の意識 五感を働かせて、自然のよさに気づく子ども 柱③：考えを伝え合い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 自分の思いや気づきを、自分なりに表現する子ども 災害時に教師や大人の指示を確実に聞き、適切な行動ができる子ども	①地域の自然のよさに気づき、人との出会いを学びに生かそうとする子ども ②地域の自然や食文化(生産)のよさに気づき、人に伝えたり、よりよいものにしようとする子ども ③調べたことや考えたことを分かりやすく伝えようとする子ども 災害時には、教師や大人の指示に従うとともに、状況に応じて自らも適切に行動できる子ども	①豊かな自然環境(海)と海洋生物や水産業の関係に気づき、関心を高める子ども ②豊かな海の恩恵に気づき、海の環境を守る工夫や努力と食文化とのつながりについて考える子ども ③探究活動の中で、互いの考えや意見を伝え合い、自分なりの考えを工夫して表現する子ども 災害時には、危険を予知しながら、状況に応じて冷静に判断し、主体的に行動できる子ども
題材名	◆1年『生きものとなかよし～私のあさがおものがたり～』『あきとあそぼう』 ◆2年『生き物と友だち』『階上たんけん』	◆3年『自然大好き！ぼくらの階上』（6～10月） ◆3年『名人発見！ぼくらの階上』（8～2月） ◆4年『一粒の米を追って』（5～12月）	◆5年『豊かな海、気仙沼～見つけよう、考えよう、気仙沼の水産業～』（魚市場見学）（5～2月） ◆6年『スローフードを巡る旅』（5～2月）
内容の例	◆1年『地震の時はダンゴムシ』『防災カルタで遊ぼう』 ◆2年『校舎内の避難場所を知ろう』『地震の後には津波』	◆3年『災害の種類や仕組みを知ろう』『避難経路を確認しよう。』 ◆4年『防災マップを作ろう』タウンウォッチング『津波の特徴について知ろう』（伝承館見学）	◆5年『こんな時どうする？Ⅰ』～図上演習～『家族防災会議を開こう』 ◆6年『こんな時どうする？Ⅱ』～図上演習～『未来の町を考えよう』

評価	◇問題を解決する力 ◇主体的・創造的な学び方、考え方、態度 ◇自己の生き方を考える力	・児童の製作物（学習ファイル、模造紙、作文、絵、模型、取材写真等） ・児童の自己評価、相互評価、及び教師の評価 ・長期的、継続的、累積的な評価 ・発表や話し合いの様子と内容
----	--	---

緑の真珠プロジェクト

～見つめよう大島 考えようわたしたちの海～

1 海洋教育の位置付け

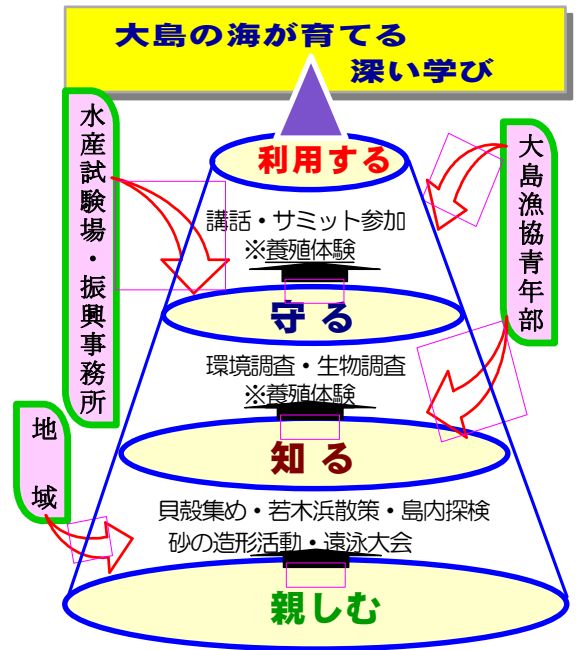
本校では、地域資源である自然、養殖業、それらをつなぐ人材を生かした活動を充実させながら、ふるさと大島の自然や環境を見つめ、自らかかわり、調べ、気づき、大島のよさを発信しようとする児童の育成を目指している。1・2年生は生活科との関連、3年生以上は主に総合的な学習の時間との関連により海洋教育を推進している。また、各教科の中にも、海洋教育の理念を進んで取り入れ、積極的に実践している。

2 ねらい

- 児童が海とかかわり、海を見つめ直す意識と態度を育む。
- 自分たちの住んでいる郷土を知り、誇りと愛着を育む。
- 海の環境や資源、海を取り巻く人や社会との深いつながりについて関心を高め、持続可能な海とかかわり方について進んで考え、行動することのできる児童を育む。

3 海洋教育学習の主な内容

(1) 全体計画



学年	海に親しむ	体験	海を知る	応用	海を守る	探究	海を利用する	
1年	砂浜での貝殻集め・作品作り				大島を支える養殖業の体験から *令和2年度 学年テーマ 4年生「大島の海の豊かさを感じて」 ～ワカメの学習を通して～ 5年生「大島の海を見つめて」 ～カキの学習を通して～ 6年生「大島の海と生きる」 ～ホタテの学習を通して～			
2年			島内探検 (町探検を兼ねて)					
3年	若木浜散策 (生き物調べ)	生き物調べを基にした ポスターづくり						
4年	若木浜散策 (生き物調べ)	生き物調べを基にした 壁新聞づくり		十八鳴浜清掃 海の環境調べ				〔ワカメ養殖体験〕 種ばさみ・刈取り・発送・発信
5年	駒場小との相互交流 ワカメの発信・砂の造形活動	〔カキ養殖体験〕 カキいかだ・養殖場見学 カキ養殖顕彰碑から(歴史等)	カキいかだ・養殖場見学 講演	カキむき体験 プランクトンの採取と観察				
6年		〔ホタテ養殖体験〕 採苗器づくり	観察	稚貝の分散作業				→ 中学校の学習へ

4 今年度の海洋教育の成果と課題

(1) 主な活動から

①「海を知る」活動

4～6年生は、それぞれワカメ、カキ、ホタテの養殖体験を行っている。大島漁協青年部の方々の協力を得て、取組についての講話や体験する作業工程についてお話を聞いた。

また、養殖を行っていく中での問題や、それをなんとか解決しながら養殖を行おうとする仕事への工夫や苦勞についても、講話の中で学ぶことができた。

今年度の6年生の取組としては、ホタテの養殖を行っていく上で、養殖を行っている方がこれまではあまり見かけることがなかった、カブトクラゲやブリなどの南の海の生き物が大島でも見られるようになったということから、海の変化に目を向け海水温の上昇や、日本や世界全体の海にも変化が起きていることについて考えてきた。そのために、地域の海でフィールドワークを行っている東京海洋大学の山川先生をお招きし、話を聞いた。地域の課題となっている藻場の減少の問題についても話を聞くことができた。児童は、体験や講話から分かったことをもとに、それぞれ自分で課題を設定し、探究活動を行った。6年生においては、調べたことをプレゼンテーションにまとめ、お互いに見せ合い感想を伝え合った。

年間を通して調べて分かったことや児童が抱いた海への思いなどについては、自校で毎年開催している海洋教育発表会で発表したり、学校間で交流のある学校とお互いの取組について情報交換を行ったりし、自分たちの住む大島やそれを取り巻く海の環境への思いを発信するようにした。

このように、「海を知る」段階においては、各学年で養殖体験から視点を立て、地域の実態や課題に即したカリキュラムを構成できるようにすることができた。



<4年ワカメ種ばさみ体験の様子>



<5年カキいかだ見学の様子>



<6年ホタテ養殖体験の様子>



<海洋教育発表会の様子・4年>



<海洋教育発表会の様子・5年>



<海洋教育発表会の様子・6年>

②「海を利用する」活動

6年生の国語科における単元「町の未来をえがこう」では、自分たちの地元大島の課題と感じるところや将来像について考え、これからを担う自分たちがどのような町にしていきたいかについて発表した。その際、他の市町村の特徴的な取組について調べ、大島に取り入れるとしたらどのような形が良いかを考えた。多くの児童が町の魅力として、自然が豊かであることや海が身近に感じられることを認識しており、地域の良さをいかしたまちづくりについて発表する児童がほとんどだった。例えば、「海を生かしてマリンスポーツを行える施設を整える」、

「海や自然を直接感じる事が出来るので、グランピング等をできるようにする」等、他の地域で行っているもので自分の地域に取り入れられそうなものを調べ提案することが出来た。一方で、何かを作ったり開発を進めたりすることで、本来の良さである自然や海が汚れてしまう可能性があることにも目を向け、他の地域を真似するだけでなく、地域の人たちも納得して町づくりをしていけるような協働の姿勢が大切であることも、児童の意見として出された。

小学校段階における町づくりの展望は実現性が低いものも多くあったが、学校で学習していることが実生活に結びついており、今後自分たちが地域を作っていくための一員であることを自覚することができた。そして、地域の良さをあらためて確認することが出来た。



<学級での発表の様子>

(2) 成果と課題

○成果

- ・ 児童は、観察や体験、調べる活動を通し、大島の海や自然の豊かさ、素晴らしさ、海で働く方々の様子を学ぶことができた。また、自分たちの住む地域にはとても素晴らしい環境が整っていること、海を生かしてより良いものを育てるために多くの人が日々苦勞と努力を重ねていること等に気付くことが出来た。
- ・ 児童の追究したい内容に沿って、これまでになかった専門機関とつながり、専門的な話を聞くことができた。それを生かして、児童それぞれの課題解決につなげることができた。
- ・ 海洋の学習に取り組んでいる4～6年生が一堂に介してお互いの発表を聞き合う「海洋教育発表会」を開催することで、これまで取り組んできたことを振り返り、さらなる探究テーマや次学年の学びへの意欲を高めたり、学年間のつながりに気付いたりする機会とすることが出来た。

○課題

- ・ 探究活動において、児童が探究したいテーマと地域の方の思いをバランスよくつなぐ役割を教師が担うことになる。児童の興味関心を膨らませたり、そこから問いをもたせたりすることができるよう教師のはたらきかけや、アプローチの仕方などの指導力、学校全体としての情報共有、協力体制も担保していく必要がある。
- ・ 児童の学習の広がりや保障できるような、地域人材や体験の場などの学習基盤となる面を継続して保障していく。

(2) 単元計画 (第6学年) ※月は、指導時期の目安

		海に親しむ	月	海を知る	月	海を守る	月	海を利用する	月
教科	国語					【町の未来をえがこう】 大島の未来について、新聞やインターネットで調べたことをもとに、プレゼンテーションを行う。	10 ・ 11	【話し合って考えを深めよう】 大島の直面する課題(海の仕事の後継者、人口流出、観光客の減少)を解決するために、学級で協議する。	9
	理科			【生き物のくらしと環境】 生き物には「食べる」「食べられる」という関係があることを身近な海の魚介類を通して学ぶ。 【大地のつくり】 若木浜で化石が見つかるという事実を根拠にして、大島の大地のつくりを推論する。	6 ・ 7 9 ・ 10	【水溶液の性質とはたらき】 水溶液には、気体が溶けているものがあることを学び、海の酸性化による影響や海の酸性化がどのようにして起こるかを推論する。	1 ・ 2	【地球と私たちのくらし】 人を含めたいろいろな生き物が地球(海をテーマにした場合)からどのような恩恵を受けて生きているか、私たちの暮らしが地球にどのように影響するかを考える。	4
	社会	【震災復興の願いを実現する政治】 復興に向けた県や市の取組、特に大島のウェルカムターミナルや防潮堤の構造に着目して話し合う。その中で、大島小としての願いにも触れる。	5 ・ 6					【日本とつながりの深い国々】 外国から海を介して届くものには、どのようなものがあるかを調べる。 【世界の未来と日本の役割】 環境問題について調べ、持続可能な海の開発について自分の考えをもつ。	2 ・ 3
教科外	総合			【森と海との関係】 森、川、海の関係調べる。	10		7	【ホタテ養殖】 ・採苗ネット作り ・洋上での筏見学 ・稚貝の生長観察 ・ホタテの分散作業	6 10 2
	学活			【防災マップを作ろう】 マップ作りの一環として、津波の浸水区域を知る。					
	行事	【海に親しむ集い】 砂の造形や遠泳を行い、ふるさとの海を五感で感じ取る。	8	【地震・津波避難訓練】 津波のメカニズムを想起し、安全な避難の仕方を身に付ける。	6	【海洋教育発表会】 これまでの海洋についての取組についてまとめ、自分たちが考えたことについて、保護者や地域の方に発信する。	1	【海洋教育サミット】 自校での海洋についての取組を発表したり、他校の取組について聞いたりすることで、多様な海への思いについて知り、これからの海について考える。	11

自分の考えをもち、行動する児童の育成

地域素材の教材化と単元構成の工夫を通して

1. はじめに

本校では、中学年で面瀬川をフィールドとした生き物調査や指標生物を用いた水質検査によって多様な生物がすみ豊かな環境が身近にあることを学んでいる。また、水の循環や森と海を結ぶ川の役割などに気付き、環境保護の意識や郷土愛を高めている。5学年では、社会科の水産業の学習を通して、水産業を基幹産業とするふるさと気仙沼の暮らしの特徴やよさにも目を向け、6学年では、広く地域全体の自然環境について学び、海洋の保全や浜の再生について考えている。

これまでの実践では、課題別の探究学習によって海に関わる様々な側面について学びを深め、学校内外での交流や発表による成果の報告の機会を設けてきた。実践や行動に結びつけるまでにはなかなか至らないこともあるので、知識理解の向上や道徳的心情の涵養にとどめず、何らかのアクションや生活習慣の改善につなげていくような「行動」を伴う学びを目標に実践している。

2. 実践

第5学年 総合的な学習の時間「学ぼう ふるさと気仙沼の海」

(1) 単元の目標

海や水産業について探究する活動を通して、自分たちの生活と環境との関わりに気付き、自分ができることを考え、実践する。実社会や生活の中から導き出した課題を調べ、整理・分析し、表現する力を育む。

(2) 指導計画（概要）

海にふれる・思いをもつ

課題設定、情報収集・分析、まとめ

実践・提案

共通体験(20)

- ① 磯の生き物調査(10)
(三陸復興国立公園岩井崎)
- ② カキ養殖場見学(5)
(水山養殖場、
NPO 法人 森は海の恋人)
- ③ 遠洋マグロ船見学(5)
(宮城県北部鯉鮪漁業組合)

課題探究(25)

「プラごみの危機から海を守ろうプロジェクト」

- ① エコバッグ利用を促進しよう
- ② 飲料メーカーに呼び掛けよう
- ③ 自動販売器の使い方を改めよう
- ④ 布マスク利用を促進しよう
- ⑤ ごみを出さない生活を心掛けよう
- ⑥ 気仙沼の皆さんに知ってもらおう



<図1>布マスクのデザイン



<図2>啓発ステッカーと
ホヤぼーや回収ボックス

提案報告会、実践(20)

- ・市役所への提案
- ・企業への提案
- ・保護者への報告
- ・地域への働き掛け



<図3>ラジオ収録

他地域・他校との
成果交流・情報交換(10)

(3) 学習の実際

① 体験的な学習による実感的な理解

「行動」を伴う学びに転換していくために重要なことは、体験的な学習による実感的な理解を得ること、そして、そこで感じた課題意識を次の学びとしてつなげることである。「海にふれる、思いをもつ」段階における3つの学習（「磯の生き物調査」〈図4〉、「水山養殖場見学」〈図5〉、「遠洋マグロ延縄船見学」〈図6〉）を通し、川と海のつながりやふるさと気仙沼の海の豊かさ、海環境と気仙沼市の基幹産業である漁業との関わり気付かせた。



〈図4〉磯の生き物調査



〈図5〉水山養殖場見学



〈図6〉遠洋マグロ延縄船見学

② 興味関心に応じたグループ設定による探究的学習の実現

探究活動において、まず大きなテーマである海洋プラスチックごみについて理解を深めるために専門家から講話をいただいた。また、地域の大人の方々の意識を調べるためアンケート調査を行い、その結果から分かったことを基に関心別に6つのグループを編成した。関心別に探究を進めたことにより、学年内における中間報告会でも学び合う姿が見られるなど、実感的な理解を促進したり、知識を深めたりすることができた。

③ 子どもの行動意欲を促す「提案報告会」などの実践機会の確保

課題別探究学習のゴールとして、提案報告会の機会を設定した。保護者に向けて提案するだけでなく、提案にあった企業や市役所の方々に向けて考えを発信した。専門家に向けて提案を伝える機会を設けたことで、目的意識が明確になり提案に具体性が表れるようになった。また、より具体的な評価や感想をいただくことができ、より行動に向けての意欲を高めることができた。また、海洋教育全国サミットや海外との交流学习の機会も活用し、他者に伝え、発表・交流していくことでさらに行動に向けての意欲が高まった。

連携した外部機関・企業

(一社) JEAN
気仙沼市役所 循環型社会推進課
GANBAARE株式会社
ギャラリー「緑」
サントリーホールディングス
面瀬地区公民館
ラヂオ気仙沼



〈図7〉市役所への提案報告会

3. 成果と課題

世界的な課題である海洋プラスチックごみ問題を題材に、子供ならではの考えを生かしながら学習を進めることができた。行政担当者や企業経営者に発表したり、提案したりするなど具体的な行動に結びつけることができた。今後は、海外を含めた他地域との交流学习を進め、自分たちの考えや思いをさらに発信できるようにしていきたい。

ふるさとの豊かな海を未来へ

～地域との関わりを通して～

◎本校の海洋教育の目標

- ・「海に親しみ」「海を知り」「海を守り」「海を利用する」という海洋教育の4つの視点を踏まえ、地域と連携・協働した学習を行うことを通して、ふるさとの豊かな海を未来へ残そうとする児童を育成する。
- ・豊かな漁場となっているふるさとの海を守っていくために、地域のよさに目を向けさせ、自分たちができることを考え、行動させる。

◎本校の海洋教育の位置付け


①総合的な学習の時間を中心としながら、各教科等においても海洋教育の4つの視点を意識して実践を進める。また、地域の方々と連携しながら、地域のよさに目を向けさせるような活動を取り入れ、知識と実体験に根差した海洋教育を推進する。

②本校では、特に5年生の総合的な学習の時間を中心として海洋教育の活動を進めている。

1・2年生では、「海に親しむ」活動を、3・4年生では、「海を知る」活動を、5年生では、それらを踏まえ4つの視点を意識した学習活動を展開している。また6年生の学習では、町づくりについて考える際に、海と町との関係を取り入れ考えを進めている。

※全体計画は別紙「令和2年度『なかいタイム』学習プログラム一覧」参照

◎ 第5学年の実践

月	小単元名【時数】 ○主な学習活動 海洋教育の観点	※学びに火をつける工夫 ・指導上の留意点 ●考えるための技法 ◆活用できる他教科の単元 ◇活用人材・団体	☆主な評価方法 ★志教育の視点
6	① 海的环境を調べよう【5】 ○ 海辺（滝浜）を散策する。 海に親しむ ・自然環境、生き物、漂流ごみ など ・調査の記録 ○学習全体の課題を設定する。 ・海的环境、海の生き物、漂流ごみ など 	※きれいな海と汚い海の写真や映像、海洋汚染の新聞記事などを提示し、問題意識を持たせた。 ・図書室にある本を活用した。 ●KWL チャートの活用（多面的・多角的に見る）	☆学習活動の観察【主体性】 ☆調査活動の記録【思・判・表】

気仙沼の海は豊かだと言うが「海の豊かさ」ってどういうことか考えていこう。

6

○課題を追究する。 **海を知る**

- ・本、GTの招聘、インターネット、インタビュー など



【小野佑介さんのお話】

※地元の方を講師に呼び、唐桑の海の現状を教えてもらった。

◇小野佑介さん

② 海と森のつながりを考えよう【7】

7

○ふるさと学習会「海辺の生物観察」に参加する。

海に親しむ 海を知る 海を守る

- ・海辺の生物やプランクトンの観察、牡蠣養殖の見学、森は海の恋人運動に関する講話など

◇中井公民館

◇NPO法人「森は海の恋人」(畠山重篤さん)

- ・唐桑小学校と合同で行った。



【カキ筏での説明】



【畠山重篤さんの講義】

森と海は深い
関係なんだ
な...

☆学習活動の観察 【主体性】

★『もとめる』

8

③ 海的环境や海と森のつながりをまとめよう【5】

○課題について、①②の学習と関連付けながらレポートなどにまとめる。

○まとめたことを発表する。

◆海と森のつながりに関する新聞記事や本を読み、学びを深めた。国語科「書き手の意図を考えよう」との関連が可能。

☆レポート・発表

【知識及び技能】

【思・判・表】

④ ふるさとの漁業をしらべよう【5】

○唐桑地区でどのような漁業が行われているか知る。海を知る

- ・社会科教科書・資料集，インターネット
- ・本，「気仙沼の水産白書」，GTの招聘

※地元の漁師や団体に直接インタビューする機会を設けられるとよい。

- ◇小野寺庄一さん（突きん棒講話）

☆学習活動の観察
 【主体性】
 ★『もとめる』

こんなに重くて大きい道具（鉈）を使っているのか。漁って大変だな。



メカジキ，マカジキ，マンボウなどを獲ります。1シーズンで2000万円の漁になることもある夢のある仕事です。

【突きん棒漁についての講話】

◆社会「水産業のさかんな地域」と関連させながら指導を行うと学びが深まった。

⑤ 漁を体験しよう【7】

○ふるさと学習会「網起こし体験」に参加する。海に親しむ 海を利用

- ・早朝の網起こしで，鮭，鯖，イナダ，イシモチ，イワシ（鯉の餌用）が獲れた。

- ◇中井公民館
- ◇株式会社大沢網（定置網の網元）
- ・中井公民館が株式会社「大沢網」と連絡調整し，実施日を決定する。事前の打ち合わせを行う。

☆学習活動の観察，感想
 【主体性】
 【知識及び技能】
 【思・判・表】
 ★『もとめる』

今日は全くダメだ。いつもならとくに鮭網に変えているが，今年は鮭が来ない。南の海の魚が入るようになってる。



大漁だ。やっぱり気仙沼の海は豊かなんだなあ。

【定置網起こし体験】

- ・学習会の記録と感想

- ・昨年度，時化で体験できなかった6年生も参加した。
- ・ふるさと学習会の感想をまとめた。

⑥ 水産物を活用する方法を考えよう【4】

○「鮭の調理教室」に参加する。

海を利用

- ・石狩鍋、ムニエルを調理して試食した。



【サケの調理教室】

- ・講師及び保護者に協力を依頼する。
鮭は大沢網に依頼し、配達は公民館に依頼する。

◇三浦孝光さん（寿司まるさん）

食べることは命をいただくこと、海の恵みに感謝しよう。ここ、三陸の魚の質は日本一のレベル。故郷を離れた時にそれを実感するだろう。三陸の魚の味をしっかりと覚えさせてください。

11

⑦ 学んだことをまとめよう【6】

○学んだことや今後に生かしたいことをポスターにまとめる。



- ・リモートで「海洋教育子どもサミット」に参加し、岩手、福島の学校と交流した。

◇気仙沼市役所水産課 粕谷さん

- ・「海洋教育子どもサミット」への参加を考えて、1学期からの取組も含めてポスターなどにまとめた。

☆プレゼンテーション・発表

【知識及び技能】

【思・判・表】

12

1

⑧ 個人の課題を決め、追究しよう【8】【課外】



○個人の課題を決め、調べ学習を進める。

海に親しむ 海を守る

- ・児童が設定した課題
「海のごみを減らすには」
「気仙沼市の海水温の変化」
「海と唐桑の文化との関わり」
「サメのひみつを探る」
など…

※過去の活動の振り返りを行い、調べたい課題を決めさせた。

- ・探究する力を身に付けさせるためには1学期に体験活動やGTを招聘しての講話などを行い、課題意識の醸成を図る。その上で個人の課題を設定し、夏休みに調べ学習を行う。2学期は中間発表会を行い、調べ直しを行い研究を深めさせる。次年度はこのようなカリキュラムの見直しをしたい。

2	 <p style="text-align: center;">【サメ加工：福寿水産での聞き取り】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々にインタビューをしに行ったり、学校に呼んだりした。  <p style="text-align: center;">【伝統芸能と海の関係について取材】</p>	<p>七福神舞もお母さんたちが、漁の安全や大漁の願いが込められているのよ。</p>
<p style="text-align: center;">⑨ 調べたことをまとめ、発表しよう【12】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまで学んだことや自分で調べたことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター、パンフレット、動画など ○まとめたことを発表する。 ○お世話になった人や自分の家の人に学びの成果を発信する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ipad を活用してプレゼンテーションを作ることができた。◇まるオフィスなど 	

◎今年度の海洋教育の成果と課題

〈成果〉

- ・地域の方々と連携を取り、調べ学習を行うことによって児童は課題を深めることができた。特に5年生では、1・2学期で共通の活動を行い、それを踏まえ、個人の探究課題を決め、それぞれが、本やインターネットでの調べ活動や地域の方へのインタビューなど実施することができた。
ある児童は、定置網起こし体験や本での調べ学習から、サメの加工について興味をもち、気仙沼市内にある水産加工会社へインタビューを行った。また、別の児童は4年生で学習した「神止七福神舞」をより調べたいと考え、地元に住む方に聞きに行くなど、自分から課題を探究することができるようになった。
- ・全校で実施した、「海に親しむ会」の取組により、子どもたちは「海って楽しい」、「海にはごみがたくさんある」などといった感想もつことができた。このような低学年からの気づきを広げ、高学年の学習につなげていくことができると考える。
また、海に親しむ会をきっかけに新しく地域の方々と協力して教育活動を行うことができた。これをきっかけに新しい指導過程を考えることができると感じた。

〈課題〉

- ・総合的な学習の時間だけでなく、各教科における海洋教育の実践に努めていきたい。
- ・各単元の目標が海洋教育の4つの視点のどの考え方に近いのかを一層意識する必要がある。生活科などでも視点を取り入れ系統的に海洋教育の考えを意識し、指導を進めていく必要があった。5年生の活動が中心となっているが、海洋教育の4つの視点を踏まえ、各学年のつながりを考えて指導過程の見直しが必要だと感じた。

別紙：令和2年度「なかいたタイム」学習プログラム一覧

学年	3年	4年	5年	6年
ES Dテ ーマ	「ふるさとを見つめながら、未来に生きる子どもを育てる」			
	知りたいな ふるさとの自然	守ろう！ ふるさとのまち・伝統	見つめよう！ふるさとの海 ～私たちを取りまく世界～	共に歩もう！未来に向けて ～地域と未来への貢献～
目標	ふるさとの名所や遊歩道などの自然を見学したり、地域で栽培している「大唐桑」について調べたりすることを通して、ふるさとのよさを再発見し、ふるさとの自然を大切にしたいという思いをもつ。 さらに、発見した唐桑のよさを残していくためにどうすればよいかを考えて発信する。	ふるさとして起きた災害について調べたり、ふるさとの伝統芸能を体験したりする活動を通して、災害から地域を守ろうとする人や伝統芸能を伝承している人の思いを知り、まちや伝統を守ろうとする思いをもつ。 さらに、過去に起きた災害や伝統芸能を未来に伝えるためにどうすればよいかを考えて発信する。	海に関する体験活動や調べ学習を通して、地域の海が豊かであることを実感するとともに、身近な海を保護・育成するには海だけでなく河川や森林の環境が大きく関わっていることを捉える。 さらに、地域や世界の海（環境）を守るために自分たちができることを考えて発信する。	他地域と比較しながらふるさとの歴史を学んだり、地域の福祉施設を訪れたりすることを通して、ふるさとの良さや問題点を見いだす。 さらに、見いだした良さを生かし問題点を解決するために、5年生までに学んだことも生かしながら、ふるさとの未来や、そのために自分たちができることを考えて発信する。
学習 内容	1 ふるさとの名所に行ってみよう 【20時間】 ① 観光客になって見てみよう【7】 ・大理石海岸、巨釜半造、九九鳴浜 ※ふるさと学習会(4) ② ふるさとの自然のみ力を考えよう【3】 ③ ふるさとの自然のみ力をPRする方法を考えよう【5】 ④ ふるさとの自然のみ力やPRする方法をまとめよう【5】 B 海にかかわる余暇利用	1 ふるさとして起きた災害を知ろう 【20時間】 ① かつての地震や津波の被害を調べよう【5】 ② ふるさとの危険箇所を調べよう【10】 ・通学路の危険箇所 ・地域の危険箇所 ・遊歩道の危険箇所 など ③ 防災マップを作ろう【5】 A 暮らしと海のかかわり	1 ふるさとの海に親しみ、海を知ろう 【22時間】 ①海の世界を調べよう【10】 ・海辺の調査 ・設定した課題の調べ学習 ②海と森のつながりを考えよう【7】 ・舞根湾の生物観察※ふるさと学(4) ・植樹活動、プランクトン ③海の世界や海と森のつながりをまとめよう【5】 G 海に生きる生物 H 海の循環や物質の循環システム	1 ふるさとの歴史を調べよう 【25時間】 ① 唐桑の歴史に触れよう【10】 ・御崎神社、鯨塚※ふるさと学(4) ② 会津若松の歴史を探索しよう【10】 ・自主研修計画(3) ※修学旅行(4) ・まとめ(3) ③ 唐桑と会津若松を比べ、唐桑の良さや課題をまとめよう【5】 D 海に関わる歴史
	2 「大唐桑」のひみつを探ろう 【25時間】 ① 大唐桑を調べよう【10】 ・「大唐桑」の見学 ・「唐桑」の由来 ・「大唐桑」を使った製品と効能 ② 大唐桑入りの食べ物を作ろう【10】 ・大唐桑茶 ・大唐桑入りホットケーキ など ③ 大唐桑のひみつをまとめよう【5】	2 ふるさとの伝統芸能を体験しよう 【25時間】 ① どんな伝統があるのかな【5】 ・松園虎舞、 ・崎浜大漁唄い込み ・小鯖神止まり七福神舞 ② 伝統芸能を体験しよう【15】 ・体験 ・保存会の方へのインタビュー ③ ふるさとの伝統芸能について分かったことや体験して感じたことをまとめよう【5】 C 海を題材や舞台にした文化や芸術	2 ふるさとの海を利用する方法を考えよう 【22時間】 ①ふるさとの漁業を調べよう【3】 ②漁を体験しよう【7】 ※網こし体験※ふるさと学(6) ③水産物を活用する方法を考えよう【7】 ・鮭の調理教室(2) ・ふるさとの特産物を使った料理 ④学んだことまとめよう【5】 ※海洋教育こどもサミットへの参加 J 海を利用した経済活動	2 ふるさとの施設を訪問しよう 【20時間】 ① わたしたちができる身近なボランティアをやってみよう【5】 ・アルミ缶回収 ・浜清掃など ② 地域にある福祉施設や障害について知ろう【5】 ③ 福祉施設の利用者の方と触れ合おう【5】※ふるさと学(4) ④ ふるさとの施設と現状について学んだことをまとめよう【5】
	3 ふるさとの自然の魅力を考えて発信しよう 【19時間】 ① ふるさとの自然のみ力を発信する方法を考えよう【5】 ・ふるさとの自然の魅力(大理石海岸、巨釜半造、九九鳴浜、遊歩道 など) ・大唐桑のひみつ ② 自分たちが考えたふるさとの自然のみ力を伝えよう【14】 ・カルタ、ポスター など B 海にかかわる余暇利用	3 ふるさとを災害から守り、伝統を受け継いでいく方法を考えよう 【19時間】 ① ふるさとを災害から守る方法を考えよう【5】 ・防災カルタ など ② 伝統芸能を受け継いでいく方法を考えよう【5】 ・伝統芸能カルタ など ③ それぞれ自分たちが考えた方法を伝えよう【9】 ・防災マップ、カルタ、壁新聞 A 暮らしと海のかかわり C 海を題材や舞台にした文化や芸術	3 個人の課題を決め、探究しよう 【20時間】 ①個人課題の設定と調べ学習【8+課外】 ・海洋ゴミの減量 ・マイクロプラスチック ・海水温の上昇 など ・海洋文化(伝統芸能と海の関係) ②調べたことをまとめ、発表しよう【12】 ・iPadを活用したプレゼンテーションの作成 K 海の持続的な開発のために必要な管理	3 ふるさとの未来を考えて発信しよう 【19時間】 ① これまでの学習を振り返ろう【2】 ・ふるさとの良さ ・ふるさとの課題 など ② ふるさとの課題を解決する方法を考えよう【8】 ・自然や観光資源、伝統芸能水産資源を生かした町づくり ・ふるさとの魅力をPR ③ ふるさとの課題を解決する方法を考えよう【6】 ・プレゼンテーション など ④ 自分がふるさとにどのように貢献できるか考えよう【3】 ※唐桑まちづくり発表会への参加
海洋教育のフィールド	B 海にかかわる余暇利用	A 暮らしと海のかかわり C 海を題材や舞台にした文化や芸術	G 海に生きる生物 H 海の循環や物質の循環システム J 海を利用した経済活動 K 海の持続的な開発のために必要な管理	D 海に関わる歴史 (A, B, C, G, H, K)
SDGsとの関連	4 質の高い教育をみんなに(4.7)			
共通	オリエンテーション(4月)【1時間】			
	中井の遊歩道を歩く会(時期は学年部ごとに設定)【3時間】			
	中井タイム発表会(2月授業参観)【1時間】			
	振り返り(3月)【1時間】			

人と海との関わり～地域の海から世界の海へ～

1 はじめに

本校では、豊かな自然環境を生かして津谷川や海とのつながりを題材とした環境学習を行っている外、地元水産業であるワカメやサケの養殖を題材にした海洋と産業の関わりについて学習を行っている。また、学校行事「海に親しむつどい」や全校遠足の機会を通して、地域の海に目を向けさせ、そこからつながる世界の海について考えを広げられるよう海洋教育に係る諸活動に取り組んできた。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、思うように学習を展開することができない状況が続いた。そんな中、試行錯誤しながら昨年度の課題であった学年間の系統性を重視し、制約のある中でも体験活動を行えるようカリキュラムを吟味した。

2 ねらい

地域の海に関心を持ち、主体的に関わる活動を通して、海との共生の在り方を考える。

3 学習活動の概要

(1) 本校の海洋教育に関わる学習活動

海洋教育と生活科や総合的な学習の時間の単元とを関連付けた学習活動計画は下の表のとおりである。各学年の指導のねらいと海洋教育の四つの観点が一貫的に関わるようにしている。

地域の海に関心を持ち、主体的に関わる活動を通して、海との共生の在り方を考える。				
	【海に親しむ○】	【海を知る●】	【海を利用する◎】	【海を守る★】
1年	○●身近な生き物を観察しよう			
2年	○●町探検		◎★サケのひみつ	
3年		●★田んぼの探検～生き物・水の流れ ●★ヒメシロチョウを守ろう（飼育）		
4年		●地域の川を調べよう～水質や生き物・海との違い ●★川の役割～山から川、海へ ★ヒメシロチョウを守ろう（発信）		
5年		●災害から地域を守ろう	◎★小泉の水産業を調べよう	
		○●◎★海洋教育こどもサミット参加		
6年		●小泉の魅力を調べよう	◎★いのちのつながりを調べよう	
		○●◎★未来の小泉を考えよう（1～5年生までの活動を振り返りながら）		
全校児童の活動 「○海に親しむつどい」「●★ハマナデシコを育てよう」「○●◎全校遠足」				

(2) 主な活動から

① 「海を知る」「海を守る」活動

◇ 「ヒメシロチョウを守ろう」（3，4年：7月～）

絶滅危惧種であるヒメシロチョウの食草であるツルフジバカマの栽培を行った。今年度はツルフジバカマを植えることだけでなく、ヒメシロチョウのことを地域の人に発信する活動を行った。ヒメシロチョウを絶滅から救うためには、食草を増やすことや生息している環境を維持するなど、植栽活動と自然環境の保全が必須となってくる。生息地となる小泉地域の環境を整えることがツルフジバカマやヒメシロチョウなどの生物を守ることにつながることについて理解を深めることができた。



【ツルフジバカマの観察とポスター発表】

②「海を知る」「海を利用する」活動

◇「全校遠足」(全校：10月)

全校遠足で、陸前高田市の津波伝承館と気仙沼市内にある岡本製氷、藤田製函店、氷の水族館を見学した。伝承館では、津波の歴史と津波が起きるメカニズムや減災・防災の取組を学習したことで、今後起こりうる大地震や津波に対して自分たちに何ができるかや、どう行動すればよいかを学ぶことができた。岡本製氷や藤田製函店、氷の水族館では、それぞれが気仙沼市の水産業に深く関わっていることや、水産業を支える上ではなくてはならない仕事だということを知り、子供たちは海の仕事について新たな視点をもつことができた。



【伝承館と藤田製函店】

③「海を利用する」「海を守る」活動

◇「小泉の水産業」(5年：11月, 2月)

小泉地域の特産品であるワカメについて、養殖業を営む「蔵内之芽組」で種ばさみ体験と刈り取り体験をした。子供たちは、海水温が低いとワカメが育たないことや、山からの雪解け水が栄養を運び、ワカメの生育を支えているということを知ることができた。2月の刈り取りの際には、11月よりも大きく育ったことを目の当たりにし、海水温とワカメの生育の関係を実感することができた。温暖化が進む中で、養殖業に携わる漁師の方々の努力、工夫などを知るきっかけとなり、水産業が海の環境と密接に関係していることを体験を通して学ぶことができた。



【ワカメ刈り取り体験】

④「海を守る」活動

◇「海洋プラスチックごみ問題」(4～6年生：2月)

三陸サテライトの協力の下、東京海洋大学の内田圭一准教授のオンライン授業を行った。世界のプラスチックごみの取組と考え方を比べたり、海洋プラスチックが年間どのくらい流されているかを学んだりしたことで、子供たちは環境問題が世界規模で広がっていることや、小泉地域も例外ではないことを知ることができた。また、海洋プラスチックは私たちの食生活に紛れているという事実には驚き、プラスチック製品の利用の仕方に目を向けたり、学校行事「海に親しむつどい」の際に例年行っている海浜清掃とつなげて考えたりするなど、自分事としてこの問題を考えることができた。



【オンライン授業の様子】

成果と課題

(1) 成果

児童は発達段階に応じて、学習を通して小泉の地域の環境問題に対して自分事として捉え、海をどのように守ればよいか具体的な方策を考えさせることができた。また、海と人とのつながりを産業や環境問題を通して知ることができた。

(2) 課題

海洋問題や環境問題に関して、学習課題をもって主体的に活動に取り組むことはできたが、単元のまとめ方やその後の活動のつなげ方に課題が残った。その単元の学習では、どのようにまとめると児童にとってより自分事として捉えられるかということや、学んだことが他教科でも生かされるようにどうつなげればよいかということを考えながら、カリキュラム編成をしていく必要がある。

～海とともにマナンボウ～

1. はじめに

大谷地区のシンボルは大谷海岸である。大谷海岸は「日本の水浴場88選」に選ばれるなど、県内有数のとてもすばらしい海岸だったが、震災の津波で砂浜が流され、現在は遊泳禁止になっている（令和3年度に復興工事完了の予定）。そのため本校の児童は小さい頃からの大谷海岸で遊んできた経験がほとんどなく、大谷海岸への思い出も強くなかった。そこで、震災前まで取り組んでいた大谷海岸を中心とした地域の海での活動を再開させ、児童が積極的に海と関わり、海のすばらしさを感じることで大谷の海に愛着を持ち、海を守り、発展させていこうとする児童を育てていきたいと考え、平成29年度より、海洋教育の実践に取り組んできた。

2. ねらい

地域のシンボルである大谷の海と関わる活動に取り組ませ、海のすばらしさを感じさせることで、大谷の海への愛着を持たせ、海を守り、発展させていこうとする子どもを育てる。

3. 全体計画

単元名	学年	教科
1. なつがやってきた（おおやのうみであそぼう）	1年	生活科
2. どきどきわくわくまちたんけん・生きものなかよし大作せん（海の生きもの）	2年	生活科
3. 大谷のいいところ つたえよう	2年	生活科
4. 地域の名人に学ぼう（ワカメ名人）	3年	総合
5. エコプロジェクト～大谷の海の環境を守るために～	4年	総合
6. 大谷の環境について調べよう	5年	総合
7. 海に親しむ活動	6年	総合
8. 探ろうふるさと 考えよう未来の大谷	6年	総合
9. 砂浜の花を未来に	5・6年	委員会

4. 単元（活動）計画・実践記録写真

1・2学年 【おおやのうみであそぼう・生きものなかよし大作せん】（生活科）

ねらい

- 大谷の海に関心をもち、安全な行動について考えながら楽しく遊ぶことができる（1年）。
- 安全に気を付けて海で生き物探しをすることを通して大谷の海に親しみ愛着をもつことができる（2年）。

内容

- ①海での安全について確認する。
- ②どんな生き物がいるか予想する。

- ③沼尻海岸で生き物探しをする。
- ④見つけた生き物について表現する。
- ⑤気付いたことをカードにまとめ、発表する。(1年生は学習参観で発表)



<沼尻海岸で生き物探し>

<たくさんの生き物発見>

<発見した多様な生き物たち>

3 学年 【地域の名人に学ぼう (ワカメ名人)】 (総合的な学習の時間)

ねらい

- 特産物であるワカメについて調べたり、ワカメの養殖に携わる人々と関わったりする活動を通して、大谷の海のおよさや面白さに気付き、大谷の海に愛着を持ち、海を守っていこうという気持ちを持つ。
- ワカメの養殖や海藻について調べたり、体験したりしながら、分かったことなどを工夫してまとめ、発表することができる。

内容

- ①オリエンテーション (ワカメについての講話)
- ②ワカメの種付け見学と体験 (前浜漁港)
- ③海藻の生態や成分等、疑問に思ったことについて情報を集める。
- ④ワカメの収穫見学 (前浜漁港) → 漁港と教室をつないでリモートにおける収穫体験の実施。
- ⑤収穫したワカメを各家庭に持ち帰り、調理・試食。
- ⑥活動のまとめ (プレゼンテーション)



<ワカメの種付け体験>



<リモートによる収穫体験>



<収穫したワカメの観察>

4 学年 【エコプロジェクト～大谷の海を守るために～】 (総合的な学習の時間)

ねらい

- 身近な地域の環境問題を知り、その解決や環境保全の大切さについて理解し、調査やまとめ、環境保全のための活動を行うことができる。
- よりよい環境づくりを目指した活動を考え、実践したことを伝えることができる。
- 大谷海岸のごみについて興味をもって追究する活動を通して、より広い視野で環境問題をとらえ、人と自然との共生について考えることができる。

内容

- ①クリーンヒルセンターの見学や大谷海岸での清掃を通して、地域の自然環境に興味・関心を持つ。
- ②大谷海岸のごみについて追究する。
- ③毎日の暮らしの中で、実践可能な環境保全対策について考え、実践する。（みつろうエコラップ作り）
- ④海の自然や環境問題に関心を持って調べ、保全について自分の考えや意見をもつ。
- ⑤分かったことをリーフレットにまとめ、学習参観日に保護者に発表する。



<大谷海岸の清掃活動>



<クリーンヒルセンター見学>



<みつろうエコラップ作り>

5 学年 【大谷の環境について調べよう】（総合的な学習の時間）

ねらい

- 大谷の環境を守るための取組について見つけ、体験し調べ、発表する活動を通して、郷土への愛着を深め、よりよい郷土にしていこうとする意欲をもつことができる。
- ふるさとのよさを再確認するとともに、さらに魅力あるふるさとにするための提案をし、その目標に向けて自分たちができることを考え、実践することができる。

内容

- ①環境をよりよくする取組について関心をもつ。
- ②滝根川の水生生物調査をする。
- ③ふゆみず田んぼでの稲刈り体験をする。
- ④地元の日門漁港の漁業者から大谷の海の環境や漁業についての話を聞く。
- ⑤大谷の漁業の特徴や漁業者の仕事内容、環境をよりよくする取組について調べたことをグループごとにまとめて発表する。（学習参観日）



<滝根川の水生生物調査>



<ふゆみず田んぼで稲刈り体験>



<日門漁港で漁業についての講話>

6 学年 【探ろうふるさと 考えよう未来の大谷】（総合的な学習の時間）

ねらい

- 自分たちのふるさとの自然や産業、文化について様々な視点から見つめ調べる活動を通して、郷土を愛する気持ちを高め、自分たちのふるさとをよりよくしていこうとする意欲をもつことができる。
- 「ふるさと大谷」のよさを再認識するとともに、さらに魅力あるふるさとにしていこうために提案し、それに向けて自分たちにできることを考え、実践していこうという意欲をもつことができる。

内容

- ①これまでの学習や「海に親しむ活動（九多丸海岸での清掃活動や砂の造形活動）」から、大谷の海やまちについて考えをもつ。
- ②大谷地区の復興に携わる方から話を聞き、地域の方々の思いや願いに気付く。
- ③他地域のまちづくりについて調べる。
- ④未来の大谷について考え、まちづくりについて提案する。（学習参観日とこどもサミット in 東北で発表）



<海に親しむ活動（九多丸海岸）>

<復興に携わる方からの講話>

<まちづくりについて提案>

5. 成果と課題

【成果】

感染症対策をとりながら、全学年で学年に応じた海辺の活動をすることができた。そのことで海の活動の楽しさを感じ取ったり、自分たちの地域の海を守ろうとする気持ちを持ったりする児童が昨年度にも増して多くなってきた。低学年では、前年度から地域の磯（沼尻海岸）における磯遊びを実施することができ、「海に親しむ」と共に、「海には多種多様な生き物がいること」に気付く姿が見られた。特に2年生においては、昨年と同じ場所での実施により、「〇〇には、こんな生き物がいるのではないか」と予想を立てながら活動を実施する児童が多く見られ、生息場所とのつながりに気付きが見られた。中学年においては、「NPO 法人浜わらす」との連携を十分に図り、協力を得ながら活動を進めることができた。特に4年生では、海洋ごみについての講話、海岸の清掃活動、海洋プラスチックごみについての講話、みつろうエコラップづくり等、単元全体にわたって関わりを持ち、学びを深めることができた。6年生における「こどもサミット in 東北」は、リモート実施のために学級の児童全員が参加でき、学びを広げたり深めたりする姿が見られている。





【課題】

感染症対策として外部の方々との活動を一部実施することができなくなった点についてである。これまで積極的に地域の方々とのつながりを持ち、その思いや願いを受け取ることにより児童が変容する姿が多く見られてきたが、本年度は外部の方とつながる回数が減少した学年が見られた。今後、感染症対策を十分にとりながらも、改めて多くの方々とのつながりをもてるような活動内容を構築する必要がある。

津波防災・減災について考える

～地域との連携を通して～

◎ 海洋教育全体計画

単元名	津波防災・減災を考えよう～地域との連携を通して～	関連教科等	総合的な学習の時間、国語、社会、理科、保健体育、英語
単元の目標	総合的な学習の時間における防災学習を通して、地震津波災害とその備えについて学び、発災後の適切な判断・行動ができるようにするとともに、自分の将来や地域・社会とのつながりを考えるようにする。	SDGs 関連	   

◎ 単元計画

時	学習活動・主な学習	○：指導上の留意点 △：教科等との関連 ◇：評価
総合 (2)	ガイダンス ・学習のねらいやこれまでの取組、今年度の計画・進め方を理解し、見直しを持つ。	○ 防災学習アドバイザーから、昨年度の学習成果や今年度の重点、探究活動の視点についてアドバイスいただく。 ○ 今年度の学習に対する意識調査を生徒に行い、学習への興味・関心度を把握する。 ◇ 学習のねらいやこれまでの取組、今年度計画を理解している。【知識・技能】
総合 (20) 社会 (2) 国語 (4)	探究学習 防災・減災を考えよう (1) 課題（テーマ）を決めよう ・学年縦割りのグループで活動する。 ・聞き取り調査をする。 ・聞き取り調査から地域の実態を考え、課題（テーマ）を決定する。 (2) 課題解決を追究しよう ・グループ毎に情報収集し、比較、分類、関連付け等、整理・分析する。その結果から「自助・共助」や「伝承」についてまとめ、考えを深める。 (3) 中間発表会 ・グループ毎に探究した結果について中間発表をし、相互評価を行う。 ・防災学習アドバイザーから中間発表に関する指導助言をいただき、考察やまとめ方について再検討する。	○ 異年齢集団で探究活動を進めるため、学年縦割りグループを編成する。 ○ 前時の学習意識調査結果を自己分析させながら、探究テーマを検討させる。 ◇ 課題（テーマ）を見付け、表現している。 【思考・判断・表現】 ○ 「共助」の観点から、地域への提言等も加えるように促す。 ○ 発表内容を参観者に分かりやすく発表するための手立てについてアドバイスする。 △ 社会科「過去からの継承と未来に向けた社会づくり」 △ 国語科「根拠を明確にして書こう」、「案内や報告の文章を書こう」、「調べて考えたことを伝えよう」 ◇ 伝える内容や提案を明確にし、「自助・共助」、「伝承」を意識した資料を作成している。【思考・判断・表現】 ○ 発表物の作成過程であるので、「良いところ探し（自グループにも取り入れるべきことがある）」の観点で、相互に評価させる。 ○ 指導助言いただいたことをグループ内で共通理解する。「防災発表会」に向けて不足している部分を確認し、今後の見直しを持たせる。 ◇ 他グループの良さやアドバイザーの助言を生かし、改善点について話し合っている。【思考・判断・表現】 ◇ 地域との関わりを意識した「自助・共助」、「伝承」への取組や提案について伝えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
総合 (4) 理科 (2) 保体 (4) 英語 (2)	体験学習 学年毎 防災学習 〈第1学年〉 「地震・津波を知ろう」 ・専門家の講話を聞き、地震・津波のメカニズムを知る。 〈第2学年〉 「心肺蘇生法を知ろう」 ・救急救命士から、応急手当の方法や救急救命講習を受講する。 〈第3学年〉 「防災啓発と意見交流をしよう」 ・関係団体と防災・減災について意見交流をする。	○ 各学年で、活動のねらいや活動内容を生徒が理解し、教科との関連に気付きながら、災害の知識や災害発生後の対応の仕方について体験できるようにする。 △ 理科「火山と地震」、「自然の恵みと災害」 △ 保健体育科「自然災害による危険」 △ 英語科「To Our Future Generations」 ◇ 災害の知識や災害発生後の対応の仕方について理解している。【知識・技能】 ◇ 学習したことを実践しようとする意欲を高めようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
総合 (6)	体験活動 総合防災訓練 (1) 自治会ごと防災訓練 ・午前に行われる各自治会の防災訓練に参加する。 ・各自治会の行動マニュアルに従いながら、中学生ができることを考え、積極的に行動する。 (2) 避難所初期設営訓練 ・生徒会各種委員会でグループを編成し、避難所初期設営で果たす役割を考え、活動する。	○ 地区住民の一員としての自覚を高めるため、必要に応じて自治会の会合に生徒の参加を促す。 ○ 地域住民の一員として、自発的に活動するよう促す。 △ 英語科「Cooking with the Sun」 ○ 生徒達が学校にいる時間帯に災害が発生したという想定で訓練を実施する。 ○ 小学生、高校生も役割を果たすことができるようにする。 ○ 避難後の小学生の世話についても考えるよう、事前に指示する。 ◇ 避難訓練及び避難所開設の初期対応に必要な事柄や役割等について理解している。【知識・技能】 ◇ 防災訓練等を通して、地域住民の一員として自分ができることや果たすべき役割等を、主体的に実践しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
総合 (12)	防災学習発表会 (1) 防災学習発表会に向けて ・グループ毎の探究テーマに基づいた「自助・共助」や「伝承」の在り方について、グループ独自の発表形式（ポスター、プレゼンテーション等）でまとめる。 (2) 防災学習発表会 ・グループ内で役割分担をし、発表する。 (3) 振り返り ・今年度の防災学習を振り返り、自己評価する。	○ 教員は、各グループが十分に発表できる場を確保する。 ○ 参観者からの質問で分からないことについては、再度調査して回答するようにさせる。 △ 国語科「具体例を挙げて伝えよう」、「説得力のある提案をしよう」、「場面に応じて話そう」 ◇ 探究をもとにまとめた内容や提案を表現している。 【思考・判断・表現】 ◇ 「自助・共助」や「伝承」についての考えを深め、地域の一員としての自覚を高めるとともに、自分が地域にどのように関わっていくか考え、実践しようとする意欲を高めようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○ 次年度の防災学習に向けた振り返りともなるようにする。 ○ 防災ガイダンス時に行った意識調査を再度実施し、個々の行動変容を見取る。

◎ 今年度の実践の成果と課題

【実践例】

(1) 地域住民から東日本大震災についての聞き取り（図1）を行い、教訓や当時の課題、人とのつながりなどを視点ごとに探究課題を設定した。次に、聞き取り調査やアンケート集計、現地調査、文献研究等で情報を収集し、比較、分類、関連付けなど整理・分析した。そして、相手や目的、意図に応じて表現の工夫をし、自分たちの考えや提案などをまとめ、学習の成果を発信する場として防災学習発表会を実施した。



図1 地区住民への聞き取り

(2) アクサユネスコ協会減災教育プログラムの教員研修にオンラインで参加した。東日本大震災の教訓から学んだことと次世代への継承、地域が災害を乗り越えた道のり、地域連携や地域づくりを強化するためのネットワーク構築等について、中学生が自身の言葉で自身の考えを述べ、全国の教員と対話・共有（図2）した。



図2 オンラインでの対話・交流

(3) 様々な学習や活動を通して地域の防災の重要性を自分事と捉え、「震災を知る最後の世代」として「震災の風化」を防ぐため、更には、地域全体の防災意識を高めるため、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館における語り部活動へボランティアとして参加するようになった生徒もいる。「気仙沼東日本大震災伝承ネットワーク」の指導を受けながら、微かな自分の記憶や体験を交えたり、身近な人から聞いた実体験やそこから得た自分の考え等を加え伝えたりして、館内ガイド（図3）を務めた。



図3 伝承館での館内ガイド

(4) 本市の総合防災訓練が毎年11月中の休日に開催されるため、学校は授業日に振り替えて、全校を挙げて参加している。午前中は家族と共に地区毎の一時避難場所へ避難し、避難所リストの作成や小学生のお世話など、中学生としての役割を果たしている。ただし、今年度はコロナ禍であったので、実施した地区は少なかった。午後は本校体育館で小・中・高校生による避難所設営訓練を実施する。小学6年生と中・高校生は設営側として、それ以外の小学生は避難者として参加する。地区防災教育推進委員会にはその様子を見学していただき、助言をお願いしている。今年度は、小学6年生と中学生を3つのグループに編成し、①ワンタッチテント設営、②段ボールパーティション制作、③避難所受付対応（図4）、の訓練を実施した。近隣高校生は、段ボールパーティション制作アドバイザーとして参加した。



図4 避難所受付対応

(5) 今年度の12月には、市危機管理課職員の立会のもと、新型コロナウイルス感染症への対応を考慮した避難所初期設営訓練を試みた。これまで体験したことのないパーティションの設営(図5)などの実践を通して、地区割、受付、救護等において更なる改訂が必要であることが明らかになった。今後、地区防災教育推進委員会の助言をいただきながら、生徒会委員会毎に見直しを図り、令和2年度版の避難所マニュアルを完成させたいと考えている。



図5 パーティション設営

【成果】

- (1) 中学生も地域住民の一員として、防災訓練の一部を担い、周囲の大人から褒められたり認められたりすることを通して、自己有用感を高め、主体的に取り組む態度が身に付いた。
- (2) 探究的な学習を通して、地域の防災の重要性を自分事として捉え、「震災の風化」という課題に向け、仲間と協力し合って追究・解決しようとする意欲を高めた。
- (3) 地域全体の防災意識を向上させるために、地域住民のあるべき姿について自分なりの意見を持ち、自分の思いや考えを進んで表現し、行動する力も育成されつつある。その一つの例として、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館の語り部にボランティアとして参加する生徒が出始め、活動を継続するとともに、挑戦しようとする生徒が増えるなど、生徒の行動に変容が見られるようになった。

【課題】

- (1) 今後の課題は、ホールスクールアプローチやグローバルの視点で、海洋教育・ESDを軸としたカリキュラムを整理することである。また、生徒の変容を見るために、自己評価のみならず、ルーブリックの活用など教師側の評価の工夫が必要となる。
- (2) 防災学習を軸としながらも、そこから海洋教育や環境教育、国際理解教育へと波及していかないか模索していきたいとも考えている。

「30年後の大島に伝えよう」

～大島の良さを未来に伝えるために、今の自分にできることを考えよう～

1 はじめに

気仙沼湾に浮かぶ故郷「気仙沼大島」は古来、海と関わり、海からの恩恵を受け、海とともに生きてきた。

平成31年4月7日に念願の「気仙沼大島大橋」が開通した。この開通に伴い、生活が大きく変化した。交通の利便性が上がる一方で、交通安全や生活安全の面での心配も懸念されている。

このよう中、本校では地域に根ざし、地域の教育素材と人材を生かした海洋教育に取り組んでいる。体験活動や調査活動等を計画的に展開し、課題の発見とその解決を実践している。また、気付いたことや提案したいことをまとめ、各方面に発信していくための方法を身に付けさせたいと考えている。

2 ねらい

- (1) 海を活用した体験活動を充実させ、地域の魅力を知り、課題の発見とその解決を図るとともに人との関わりや将来の生き方を考えさせる。
- (2) 活動を通して知ったこと身に付けたことを発信するとともに、効果的に伝えるたの手段を身に付けさせる。

3 学習活動の概要

- (1) 学校活動内での海洋教育



- (2) 海洋教育の主な学習内容

1 学期		2 学期		
・海洋講話	・漂着物調査 ・海浜清掃 (小田の浜)	・ホタテ養殖体験 ～1年生～ 【背ばたき・耳吊り】 ・ホタテ養殖体験 ～2年生～ 【背ばたき・水揚げ】	・権練り体験 ～1年生～ ・ホタテ養殖体験 ～3年生～ 【調理体験】	表現活動 文化祭 「全校演劇」
年間：表現活動 ：個人課題研究		「島中ソーラン」(文化祭・運動会等) 「島ゼミ」		
↓				
島ゼミ「個人課題研究」				
1 学期		2 学期		
個人課題の設定 ガイダンス、先生方との面談 等		夏休み 探究活動 実験、アンケート、 インタビュー 等		
		まとめ・発表 レポート作成 文化祭発表		

(3) 総合的な学習の時間全体計画

30年後の大島に伝えよう
 ～大島の良さを未来に伝えるために、今の自分にできることを考えよう～

表現活動	交流活動	海洋活動	生き方活動（志教育）
<p>『大島ソーラン』 運動会、交流活動等での披露 演劇 文化祭での発表 合唱 文化祭、公民館まつりなどでの発表</p>	<p>東山中学校との交流 東山中学校の1年生が大島中学校を訪れ島中ソーランを通して交流を行う。 さくらサミット、海洋サミット等への参加・交流 大島の現状や日頃の活動内容について報告をするなどの交流を行う。</p>	<p>海洋講話 漁業や海洋生物たずさわる方からのお話を聞く。 ホタテ養殖体験 学年ごとにホタテの養殖体験を行う。 漂着物調査・海浜清掃 海上保安署の協力を得て、小田の浜の調査、清掃を行う。 權練り体験（1年生）</p>	<p>職場体験学習（2年生） 将来の職業希望を踏まえた各事業所で2日間の体験学習を行う。 福祉体験（2年生） 市内介護サービス事業所連携事業としてハーティーケアセンターの職員を招いての体験活動を行う。 修学旅行、進路探究学習（3年生）</p>
<p>島ゼミ（個人課題探究活動） 大島に関する課題を個々に設定し、探究活動を行う。</p>			

活動の目標			
表現活動	交流活動	海洋活動	生き方活動（志教育）
<p>大島ソーラン 大島中の伝統を受け継ぎ、母校を思う気持ちを高める。 演劇 大島の未来のために今自分ができていることを考え、演劇を通して表現し、伝える。 合唱 郷土の詩人が作った歌を歌い、歌詞に込められた思いを考え、後世に伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大島や地域経済発展などへの継続した支援等をしていただいている方々に感謝の気持ちを伝える。 ・大島の現状や日頃の活動内容について報告をするなどの交流を行う。 	<p>1年 ホタテ養殖体験及び、權練り等、海や大島の産業に関する体験学習を通して、自然や環境、産業について考える。 2年 大島の特色や魅力を調査し、多くの人に伝えていくためには何が必要かを考える。 3年 海岸清掃、海岸調査の活動を通して、大島の環境を守るとともに、多くの人に繰り返し大島に来てもらうために必要なことを考える。</p>	<p>1年 大島での養殖体験や調理体験を通して、人のかかわりの大切さを身に付ける。 2年 大島や気仙沼市内での職場体験学習を通して、将来社会人として必要な基本的な知識を身に付ける。 3年 修学旅行や進路探究学習を通して、様々な視点から自己を見つめ、自主的な進路選択や自己の生き方を考える。</p>
<p>島ゼミ（個人課題探究活動） 大島について様々な視点から個々に探究課題を見つけ、その解決方法を考え、計画的に活動する力を高める。また活動を通して知ったこと、身につけたことを発信するとともに、効果的に伝えるための手段を身につけさせる。</p>			

志教育との関連
1年：地元の産業との触れ合い、身近な人のかかわりから自分の中学校生活について考える。 2年：職場体験学習を通して、気仙沼の産業について考えるとともに、自己の将来について考える。 3年：修学旅行、進路探究の活動を通して、自己実現のために必要なことを具体的な実践に結び付ける。

教科との関連									
国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保健	技術	家庭
調べ学習やまとめ方についての基礎・基本の学習	地理・産業・歴史の学習、資料収集と活用の方法	調査したことを統計的に考察する学習	自然(海)の生物と環境(水質調査等)の学習	文や言葉を活用した国際交流と異文化学習	音楽の基本的な理論と故郷の詩の歌唱の実践	ユニバーサルデザインを加味した作品の制作	ダンスや水泳、野外活動の理論と実技学習	目的に応じた、工具やコンピュータ等の理論と活用	地場産品をの特色を生かした調理と日常生活への活用

4 海洋教育の中心となる主な活動の内容

海洋教育に関する4つの視点「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」を柱に、小・中9か年の教科・領域を合わせた指導で横断的・継続的に学習に取り組んだ。

(1) 海洋講話

- ①ねらい
 - ・海洋に関する講話を聞くことにより、海に対する関心を高め、海洋教育に取り組む態度を育成する。
 - ・海を介して大島と世界がつながっていることを理解し、志を高く持ち将来に向けて希望を持って努力する態度を育成する。
- ②学習内容 実際に漁業に従事され、生計を立てておられる方々からのお話を聞き、今年度の総合的な学習の時間の探究活動の参考にする。



6月12日実施

(2) ホタテ養殖体験学習

- ①ねらい 大島ならではの地域資源を活用し、故郷の良さを知り、体験活動で身に付けた知識や技術を生活に生かす力を育成する。
- ②方法
 - ・海に設置した「いかだ」で実際にホタテの養殖を行う。
 - ・小学6年生で体験した学習を継続、中学校においても1,2年生で体験学習を行う。
- ③学習内容 1学年：背ばたき（異物除去）、耳吊り 2学年：背ばたき（異物除去）、水揚げ
3学年：創作料理
- ④その他 体験学習実施に当たっては、大島漁協青年研究会の助言のもと、安全に留意して実施した。



1学年：背ばたき、耳吊り
7月17日実施



2学年：背ばたき、水揚げ
6月25日実施



3学年：創作料理
11月25日実施

(3) 漂着物調査・海浜清掃

- ①ねらい
 - ・海上保安署で実施する「海洋環境保全推進活動」の一環として行う漂着物調査に協力することにより、海洋環境保全思想の普及・啓発を図る。
 - ・自分たちの住んでいる地域の浜を清掃することにより、地域の美しい自然を大切にする心を育てる。
 - ・協力して清掃することにより、協力することの大切さに気付かせる。



7月1日実施

- ②方法 気仙沼海上保安署の方々のご指導のもと、漂着物を集めその種類などの調査を行う。

(4) 櫂練り体験

- ①ねらい
 - ・櫂練り活動を通して、地域の伝統文化に触れ、ふるさとの良さを見つめ直す。また、その良さを教えてくれる地域の人々とのふれあいを通して、地域との関わりを深める。
- ②方法
 - 地域の方々を講師とし、船を用意していただいて櫂練り体験を行う。
- ③学習内容
 - ・3艇ほどの船に生徒が分乗し、1人ずつ櫂練り体験を行う。



9月30日実施

(5) 島ゼミ個人探究活動

- ①ねらい
 - 大島について様々な視点から個々に探究課題を見つけ、その解決方法を考え、計画的に活動する力を高める。また活動を通して知ったこと、身に付けたことを発信するとともに、効果的に伝えるための手段を身に付けさせる。
- ②方法
 - ・課題設定のためのウェビングや講話などを計画する。
 - ・見学、体験活動等の計画を行う。・発表の準備を行う。
- ③学習内容
 - ・これまでの経験や学習を基に大島に関する探究課題を設定する。
 - ・探究活動を行い。その活動を通して知ったこと、身に付けたことなどを発表する。



(6) 表現活動 演劇【全学年】

「漂着物調査」「島ゼミ個人課題」での活動で学んだ内容を踏まえ、海洋ゴミをテーマにした「演劇」に取り組んだ。生徒が協力して台本を作成し、文化祭(10/24)で披露した。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・島ゼミ探究活動における課題の設定の段階で、昨年以上に様々な視点を持つことができ、海産物、環境問題、観光、レジャー、地域の特産物、災害等の多分野にわたる課題を設定することができた。大島(自分たちの住む地域)という視点に立って課題設定を行ったが、グローバルな視点へと広がるきっかけとなっていた。
- ・様々な活動を通して、地域のみならず地球の将来のためにはどのような行動が必要なのかということを考え、未来ことを考えた行動しようとする態度を育てることにつながったと言える。



(2) 課題

- ・調理体験や探究活動の計画を作成する段階で、教員や講師からの助言を指示と受け取り、自らの考えを深めることなく探究活動を行ってしまう生徒が多い。
- ・多くの生徒が、「今後の取り組み」や「更に調べたいこと」をレポートとしてまとめている。限られた学習時間の中で、これらを今後どのように実行に移し、継続した取り組みとしていくのかを模索する必要がある。

「海と生きる」気仙沼

～未来のために私たちにできること～

【総合的な学習の時間の計画】

1 全体目標

探究的な見方・考え方を働かせ、海洋に関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。

- (1) 海洋に関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴や良さに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。
- (2) 海洋に関わることの中から問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。
- (3) 海洋に関わる探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

2 学習内容

(1) テーマ

＜海洋教育＞ 「海と生きる」気仙沼 ～未来のために私たちにできること～

(2) 概要

気仙沼市の未来を考えることを通して、気候変動への対策や海の豊かさを守ること等が、自分たちの暮らしを守ることにつながっていることを再認識させ、具体的な行動変容を目指す。

(3) ねらい（期待する生徒の姿）

探究的な活動を通し、課題意識の向上を図るとともに、課題解決の方法を多面的・多角的に考える力を一層養う。また、考えたことを多様な方法で表現し、外部へ発信することで表現力に磨きをかける。具体的な行動変容が見られるところまでを期待したい。

(4) 探究課題

①第1学年 「食・環境」 ＜ミッション型＞

食文化を切り口に、震災後の地形や海・漁港の変化、防災・減災の取組等、様々な視点から気仙沼市を取り巻く環境について改めて見直すことで、現状・課題を把握する。「食・環境」の面において、未来の気仙沼のために自分たちにできる具体策を考えていく。

②第2学年 「地域・産業」 ＜選択型 ※ミッション型 or 自己決定型＞

気仙沼市の地域・産業の特色や魅力について、地域の方々との関わりや職業体験等を通して学びを深めさせる。「地域・産業」の面において、気仙沼市がさらに発展を遂げるために、自分たちにできる具体策を考えていく。

③第3学年 「未来の気仙沼」 ＜自己決定型＞

「食・環境」「地域・産業」を通して考えたことを基に、気仙沼市が掲げる「海と生きる」まちづくり・人づくりのために、自分たちにできる具体策を考え、発信する。

3 海洋教育で目指すもの

(1) 海洋教育のねらい

地域との結びつきを大切にし、人と関わりながら気仙沼の未来を考えることを通して、自分の考えを持ち、行動する生徒の育成を目指す。

(2) 重視する視点

- ① 協働的・・・人と関わり、協力して実践する
- ② 主体的・・・課題を自分事としてとらえ、思いや考えを表現する
- ③ 意欲的・・・挑戦し、粘り強く取り組む

(3) 海洋教育で育てたい資質・能力

海洋教育で育てたい資質・能力 ①…重点的に育てたい力 ②…育てたい力		学年		
		1	2	3
①人と関わる力・協力して実践する力	課題解決のために交流したり、話し合ったりする力/多様な価値を認め、相手の立場に立って考え、行動しようとする態度	◎	○	○
②自分事としてとらえる力・自分の考えを持つ力	他者の意見や情報を基に、自分なりに、より良い解決策を見出す力	○	◎	○
③思いや考えを表現する力	収集した情報や調べた結果を関連付けて整理・分析し、自分の思いや考えを伝える力	○	○	◎
④挑戦する力	自分たちの生活や暮らしの在り方を見直し、行動する態度/失敗しても粘り強く取り組む力	◎	◎	◎

4 評価

(1) 観点と評価規準

評価の観点	評価規準		
	1年生	2年生	3年生
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の食・環境についての現状や特徴を理解している。 ・地域の食・環境と海洋及び自分との関わりを理解している。 ・各教科等で学んだ知識や技能を生かしている。 ・情報を比較、分類、関連付けて考えるなど、探究の過程に応じた基礎的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や産業についての現状や特徴を理解している。 ・地域や産業と海洋及び自分との関わりを理解している。 ・各教科等で学んだ知識や技能を生かしている。 ・情報を多面的・多角的に見る、具体化するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりと海洋及び自分との関わりを理解している。 ・まちづくりや地域活性化の取組に関わる人々の思いや願いを理解している。 ・各教科等で学んだ知識や技能を生かしている。 ・情報を構造化する、抽象化するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。
思考力 ・ 判断力 ・ 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を決定し、見通しを持って計画を立てている。 ・必要な情報を収集し、整理している。 ・調べたことを相手や目的に応じてまとめている。 ・学習活動を振り返り、次の活動に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を見だし、見通しを持って計画を立てている。 ・必要な情報を収集し、多面的・多角的な視点で分析している。 ・調べたことを相手や目的、意図に応じてまとめている。 ・学習活動を振り返り、次の活動に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を見だし、見通しを持って計画を立てている。 ・必要な情報を収集し、視点を定めて分析している。 ・調べたことを相手や目的、意図に応じて論理的に表現している。 ・学習活動を振り返り、次の活動・生活に生かしている。
学びに向かう力 ・ 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に、課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。 ・協力して探究活動に取り組もうとしている。 ・海洋と自分との関わりを見直し、自己理解に努めている。 ・他者の考えを受け入れ、尊重しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に、課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。 ・協力して探究活動に取り組もうとしている。 ・海洋と自分との関わりを見直し、自己理解に努めている。 ・異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に、課題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。 ・自他の良さを生かしながら、協力して探究活動に取り組もうとしている。 ・海洋と自分との関わりを見直し、自己理解に努めている。 ・多様な考えを受け入れ、尊重しようとしている。 ・積極的に地域の活動に参加しようとしている。

(2) 評価の場面（方法）

- ①学習計画表の作成（計画表の点検）
- ②課題への取組（観察，自己評価，相互評価）
- ③学習計画表や自己評価の記録，収集した資料・情報等（ポートフォリオによる評価）
- ④学習のまとめ・成果物等（観察，パフォーマンス評価，自己評価，相互評価）
- ⑥文化祭での発表（観察，自己評価，相互評価，他者評価）

【総合的な学習の時間年間予定表（学年毎の活動計画）】

	行事等	1年生 「食・環境」	2年生 「地域・産業」	3年生 「気仙沼の未来」
4月				
5月	始業式			
6月	入学式	○ガイダンス①	○ガイダンス①	○ガイダンス①
7月	前期中間テスト 保護者面談	OG.T.（事業者）講話②	OG.T.（事業者）講話②	OG.T.（事業者）講話②
8月		○課題設定① ○グループ編制①（2～4人） ○課題探究 （夏休み課題）	○課題設定① ○グループ編制①（2～4人） ○課題探究 （夏休み課題）	○課題設定① ○グループ編制①（2～4人） ○課題探究 （夏休み課題）
9月	運動会 前期末テスト 修学旅行 新人大会	○課題設定② ○課題探究⑬ （フィールドワーク含む） ○まとめ作業のための 技術講習②	○課題設定② ○課題探究⑭ （フィールドワーク含む） ○まとめ作業のための 技術講習②	○課題設定② ○課題探究⑮ （フィールドワーク含む） ○まとめ作業のための 技術講習② ○修学旅行④（豊洲見学）
10月	前期終業式 職場体験 文化祭 宿泊学習	○まとめ作業⑧ ○発表準備② ○文化祭発表④ （食・環境について） ○宿泊学習④ （海洋に関する体験）	○職場体験⑫ ○まとめ作業⑧ ○発表準備④ ○文化祭発表④ （地域・産業について）	○まとめ作業⑫ ○発表準備④ ○文化祭発表④ （気仙沼の未来について）
11月	教育相談 総合防災訓練 後期中間テスト 海洋教育こども サミットin気仙沼	○総合防災訓練⑥ ○防災教育①	○総合防災訓練⑥ ○防災教育① ○立志式に向けて⑤ （これまでの学びと 将来を結び付けて）	○総合防災訓練⑥ ○防災教育①
12月	立志式	○次年度に向けて① （さらに追究したいこと）	○立志式発表② ○次年度に向けて① （さらに追究したいこと）	○自分にできること① （これまでの学びのまとめ）
1月				○卒業に向けて②
2月	後期期末テスト			○卒業に向けて④
3月	入試 卒業式	○職業講話② （次年度の職場体験に つながるもの）		
	合計時数	50	70	70

※発表の場の企画：パイオニアスクールとの交流等

【今年度の海洋教育の成果と課題】

<成果>

- ・ 生徒自身が設定した課題であるため、主体的に活動する姿が見られた。
- ・ 学年発表後の保護者向け発表という流れにしたことで、他者により良く伝えるための工夫がなされ、表現力の向上につながった。



気仙沼の産業を盛り上げようと
考案した商品のデザイン
左上：さメモ、右上：コースター、
右下：かもメモ

海と生きる気仙沼の未来を考
えるために、地元のフカヒレ工
場を訪問し、取材



地域の学習支援組織の協力を得
ながら、自分たちの考える未来の
気仙沼についてプレゼンテーショ
ン

<課題>

- ・ 生徒の課題設定時の教師の支援の在り方
- ・ 地域人材の活用の工夫
- ・ 地元企業とのより良い連携の在り方

気仙沼市立唐桑中学校

「海のまち」唐桑の未来を考える

～まちを知り、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか～

1. 海洋教育にかかる計画（総合的な学習の時間全体構想図－抜粋）

「総合的な学習の時間」全体構想図



テーマ「まちを知り、どのようなまち」を目指し、そのためにどうしていけばいいのか？」

	学習テーマ（問い）	主な学習活動	現代の課題等
1年	探究的な学習「防災」 「防災のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか	1 全体導入、問題紹介、ノート指導 2 単元①「災害に備える－海抜表示」（集団学習） 3 夏休み自主活動 4 単元②「自然に感謝する」（集団学習） 5 文化祭発表 6 個人ノート、レポートづくり	自然破壊、自然災害、食糧問題、温暖化、少子高齢化、第一次産業衰退、TPP、震災、仮設住宅
2年	探究的な学習「福祉」 「福祉のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか	1 全体導入、問題紹介、ノート指導 2 単元③「福祉と共生を学ぶ」（集団学習） 3 夏休み自主活動 4 単元②「仲間と共に歩む」（集団学習） 5 文化祭発表 6 個人ノート、レポートづくり	いじめ、不登校、少子高齢化、ニート、引きこもり、挨拶や言葉、男女、宗教、コミュニケーション、震災復興、家族の問題、障がい者との共生
	職場体験学習	希望する職場での体験学習から職業生活の実際を学ぶ	
3年	探究的な学習「海」 「海のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか	1 全体導入、問題紹介、ノート指導 2 単元①「人々を元気にする作戦を考える」（集団学習） 3 夏休み自主活動 4 単元②「私の考えた大切なこと」（集団学習） 5 文化祭発表 6 個人ノート、レポートづくり	地域づくり、国際紛争、男女や幼老の問題、人権問題、虐待や暴力、格差社会、自然破壊
	進路探究学習	修学旅行で企業等を訪問して自己の進路の探究に役立てる	

3. ねらい

- (1) 海洋に関する調査活動や体験活動を通して、海洋と人間、そして古里の関係についての理解を深める。
- (2) 探究活動を通して、地域の魅力を知るとともに、課題の発見と課題解決方法を探りながら、将来の生き方について考える。

4. 学習活動の概要

総合的な学習の時間を活用して「まちづくり」をテーマに学年ごとに取り組んだ。1学年では「防災のまち」、2学年では「福祉のまち」、3学年では「海のまち」をテーマに学習した。

(1) 1学年「防災のまち唐桑」

- ① 今年度は、地震の影響による津波のみならず地域に発生する災害について調査し、人々の暮らしを守るために自分たちにできることを探る防災・減災の学習に力を入れて取り組んだ。

「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」を訪問し、震災当時の様子を知ったり、当時の様子を想起したりしながら、震災が人々に与えた影響など、今後も起こり得る災害と絡めて調査した。震災時に幼少期だった生徒達は、当時の記憶があまりない現状にある。震災の恐怖や自然の猛威について、改めて知ることができ、自分事として捉えるための深い学びとなった。



【気仙沼市震災遺構・伝承館訪問の様子】

- ② 防災新聞作成では、洪水、土砂崩れ、高潮等、津波のほかにも全国各地で頻発する災害について調べ、身の守り方、避難の方法などを調査したものをまとめ発表した。防災カルタの作成も行い、当初、地域の幼稚園児たちを前に学習した内容を披露する予定だったがコロナ禍のため、校外では行わず発表形態を変更して校内発表のみにとどめた。また、震災を後世に伝える方法についても考えながら活動した。

(2) 2学年「福祉のまち唐桑」

地域在住の若手の社会人を講師に招き、職業講話「ミライブラリー」を実施した。漁師や市役所職員など5名の講師を招き、対話形式でローテーションしながらグループ毎に講話を聞く方法で行った。仕事のやりがいや働く理由など、生徒達が今後の自分の生き方と照らし合わせながら考える様子が見られた。将来、漁師を目指す生徒が中にいることから、地元の漁師の方から直接いろいろなお話を聞くことができ、充実した講話となった。



【職業講話「ミライブラリー」の様子】

(3) 3学年「海のまち唐桑」

3学年は、「海のまち唐桑の未来を考える」というテーマのもと、現在の唐桑から未来の唐桑にどのようにつなげていけばよいかを考えるため、地元の浜を訪問したり、地域の方を講師に招き講話を通じて感じたりして見えた課題についてグループ毎に調査活動に取り組んだ。

① 地元の浜を訪問

地域にある浜を訪問し、沿岸の環境調査を行った。砂浜ではなく石浜であること、どのようなゴミが漂着しているか、海洋に浮かぶゴミの種類等を確認しながら清掃活動を行った。途中、見慣れない文字の印刷された漂着物や家庭ゴミにはないゴミが交じっていたりと新たな気づきが沢山あった。持ち帰ったゴミの分別を行いながら、なぜゴミが沿岸に流れつくのか、どこからくるのか、人間を含む生態系への影響など、見えた課題からグループ毎に小テーマを設定し、課題解決学習に取り組んだ。

② ゴミ削減に向けた取組

漂着するゴミの中のプラスチックゴミに着目し、身近なところに溢れているプラスチックを減らすにはどのようにしたらよいかを研究した。実際にゴミを収集する装置を試作し、プール上で試したり、ゴミを減らすために人々へ訴える広報ポスター作成に取り組んだりした。自分たちの身近なところで出来ることを考え、環境をよくするために実践に移す積極的な姿勢が見られた。



【3年：浜でゴミを拾う様子】

5. 成果と課題

(1) 成果

- ① コロナ禍の中での実践のため、活動制限があったりしたが可能な限り地域の公民館や地域協働教育支援員の方々の協力を得て充実した活動を実践することができた。生徒たちは、海洋教育の探究活動を通して、古里・唐桑のよさや魅力を再発見するとともに、地域について課題があることについても知ることができた。
- ② 海洋教育を通して、古里のためにこれからの自分たちにできることとして、将来への生き方につなげようという思いを持つことができた。

(2) 課題

- ① 全校テーマを基に、各学年で生徒が自ら課題解決に向けて探究的に取り組むカリキュラムになるよう工夫・改善を図っていかなければならない。
- ② 仲間の発言や教師の提案に頷き認めるだけにとどまらず、批判的な意見や考え方を深めさせ、思考力の向上につなげたい。
- ③ 充実した探究活動が展開できるようにするために教員の知識・技術のスキルアップ研修会を実施する。
- ④ 地域の人々とのつながりを大切にしながら、地域とともに生徒達を育てていく体制を今後も継承できるよう、家庭を含む地域との連携を深めていきたい。

2. 総合的な学習の時間学年別計画一覧表

令和2年度 総合的な学習の時間【学年別一覧表】

気仙沼市立唐桑中学校

月	時数	1学年	月	時数	2学年	月	時数	3学年
7	1	ガイダンス「防災のまちとして」	7	1	ガイダンス「福祉のまちとして」	7	1	ガイダンス「海のまち唐桑を知る」
	2	・テーマの確認		2	テーマⅡ「福祉と共生」課題設定①		2	・海を知る、感じる①(中の浜)
	3	・課題設定		3	②		3	【 課題設定 】
	4	唐桑で起こり得る災害について考える		4	③		4	・SDGsを知り、課題設定につなげる。
	5	・外部講師招聘による講話		5	キャップハンディ計画①		5	・グループ毎の課題設定
8	6	・大震災の状況	8	6	キャップハンディ計画②	8	6	・学習計画を立てる。
	7	・地震、津波、洪水、土砂災害等につ		7	キャップハンディ計画③		7	・地元を知る①(巨釜)
	8	津波伝承館見学		8	キャップハンディ体験①		8	・海を知る・感じる②(中の浜)
	9	・施設見学		9	キャップハンディ体験②		9	・地元を知る②(半造)
9	10	・大震災、津波等の被害について	9	10	キャップハンディ体験③	9	10	・地元を知る③(笹浜漁港)
	11	・語り部からの震災の聴講		11	キャップハンディ体験④		11	修学旅行準備①
	12	伝承館訪問の振り返り		12	福祉講話①		12	修学旅行準備②
	13	故郷の地形を調査しよう		13	福祉講話②		13	修学旅行準備③
	14	・フィールドワーク①		14	福祉講話③		14	修学旅行準備④
	15	地形調査 等		15	福祉講話のまとめ①		15	修学旅行準備⑤
	16			16	福祉講話のまとめ②		16	修学旅行準備⑥
10	17	フィールドワーク①振り返り	10	17	福祉講話のまとめ③	10	17	ビデオ会議に向けての準備
	18	故郷の地形を調査しよう		18	テーマⅠ「人はなぜ働くのか」課題設定①		18	高校生とのビデオ会議
	19	・フィールドワーク②		19	課題設定②		19	・海を知る・感じる③(中の浜)
	20	地形調査 等		20	課題設定③		20	・海を知る・感じる③(外洋)
	21			21	職業講話Ⅰ①		21	修学旅行①
	22	フィールドワーク②振り返り		22	職業講話Ⅰ②		22	修学旅行②
11	23	防災の啓発活動	11	23	職業講話Ⅰ③	11	23	修学旅行③
	24	・防災新聞作成		24	職業講話Ⅰのまとめ①		24	修学旅行④
	25	・防災標語作成		25	職業講話Ⅰのまとめ②		25	修学旅行⑤
	26	・防災カルタ作成 等		26	職業講話Ⅰのまとめ③		26	修学旅行⑥
	27			27	テーマⅣ「これまで学習したことを文化祭で発表しよう」		27	修学旅行⑦
	28			28			28	修学旅行⑧
	29			29	・発表のためのガイダンス		29	修学旅行⑨
	30			30	・発表内容・発表方法の検討		30	修学旅行⑩
	31			31	・担当者・担当グループ決め		31	修学旅行①
	32			32	・発表方法の調整・準備 等		32	修学旅行②
	33			33			33	修学旅行③
	34	テーマⅣ「これまで学習したことを文化祭で発表しよう」		34			34	修学旅行④
12	35		12	35	職業講話Ⅱ(ブース)準備①	12	35	修学旅行まとめ①
	36	・発表のためのガイダンス		36	職業講話Ⅱ(ブース)準備②		36	修学旅行まとめ②
	37	・発表内容・発表方法の検討		37	職業講話Ⅱ(ブース)準備③		37	修学旅行まとめ③
	38	・担当者・担当グループ決め		38	職業講話Ⅱ(ブース)発表①		38	修学旅行まとめ④
	39	・発表方法の調整・準備 等		39	職業講話Ⅱ(ブース)発表②		39	修学旅行まとめ⑤
1	40		1	40	職業講話Ⅱ(ブース)発表③	1	40	修学旅行まとめ⑥
	41			41	職業講話Ⅱ(ブース)発表④		41	学習のまとめ
	42			42	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑤		42	・プレゼン資料作成の学習
	43	災害時にできること		43	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥		43	・プレゼン資料作成
2	44	・サバ飯作り体験	2	44	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥	2	44	・役割分担
	45	・災害時に必要な物について		45	職業講話Ⅱ(ブース)まとめ①		45	学年学習発表会①
	46	等		46	職業講話Ⅱ(ブース)まとめ②		46	学年学習発表会②
	47			47	職業講話Ⅱ(ブース)まとめ③		47	進路探究学習①
	48			48	職業講話Ⅱ(ブース)まとめ④		48	進路探究学習②
3	49	1年間の活動の振り返り	3	49	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑤	3	49	進路探究学習③
	50			50	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥		50	進路探究学習④
				51	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥		51	進路探究学習⑤
				52	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥		52	進路探究学習⑥
				53	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥		53	進路探究学習⑦
				54	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥		54	進路探究学習⑧
				55	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥		55	進路探究学習⑨
				56	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥		56	進路探究学習⑩
				57	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥		57	
				58	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥		58	
		59	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥	59				
		60	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥	60				
		61	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥	61				
		62	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥	62				
		63	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥	63				
		64	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥	64				
		65	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥	65				
		66	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥	66				
		67	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥	67				
		68	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥	68				
		69	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥	69				
		70	職業講話Ⅱ(ブース)発表⑥	70				
1学年	50時間	2学年	70時間	3学年	70時間			

気仙沼市立大谷中学校

「海と生きる大谷地区が元気になるプロジェクトを提案し行動しなさい」

本校の海洋教育の位置づけ

地域、自然を活用した様々な活動を通して、大谷の海と山の関係から地域のよさを知り、「海と生きる大谷地区が元気になるため」のプロジェクトを提案し、行動する実践力を育む。そのために、地域企業の方や研究者の方々に講師になっていただき、山と海の関係についての学習活動の他に、海藻養殖、磯焼け、ウニの畜養の実態、大谷の各漁協（魚市場）に水揚げされる魚種調査、大谷道の駅での養殖したウニの販売などの調査・体験活動を踏まえた探究的な学習を行う。それらの活動・学習を通し、自分たちの生きる地域の魅力について知り、地域に対する愛着を深める。

○時数 4月から3月（総合的な学習の時間50、理科、社会科、技術家庭科、国語）※他教科は次年度以降に関連項目で実施する。

○関連 理科、社会科、技術・家庭科

○目標

- (1) 与えられた課題を解決するためにどのような方法を用いて課題解決に迫るか自ら検討し、調べ学習や体験学習にとどまらない活動を実施する。
- (2) 「海」を視点とし、様々な問題状況の中から、小課題を発見・設定する。
- (3) 各教科で身に付けた専門知識や情報を比較したり関連付けたりして問題解決に向けて考えさせる。
- (4) 地域の一員としての自覚を持ち、郷土を愛する心を培い、現在そして将来、生まれ育った地域や自分の住む場所の未来を考えさせる。

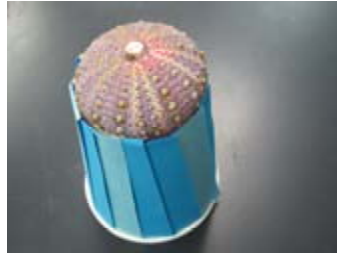
全体計画

	6月	7月	8月	8月	9~11月	12月	2月
日程	オリエンテーション 企画書作成	企画書採択 関係機関とのアポイント 活動開始	調査活動 現地活動	フィールドワーク実施	調査活動 探究活動	まとめる発表 大谷公民館での成果発表会	海洋教育全国ネット
活動の流れ	<p>プロジェクト型学習 「海と生きる大谷地区が元気になるプロジェクトを提案し行動しなさい」 (50時間)</p> <p>オリエンテーション ① 大谷の海を知る。(大谷漁協の講師) ② 日本や世界の海、各所問題について。(研究者) ③ 昨年度までを知る。(ウニ、海藻、プラ、リサイクル) ④ 課題をとらえる。(それぞれについて課題を知り、規制実施)</p> <p>現状を知る！課題意識を持つ！</p> <p>子どもの探究心を刺激し、地域の人、専門家など様々な人と関わることで、探究し、問題を解決し、より良い行動、提案を目指して取り組ませる！</p> <p>課題設定:オリエンテーションを経て、自分で課題設定し、プロジェクトを立ち上げる！ ＜課題例＞※以下の課題は教師側からは与えない、あくまで生徒の課題意識から設定。 A: 海洋ゴミとプラスチックを減らすために行動を起こせ！ B: ウニの生態を飼育を通して明らかにし、商品価値の高いウニをつくれ！ C: 磯焼けを止め、海藻を増やすために行動を起こせ！ D: アワビと磯焼けの関係を明らかにし、安定してアワビがとれる環境をつくれ！ E: 地球温暖化による大谷の海への影響を明らかにして、地球温暖化に歯止めをかけるために具体的な行動に移せ！</p> <p>企画書作成 企画書を作成し、見通しの中で何をどのように調査するかなどの日程を自分たちで計画立案。</p> <p>調査活動 各関係機関と連携しながら、体験活動や調査活動を実施し、そこから大谷中学生としてできることを提案する。 ※インターネットによる調べ学習で終わる学習形態を少なくする！</p> <p>成果発表および提案 地域の人や学習に携わった方々、報道機関を招致して、大人に提案する！ 地域の方と連携して取り組んだことを発表し、更に協力を依頼する！ 大谷公民館などで地域住民に提案する。</p>						
他教科との関連	<p>【理科】 ・わかめとめかぶ遊走子の観察と海藻の生活史、天気の変化を予想しよう、気象災害への備え、パファンニを用いた種ウニ実態、セキツイ動物の出現と進化、ウニの有性生殖と発生と産卵観察による飼育</p> <p>【社会】 ・世界から見た日本の姿、日本の諸地域、北海道地方</p> <p>【技術・家庭科】 ・パソコン技術、地域の恵みを使った調理実習、持続可能な社会を考える</p> <p>【国語】 ・言語活動を通して、自分の意見を表現すること、課題の仕方、考えを練り合う技術を学ぶ</p>						

本校で実践した探究的（協動的・往還的）な活動の具体事例

1. 海洋教育の中で、地域を元気に活性化するためにはどうするかを子供達に考えさせ、調査や探究活動を実施しながら、「私たちにできること」を考えて行動させる活動を実施した。

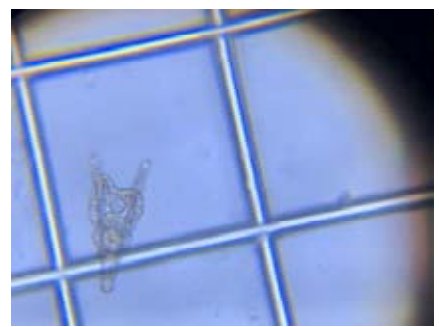
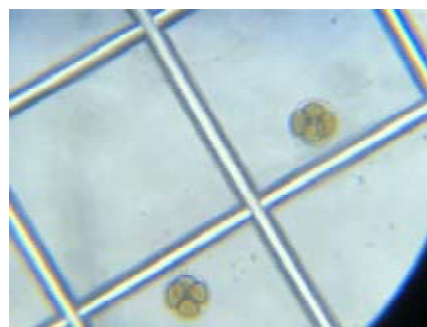
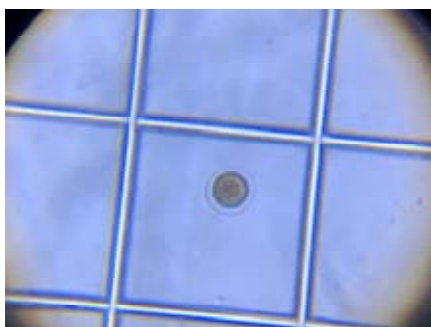
- ・プラスチックストローを紙ストローに
- ・ウニの殻を使って作ったウニランプ
- ・海藻を使用したお菓子作りで地域の特産品に
- ・道の駅に水族館プロジェクト
- ・ウニ味のソフトクリームの開発プロジェクト
- ・海藻養殖を通じた磯焼けの撲滅
- ・貝毒を撲滅するためのプロジェクト
- ・新聞バックでプラスチック削減プロジェクト



以上のような取り組みを実践した。地球温暖化を撲滅するために私たちにできることという視点では、給食のストローを紙ストローに変えることができないかという提案を実施した。普段の生活の中で削減できるプラスチックの他に、給食で毎日使用されているプラスチックストローの膨大な量に気付き、紙ストローを使用したときの費用や使用感などを調べたり検証したりした。

また、地域の厄介者となっているウニを活用することで、地域おこしができるのではないかと考えたグループでは、ウニ味のソフトクリームを販売すればインパクトがあり、地域に多くの人を呼び寄せることができるのではないかと考え、試作品を作り、道の駅の駅長さんに提案した。その他、ウニの殻を用いたランプを作成して道の駅に置き、イルミネーションとして活用できるのではないかと考えウニランプを作成し、道の駅の駅長さんに提案した。

2. ウニの生殖の実験から継続観察の実施、厄介者になっているウニがどのように誕生するのかを中学校3年生の理科の生物単元で実施した。※略案は別紙参照

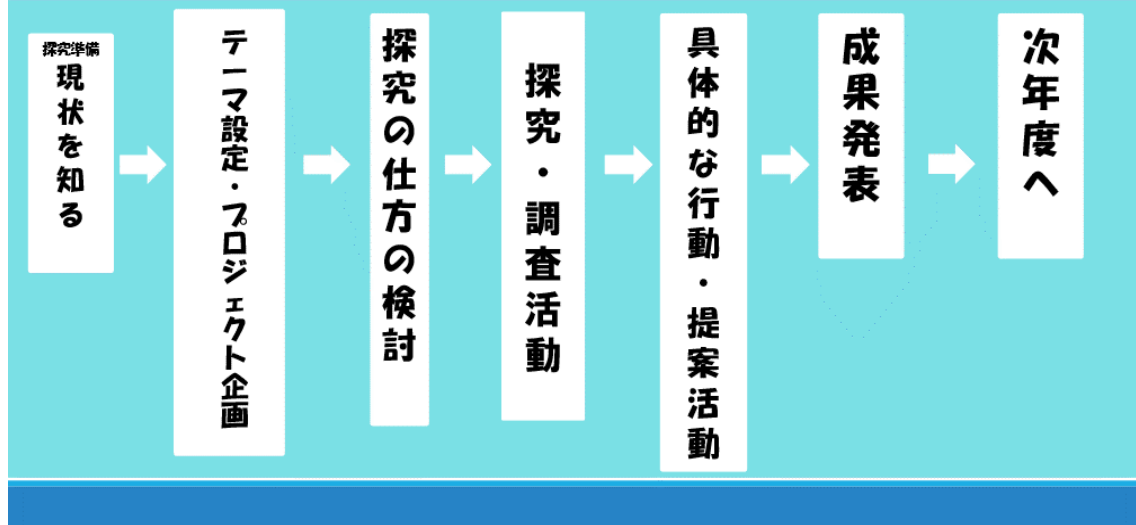


今年度改善した取組の概要（改善の視点や意図、改善の方向や計画、改善した内容など）

1. 調べ学習に重きを置いていた学習活動からプロジェクト型の探究活動に切り替えたこと。

地域との関わりや課題の中から、中学生である「私たちに」できることは何かを考え、提案することで、自分達が住んでいる地域を元気にするためにはどうするかを考え行動できる生徒を育てるような活動計画を立て、実践した。

プロジェクト型の探究学習の流れ



2. デザインシートを用いた誰もが実施できる活動計画の作成

ESD 教育や海洋教育を研究者が行うような難しい学習と捉えている教員が多く、実施にあたってはハードルが高い。そのため、関係機関先をまとめ、どのような道筋で探究活動を進めていくかを一目見れば分かるデザインシートを作成した。

3. 外部連携先のリスト化

担当者以外でも、子供達の探究的な学習を深めるために研究者、研究施設、漁業者、道の駅、NPO 団体などをリスト化して、教職員全員が様々な関係機関とつながることができるようにした。

科学的な探究活動、社会学的な探究活動の両面で活動を支援いただける連携機関とあらかじめ繋がりをつくり、子供の探究を深める環境を構築した。

主な連携機関	内容
大谷道の駅	地域企業の事業と山と海の関係の学習、養殖
大谷漁協, 三島漁協, 赤牛漁協	大谷の各漁協(魚市場)に水揚げされる魚種調査や復興に関するインタビューなど、海藻養殖、磯焼け対策
東京海洋大学	磯焼け対策の実際と具体的な手立てに関する講義
お茶の水女子大学湾岸研究センター	ウニの発生、ウニはどのように大きくなるか ※教材の提供
北日本水産	アワビの稚貝、アワビの養殖
気仙沼市立大谷小学校	授業参観、拡大校内研修会
本吉共同調理場	大谷の物産を生かした新メニューの開発、給食での提供、
大谷地区コミュニティ協議会	海岸清掃、地域貢献活動
大谷まちづくり委員会	地域活性化のイベント(観光客を呼び寄せるにはどうするか)
はまわらす	地域のNPO法人で磯焼けやウニなど幅広く活動
水産試験場	貝毒研究、貝毒調査、なまこの飼育
地域の漁師さん2名	海藻養殖の作業体験、カジメ・アラムの遊走子の観察
地域の農家さん1名	海藻を肥料とした大谷芋の飼育

改善による（改善に向けた）成果と課題

教科などにおける往還的な取り組みは、様々な教科の中で検討していく必要があり、校内研修を利用した取り組みを実施していきたい。

海洋教育を通して、海との関わりだけではなくSDG'sの目標を達成できるように、地域の人、研究者、商品開発や販売の方々との関わりの中で、地元を元気にする取り組みを考えて行動する事を通して、海洋教育で目指したい資質能力を身に付けることにつながったと考える。

地元をどうすれば活性化することができるかという視点で、様々なアイデアを出し、地地域の道の駅の駅長さんに提案することができた。また「地域の一員として地域を愛し、生まれ育った住む場所の未来を考えて行動できたか」というアンケートの項目では、「地域に貢献しようとする気持ちが高まった」、「もっと大谷地区を元気にしたい」、「自分たちにできることは何かという視点で地域の事を考えることができた」などの記述から、**地域社会に貢献しようとする態度**の高まりが見られた。

課題としては、提案することはできたが具体的な行動に移すことができなかつたことである。具体的な行動とは、「メッセージ性のある発表活動（地域・行政への発表・提案活動）やアピール活動」、「商品化を目指した関係機関先との連携活動」などである。次年度は地域活性化を目指した具体的な行動に踏み込んでいける探究学習の環境を整えることを目標として活動していきたい。

別紙資料1：3年理科「ウニを活用した授業実践（有性生殖）」

過程	学習内容と活動	形態	指導上の留意点(○),評価(◇),活用の場(◎)
2分	1. 既存の知識を確認する。 ○有性生殖について確認する。 ○受精とは何か。	一斉	○課題につながるように、ついて視覚的に写真や絵で示す。(卵に精子がつく様子) ○ワークシートを配り、課題を書かせる。
	2. 本時の課題を把握する。 受精すると卵にはどのような変化が起こるか。	一斉	
3分	3. 予想を立てる。 ○「受精すると受精卵にはどのような変化が起こるか」考える。	個人	◎予想をいくつかあげて、全体で共有させる (考える場) 。
	4. 予想を全体で共有する。 ・「膜を張る」 ・「他の精子を寄せ付けない成分を出す」	一斉	○予め、ワークシートや板書に注意事項や流れを示しておく。
3分	5. 観察の方法を理解する。 ・実験器具についての使い方を習得する。	一斉	○精子と卵は排出させておき、すぐ観察できるようにしておく。
26分	6. 観察を行う ・卵の入ったプレパラートに精子を入れて、その様子を観察する。 ・受精した際の受精卵の変化をスケッチする。	個人	◇◎受精膜を観察することができる (活用の場) 。 ○観察の終わった生徒から観察器具を片付けさせる。
8分	7. 観察結果から分かったことをまとめ発表の準備をする。 ○「受精卵に起こった変化は何か」考える。	グループ	◎グループで、分かったことについてまとめ、発表させる (活用の場) ◇根拠をもとに課題を解決しようとしているか。
8分	8. 観察結果を共有し、本時のまとめを行う。	一斉	

第7回 海洋教育こどもサミット in 気仙沼(オンライン大会) 開催要項

海に学び、海と生きる ～海と自分たちとのつながりを考える～

1 目的

「海洋教育」は、海と人との共生を実現させるために、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を推進します。「第7回海洋教育こどもサミット」では、東北各地で行われている実践や研究を児童生徒が紹介し合い、意見交換や交流をすることで、地域理解や相互理解を深め、海洋教育への意欲と学びの質の向上につながる海洋リテラシーを育むために開催します。

2 期 日 令和2年11月27日(金) 13:10～16:55

3 会 場 各校 ※参加校は全てオンラインによる参加

4 主 催 宮城県気仙沼市教育委員会 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター
公益財団法人日本財団

5 共 催 岩手県洋野町教育委員会 福島県只見町教育委員会 気仙沼ESD/RCE推進委員会

6 後 援 文部科学省

7 協 力 東京海洋大学三陸サテライト

8 参加校

- ・気仙沼市：(唐桑幼稚園)、(大谷幼稚園)、(小泉幼稚園)
鹿折小学校、階上小学校、面瀬小学校、唐桑小学校、中井小学校、
小泉小学校、気仙沼小学校、大谷小学校、大島小学校、(松岩小学校)、
唐桑中学校、大谷中学校、大島中学校、面瀬中学校、階上中学校
- ・洋野町：大野小学校、林郷小学校、向田小学校、角浜小学校、宿戸小学校、
帯島小学校、中野小学校、種市小学校
種市中学校、中野中学校、(大野中学校)
- ・只見町：朝日小学校、(只見小学校)
只見中学校
- ・高等学校：宮城県気仙沼高校、宮城県気仙沼向洋高校、山形県加茂水産高校、
※()校は視聴のみ。 ※発表代表(各校4名程度)

9 オンライン使用アプリ web 会議ツール(発表用:Zoom 視聴用:YouTube)

10 日 程

【開会行事】13:10～13:20(10') ※全ての参加校をジョイント

① 開会宣言	進行(宮城県気仙沼高校 生徒)
② 児童生徒代表あいさつ	宮城県気仙沼市立唐桑小学校 児童
③ 教育長あいさつ	気仙沼市教育委員会教育長
④ 日程及び課題の共有	進行(宮城県気仙沼高校 生徒)

【共通の学び(本日の学びの導入)】13:20～13:40(20') ※全ての参加校をジョイント

実践事例発表 気仙沼市立鹿折小学校(10':千田康太教諭)、気仙沼市立大谷中学校(10':工藤孝幸教諭)

【実践発表・学びの交流】13:45～15:25 (100') ※4～5校1グループとなり、グループ内でオンライン交流

- ◆ オンライン発表① (A校が発表, B・C・D・E校は質問・意見・感想など) 13:45～14:00 (15')
 - ◆ オンライン発表② (B校が発表, A・C・D・E校は質問・意見・感想など) 14:05～14:20 (15')
 - ～ 休憩及び時間調整 (10')
 - ◆ オンライン発表③ (C校が発表, A・B・D・E校は質問・意見・感想など) 14:30～14:45 (15')
 - ◆ オンライン発表④ (D校が発表, A・B・C・E校は質問・意見・感想など) 14:50～15:05 (15')
 - ～ 休憩及び時間調整 (5') ～
 - ◆ オンライン発表⑤ (E校が発表, A・B・C・D校は質問・意見・感想など) 15:10～15:25 (15')
- ※どのグループも、発表10分+質疑5分(計15分)とする。発表10分間の使い方は自由とする。
※3校及び4校グループは、発表⑤の時間15分間を含め、弾力的な時間運用ができるようにする。

《オンライングループ編成(4または5校で1webグループ)》 ※発表順は異なります。

- 小学校
 - ◆ 小学校第1グループ 5校 鹿折小, 朝日小, 中井小, 中野小, 大野小
 - ◆ 小学校第2グループ 5校 階上小, 角浜小, 小泉小, 大島小 種市小,
 - ◆ 小学校第3グループ 4校 面瀬小, 向田小, 気仙沼小, 宿戸小
 - ◆ 小学校第4グループ 4校 唐桑小, 林郷小, 大谷小, 帯島小

※(松岩小・只見小) → 予め児童の関心ある発表テーマのグループに分かれて視聴
- 中学校
 - ◆ 中学校第1グループ 4校 唐桑中, 種市中, 面瀬中, 階上中,
 - ◆ 中学校第2グループ 4校 大谷中, 只見中, 大島中, 中野中

※(大野中) → 予め生徒の関心ある発表テーマのグループに分かれて視聴
- 高校
 - ◆ 高校グループ 3校 気仙沼高校, 気仙沼向洋高校, 加茂水産高校

※ オンラインによるグループ運営は、気仙沼市の発表校の海洋教育担当教員が行う。
※ オンライン発表①～⑤及び交流の司会進行は、児童生徒がグループ内輪番で担当する。
※ 発表者以外の児童生徒の視聴のみも可とする。(人数に応じて、発表者と同室・別室のいずれでも可。
視聴のみの児童生徒は途中での退出も可。)

【学びの深め合い・交流】15:35～16:35 (60') ※4～5校1グループとなり、グループ内でオンライン交流

- ① 全体説明 (ファシリテーター教員が、流れと方法, ルールを説明) (2')
 - ② オンライングループ (4～5校) で学びの振り返り (感想・主張など) (8')
 - ③ テーマ「海と自分とのつながり」について, ア, イの視点から意見を出し合い, 学びを深める (30')
 - ア 「海はどのような役割を担っているか。それらの役割は, 今どのような状況になっているか」
 - イ 「自分たちとはどのようなつながりがあるのか。自分(たち)は何をするのか(できるのか)。」
 - ④ 学びの整理・価値の共有 (各グループ代表: 全7名による全体へのオンライン報告・共有) (20')
- ※全ての参加校をジョイント

【振り返りのことば】16:40～16:45 (5') ※全ての参加校をジョイント

東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター長 田中 智志 氏

【閉会行事】16:45～16:55 (10') ※全ての参加校をジョイント)

- | | |
|--------------|--------------------|
| ① 閉会宣言 | 進行 (宮城県気仙沼向洋高校 生徒) |
| ② 児童生徒代表あいさつ | 岩手県洋野町立中野中学校 生徒 |
| ③ 閉会のことば | 宮城県気仙沼市立面瀬中学校 生徒 |
| ④ 閉会宣言 | 進行 (宮城県気仙沼向洋高校 生徒) |

小学校第1グループ 発表要旨一覧

第7回海洋教育こどもサミット in 気仙沼（オンライン大会）

気仙沼市立鹿折小学校

発表者氏名	西條 璃子、岸 明衣子、菅原 創、吉田 慧臣
タイトル	海と生きる気仙沼の魅力発信プロジェクト
発表の概要	気仙沼市は地形や潮目等の特色を生かした漁業の盛んな町である。魚市場の近くには、カツオやフカヒレを加工する工場に加え、造船所が立ち並ぶなど、世界に誇る水産都市の町といえる。児童は2年間の探究活動を通して「海と生きる町・気仙沼」を「国際・環境・産業・文化」の視点から学びより良いまちづくりについて考え行動に移している。地域の課題とグローバルな課題をつなぎ、広い視野で「海との共生」を目指す。
発表の仕方	パワーポイントとポスターを併せた発表

只見町立朝日小学校

発表者氏名	五十嵐 蓮、渡部 仁奈、馬場 由麻
タイトル	只見町の未来に向けて自分たちができることを提案しよう
発表の概要	朝日小学校では、「災害対策」をテーマに、只見町の良さや課題について、町役場に取材する活動を進めました。そして南相馬市にも取材をし、共通点・相異点をまとめました。まとめる中で「昔に比べて雨量が多くなり、川が氾濫してしまった。どうして雨量が増えているのかな。」という問いが子供から生まれ、追究活動を進めました。これまで取材・追究したことをふまえ、持続可能な只見町の発展のために、子供たちが提案をします。
発表の仕方	パワーポイント

気仙沼市立中井小学校

発表者氏名	千葉 蒼巳、鈴木 友惺
タイトル	海から学んだこと
発表の概要	身近にある海を学習の切り口にして、森と海のつながりや豊かな海について考える。また、海と生きる人々の努力や思い、そこに根付く文化等について分かったこと等を発表する。
発表の仕方	パワーポイントによる資料の提示、発表

洋野町立中野小学校

発表者氏名	岩脇 瑠菜、加藤 琥白、桜庭 真奈、中村 心響、畑田 晃汰
タイトル	洋野のウニが危ない ～洋野の宝と恵を守るためにできること～
発表の概要	中野小学校では、1・2年生の「生活科」で海に親しむ活動を行い、3～6年生の「海洋科」でさらに海に親しみ、海を知る活動を行い、海を守るためにどうすればよいのか考える学習を行います。また、高学年は、夏休みと冬休みに、海に関わることをテーマとし、海洋科自由研究を行い、1年中海に関する学習を行っています。中野小学校の6年生は、5年生時に、洋野町のウニのすごさについて学び、本州一のウニの漁獲量であることや洋野町の特産品として知られるウニに誇りと愛情をもっています。そんなウニですが実は抱える問題が……。その問題を解決するためにできることをみなさんへ提案します。
発表の仕方	パワーポイントを使い、子どもたちが発表する。

岩手県洋野町立大野小学校

発表者氏名	5年生児童 未定
タイトル	一人一芸の里に生まれて
発表の概要	『「一人一芸の里」って何?』大野の町にある看板を見て疑問に思った。「一人一芸の里」を調べていくと、大野とやませには深いかわりがあることに気づいた。大野はやませの冷害による被害を受けている。そのため、作物が育たず、出稼ぎに行ってしまう人が増えた。また、1980年代は大冷害と言われる大野の危機が訪れた。それを乗り越えるために、やませに負けない作物を作り育てたり、農業以外の仕事を見つけたりと自分たちにできることを探した。海とともに生きていくために、一人一人の知恵と努力で乗り越えてきたのが大野の「一人一芸の里」だ。
発表の仕方	プレゼンテーションでの発表の予定

小学校第2グループ 発表要旨一覧
第7回海洋教育こどもサミット in 気仙沼（オンライン大会）

気仙沼市立階上小学校

発表者氏名	村上 斗真（むらかみとうま）、芳賀 世剛（はがせいご）、大友 歩夢（おおともあむ）、角野 紗也（かどのさや）
タイトル	豊かな海・気仙沼 ～見つめよう、考えよう、気仙沼の水産業～
発表の概要	豊かな海・気仙沼を、水産資源や働く人々、自然環境等について、体験したことや教えてもらったこと、調べて分かったことを発表する。また、海の豊かさを未来へつなげるために、今の自分たちにできることを考え、実践していることについて報告する。
発表の仕方	プレゼンテーションによる発表（フリップ、実物等提示用資料も含む）

洋野町立角浜小学校

発表者氏名	川口美空、山下美生、鶴嶋桜我、高崎裕生
タイトル	海のごみの行方 ～角浜から世界へ～
発表の概要	①角浜の海岸及び海中のごみについて ②海洋全体のごみについて ③プラスチックごみについて ④ごみを食べた魚を人間が食べた際の害について 地元の海である角浜のごみの調査を行うことで、海全体に目を向け、世界の海のごみの調査、プラスチックごみについて、海のごみが人間に及ぼす影響について調べる。
発表の仕方	模造紙

気仙沼市立小泉小学校

発表者氏名	小野寺美空（5年）、及川来瑠未（5年）、及川 桜弥（5年）、廣藤 悠斗（5年）
タイトル	小泉の海から
発表の概要	近くに暮らしているながらもしっかりと向き合う機会が少なかった「海」。5年生児童が地域で行われているワカメ養殖体験に参加することをきっかけに、その「海」について学んだことや改めて考えたことを発表する。学校行事「海に親しむつどい」や全校遠足などの経験を振り返りながら、海の恵みや自然の雄大さ、現在直面している様々な問題へ目を向け、未来に向けて自分たちにできることなどを広く発信していきたい。
発表の仕方	パワーポイント

気仙沼市立大島小学校

発表者氏名	菊田 颯太、菊田 結衣、小松 乃彩、千葉 日和
タイトル	大島の海と生きる
発表の概要	本校では総合的な学習の時間を中心に、4年生はワカメ、5年生はカキ、6年生はホタテの養殖体験を行い、それをもとに各学年で課題を設定して探究活動を行っている。本校の6年生は、ホタテの養殖体験を通して、感じたことや興味をもったことから課題を設定し、近年の海の変化や、ホタテの養殖の持続可能性について、調べ考えたことを中心に発表を行う。
発表の仕方	パワーポイントでの電子データをもとにした発表

洋野町立種市小学校

発表者氏名	小林 海、小橋 瑛太、澤口 心那、藏谷 葵
タイトル	種市の未来の町づくり
発表の概要	自分たちの町の課題だと思うこと、現在町づくりに尽力している方から学んだことなどをもとに、未来の町のイメージ(どんな町にしたいか)を考え、「海を守り、海を生かしながら人々がつながることができる町づくり」について提案します。
発表の仕方	パワーポイント

小学校第3グループ 発表要旨一覧
第7回海洋教育こどもサミット in 気仙沼（オンライン大会）

気仙沼市立面瀬小学校

発表者氏名	吉田 美華、菅沼 来希、畠山 悠生、齋藤 心美
タイトル	ふるさと気仙沼の海 ―ごみの危機から海を守ろう―
発表の概要	面瀬小学校では、3・4学年で面瀬川の生き物や環境について学び、森里海に囲まれた豊かな環境であることや、その物質的なつながりについて学習してきました。また、5学年では体験学習を通して気仙沼の海の豊かさを実感するとともに、漂着したプラスチックごみが散乱している現状にも気がきました。これからも豊かな気仙沼の海であり続けるために児童が考えたプラスチックごみ削減の方策について発表します。
発表の仕方	パワーポイントを使用する。

洋野町立向田小学校

発表者氏名	太内田 佳乃、柏木 涼昊、太内田 颯汰、三本木 結愛、太内田 龍空、萬谷 綾香
タイトル	森は海の恋人 ～有家川の「フェルム」を見つけ出そう～
発表の概要	昨年度は、洋野町の海には久慈平岳に源流がある有家川から水が流れており、その水には海藻や魚たちにとって重要な栄養素である鉄分（フェルム）がフルボ酸と結合した状態で流れていることが分かった。今年は、パックテストを用いて有家川に流れる鉄分を測定し、実際に鉄分が流れていることを確かめた。また、雨が降った後に鉄分量が増えたことから、雨が降ることで山からより多くの鉄分が流れ出すと考えた。
発表の仕方	パワーポイント

気仙沼市立気仙沼小学校

発表者氏名	泉 隼太郎、斉藤 優人、小山 未紗、熊谷 玲音
タイトル	気仙沼復興プロジェクト わたしたちの町 未来の気仙沼
発表の概要	気仙沼市は、サメの水揚げ日本一、高級フカヒレの産地として全国的に知られています。また、豊かな自然やリアス海岸を利用した観光も発展しています。その気仙沼の魅力を発信して集客数を増やすために、サメの皮や歯などを商品化して販売している「シャークス」というお店と「大島汽船株式会社」が運航している観光船の良さや働いている方の思いについて発表します。
発表の仕方	パワーポイントを使用

洋野町立宿戸小学校

発表者氏名	岡本 倖生、鹿糠 彩音、坂下 優衣、吹切 航汰
タイトル	海は世界とつながっている
発表の概要	現在、世界で起きている海洋環境に関する問題について、本から学んだこと、及び、中でも特に興味を持った海洋ごみ問題に関して、自分たちの地域の現状と、自分たちのえがく町の未来に近づくためにできることや地域への提案などについて、映像を交えながら発表する。
発表の仕方	パワーポイント使用またはポスター撮影

小学校第4グループ 発表要旨一覧
第7回海洋教育こどもサミット in 気仙沼（オンライン大会）

気仙沼市立唐桑小学校

発表者氏名	小野寺 真波、鈴木 昊将、岩間 成美
タイトル	再発見！ぼくらの舞根川
発表の概要	今までカキ養殖体験やサケの回遊、植樹活動などの学習を通して、森・川・海とのつながり、地元唐桑の海の豊かさを学んできた。これらの学びを振り返り、自分たちが住む唐桑にある舞根川を見つめ直し、探究することで、舞根川のすばらしさを再発見し、そのよさを発信したい。そして、舞根川の環境、ひいては唐桑の海の豊かさを守り続けるために何ができるのかを考え、行動していくことを提案する。
発表の仕方	フリップを使い、探究の成果を口頭で発表する。

洋野町立林郷小学校

発表者氏名	関向 翔太、南 優翔、林郷 呂茉、関向 心優
タイトル	大野の酪農と海洋のかかわり
発表の概要	大野の大地は、海成段丘で形成されていて険しい山がなく、なだらかな土地が続いています。林郷小学校のある林郷地区は大野の中でも特に酪農の盛んな地区です。子どもたちは酪農の盛んなふるさとに誇りをもっています。ただ、今の状態を守るには林郷の自然だけでなく、海を大切にすることも大事であることを学びました。海の与える影響がどのようなものか、自分たちが林郷の良さを守るためにできることは何かを考え発表します。
発表の仕方	ポスター撮影

気仙沼市立大谷小学校

発表者氏名	大原 里桜、渡邊 櫻子、平塚 創士、佐々木 慧
タイトル	探ろうふるさと・考えよう大谷の未来～海とともに～
発表の概要	自分たちが生まれ育った大谷の自然、産業、文化について、これまでの体験や講話、学習の中から知り得た大谷の魅力や課題をもとに、ふるさとのまち・大谷のより良い未来を描き、提案する。観点としては、①環境、②自然、③観光、④防災の4つを挙げ、それぞれの観点に応じた未来のまちづくりの構想を発表する。
発表の仕方	ポスター・写真等を使用する。（黒板に掲示しながら発表するか、紙芝居のように小さい資料を使った発表にするかは検討中。）

洋野町立帯島小学校

発表者氏名	林上 賢伸、長谷川 滯、間澤 芽依、北村 夢乃
タイトル	海につながる森林のめぐみ
発表の概要	帯島小学校では毎年、5・6年児童が森林学習や源流体験を通して身近な自然にふれ、地域の環境保全に努めています。森を守る活動は海にどんな影響を及ぼすのか、体験学習や調べ学習を通して学んだことを発表します。具体的には、森や海の酸素や二酸化炭素の吸収・排出、山の土壌がもたらすフルボ酸の役割、そして「豊かな森は豊かな海を育む」と言われる理由や海の資源を守るため自分たちにできることについて紹介する予定です。
発表の仕方	画用紙、模造紙にまとめた資料を口頭で発表（ホワイトボードに掲示したり、画用紙を手にして説明したりする予定）

中学校第1グループ 発表要旨一覧
第7回海洋教育こどもサミット in 気仙沼（オンライン大会）

気仙沼市立唐桑中学校

発表者氏名	3年生（未定）
タイトル	海のまち『唐桑』の未来を考える
発表の概要	唐桑の海と自分たちの生活との関わりについて調査し、現状を見つめ抱えている課題を見つける中で自分たちにできることを模索しながら探究活動に取り組んでいる。地元の漁港を訪問したり、地域の方を講師に招いたりしたことで発見できたことが多くある。その中で、海に浮かぶごみと環境問題について調査したことを中心に発表したい。
発表の仕方	パワーポイント使用での発表予定

洋野町立種市中学校

発表者氏名	苧坪 愛梨、梅澤 華恋、沖澤 愛生、原子内 未来、館野 陶子、北野澤 李央
タイトル	ウニを育てる町、洋野町
発表の概要	洋野町の特産物であるウニについて ・洋野のウニはなぜおいしいのか ・ウニの生態について ・栽培漁業センターの役割 ・ウニを育てる森 ・本校で行った漁業体験の紹介 ・ウニの魅力を発信 等、洋野町でのウニを中心とした「海と人との共生」について、調査したことや体験したことをもとに発表予定。
発表の仕方	ポスター撮影等

気仙沼市立面瀬中学校

発表者氏名	小山 巧、清水 彩葵、小野寺 紀香、菅原 菜々子
タイトル	気仙沼の魅力発信プロジェクト ～いいとこいっぱい！見てみらいん♪～
発表の概要	素晴らしい自然や美味しい食べ物に恵まれた気仙沼市の良さを多くの人たちに知ってもらうことで、観光客や移住者が増え、気仙沼市の発展に貢献することができるのではないかと考えた。インタビューや施設訪問を行い幅広い年齢層の人たちに理解してもらえるようなPR動画を作成し、インターネットを活用して発信していきたい。それを目にすることで、気仙沼に足を運んでくれるのか。変容を確かめることで課題の解決に迫っていきたい。
発表の仕方	パワーポイントを使って発表する。

気仙沼市立階上中学校

発表者氏名	阿部 蓮（3年）、小松 心咲（3年）、熊谷 花音（2年）、佐藤 優輝（2年）
タイトル	津波災害への備え・教訓から自分の将来、地域・社会とのつながりについて考える
発表の概要	東日本大震災当時の様子についての調査（聞き取り、フィールドワーク等）結果を「自助・共助」の2つの視点から振り返り、「防災・減災」に関する備えや教訓としての学びを発表する。また、災害の風化を防ぐため、災害のメカニズムや地域の実態を知り、「自分の身を守るためにできることは何か」、「災害に強い地域づくりに必要なことは何か」、「地域の一員として協力できること何か」等について発信する具体を発表する。
発表の仕方	ポスター発表

中学校第2グループ 発表要旨一覧
第7回海洋教育こどもサミット in 気仙沼（オンライン大会）

気仙沼市立大谷中学校

発表者氏名	及川 舞、小野寺 杏太、佐野 遙、畠山 薫
タイトル	海と共に生きる大谷が元気になるプロジェクト
発表の概要	地域、自然を活用した様々な活動を通して、大谷の海から地域のよさを知り、「海と生きる大谷地区が元気になるため」のプロジェクトを提案し、行動する活動を実施します。そのために、地域企業の方や研究者の方々に講師になっていただき、海藻養殖、磯焼け、ウニの畜養、地球温暖化と養殖、貝毒と大谷の養殖、大谷道の駅での地元のPR活動などの探究的な学習を目指しています。それらの活動・学習を通し、自分たちの生きる地域の魅力について知り、地域に対する愛着を深めようと考えています。
発表の仕方	パワーポイントを用いて発表を行う。

只見町立只見中学校

発表者氏名	山本 愛佳、酒井 怜斗、三瓶 創大、目黒 元基、酒井 駿
タイトル	町の人と私たちの海を守る
発表の概要	只見中学校発信で新聞紙レジ袋を作り町に広め、海洋プラゴミ削減に努めてきた。町内の人々はもとより県内外の人から賞賛されてきた。町教育委員会にも協力してもらい、町全体の取組になった。これを通じて中学生が町の人と協力・活動をともにすることで、地球環境の改善と町民と中学生の結（ゆい）を強いものとした。
発表の仕方	PPTとオンラインカメラで発表したい。

気仙沼市立大島中学校

発表者氏名	新妻 千里、渡部 愛乃、小松 優、伊藤 心晴、村上 一善
タイトル	30年後の大島に伝えたいこと
発表の概要	今年度取り組んだ海洋学習の内容についての発表 テーマ「30年後の大島に伝えよう」～大島の良さを未来に伝えるために、今自分ができることを考えよう～ ・鳥ゼミ（個人課題研究）について（1～2名） ・学年ごと、ホタテ養殖体験学習について （1年生：背ばたき、耳吊り体験 2年生：水揚げ体験 3年生：親子調理実習） ・小田の浜 漂着物調査・海浜清掃について ・海洋講話「マグロ延縄漁船について」 等
発表の仕方	プレゼンテーションソフト（パワーポイント）を使った発表

洋野町立中野中学校

発表者氏名	高屋敷 歩花、橋本 隆人、城下 廉、日向 美桜、浜久保 朋和
タイトル	洋野の海と山の魅力を生かした“ものづくり・人づくり・町づくり”を考えよう
発表の概要	本校2学年の海洋教育では、他地域（雫石町・滝沢市）を訪れ、その地域の環境、食、エネルギーの特徴的な取組を学んだことをもとに、自分たちが住む洋野町と比較し、“海と山のつながり”を視点とした地域の課題を探ってきた。その課題を解決するために、洋野の魅力を生かした「ものづくり・ひとづくり・町づくり」について地域の方々に学び、課題解決のために中学生として何ができるかを考え、提案することを目標に学習を進めている。
発表の仕方	パワーポイントを使った発表

高校グループ 発表要旨一覧
第7回海洋教育こどもサミット in 気仙沼 (オンライン大会)

宮城県気仙沼向洋高等学校 (①13:45 - 14:00、②14:00 - 14:15)

発表者氏名	男席 美紅 (①)
タイトル	海洋プラスチックからドリームキャッチャーをつくる ～SDGs達成を目指して～
発表の概要	情報海洋科海洋類型では、海浜清掃および宮城丸航海実習時に海洋プラスチックの分布について調べている。集めたゴミからドリームキャッチャーを創り、その活動を通じ、海と関わる人としてこの問題にいかに関わるべきかについて考察を深めた。SDGs達成をテーマにしながら実施した。
発表の仕方	パワーポイントを用いたプレゼンテーション

発表者氏名	渡邊 夕佳 (②)
タイトル	ホヤ殻から紙をつくる ～SDGs達成を目指して～
発表の概要	産業経済科では、ホヤ殻の資源化について取り組んでいる。ホヤ殻から紙を創り、気仙沼の環境と産業、暮らしについて等の考察を深めた。SDGs達成をテーマにしながら実施した。
発表の仕方	パワーポイントを用いたプレゼンテーション

山形県立加茂水産高等学校 (14:15 - 14:30)

発表者氏名	澤木 幹太 (海洋技術科3年)、藤井 詩紋 (海洋技術科3年)
タイトル	気候変動・地球温暖化と庄内の海
発表の概要	庄内の海と気候変動・地球温暖化との関係について調査し、SDGs 13温暖化防止策について考えることを目的としている。仮説として、「山形県の漁獲量減少は気候変動・地球温暖化によるものである」ことを立証したい。現在、地球全体・日本海・庄内の海の水温の変化の状況や山形県の漁獲状況及び魚種の変化と水温の関係についてまとめている。これから、地元で長年漁師をやっている方に海の変化について聞いてみたい。
発表の仕方	ポスター撮影

宮城県気仙沼高等学校 (①14:40 - 14:55、②14:55 - 15:10、③15:10 - 15:25)

発表者氏名	鈴木 涼雅 (①)
タイトル	ポイ捨てを解決するために必要な考え方・行動とは
発表の概要	海洋プラスチックが私たち人間を含めた生物に与える影響が近年問題となっている。世界や日本ではプラスチックごみを減らすためにどのような取り組みをしているのかを調査し、どのような方法でポイ捨てを減らしていけるのかをまとめた。今後は気仙沼の地域性にあった対策を考えていきたい。
発表の仕方	PowerPointスライドを用いた口頭発表

発表者氏名	小松 龍聖 (②)
タイトル	循環資源を用いて有害赤潮問題に貢献できるか
発表の概要	この研究では循環資源を用いて有害赤潮であるシャトネラ属有害プランクトンを除去することを目的に始めた。循環資源である海水やホタテ等の貝殻を用いて有害赤潮除去剤である水酸化マグネシウムを作製したいと考え、その作製方法を探った。
発表の仕方	PowerPointスライドを用いた口頭発表

発表者氏名	及川 澄恵 (③)
タイトル	海岸のごみ拾いに取り組む人を増やすにはどうしたらよいか
発表の概要	海洋ごみの削減に協力したいと思い、このテーマで研究することにした。この研究を通して、ごみ拾いに取り組む人が増え、海岸に漂着したごみが再び海に流れるのを防げば、海洋ごみ削減につながると考えた。そこで、アンケートを実施し、住んでいる場所や海への親しみが人々の海洋ごみ削減意識とどのように関係しているのかを調査した。今後は人々が取り組みやすいごみ拾いについて考え、研究を進めていきたい。
発表の仕方	PowerPointスライドを用いた口頭発表

令和2年度
市教育研究員

実践概要

令和2年度気仙沼市教育研究 領域「海洋教育」

海洋教育に特化し、思考の習慣化を図り、
教科等とESDの往還を重視した授業づくり

松岩小学校 教諭 三浦 大樹

1 研究概要

2 海洋教育指導案

松岩小学校5年1組 総合的な学習の時間

「海と生きる ～ぼくらは気仙沼の海大使～」



VII 海洋教育

1 研究主題

海洋教育に特化し、思考の習慣化を図り、教科等とE S Dの往還を重視した授業づくり

2 主題設定の理由

(1) 今日の教育課題から

近年、世界的な気候変動や様々な要因による海洋環境の変化など、自然環境は地球規模で考えることが必要な時代となっており、時代が日々刻々と変化をしていく中で、我々人間は、これまで経験したことのない予測困難な時代を生きている。

今年度から施行されている学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の実現を通じて「持続可能な社会づくりの担い手を育むこと」が掲げられた。これは、気仙沼市が先進的に取り組んできたE S Dの理念であり、気仙沼市教育大綱の「海と緑のめぐみ豊かなふるさとを愛し、夢や高い志と活力に満ち、積極的に社会と関わりながら、人間性豊かで持続可能な未来を創造する人を育む」にも通じるものである。

自然がもたらす豊かな恵みと共に発展してきた気仙沼市にとって、海は生活と共にある尊い存在である。しかし、2011年に発生した東日本大震災に伴う大津波の甚大な被害により、地域での遊びや生活から体験的に海に親しみ、学ぶ機会は減少してしまった。また、これまで養殖や洋上体験などの活動や石ころアートなどの海に親しむ活動を行ってきた学校教育も活動内容を見直さざるを得ない状況となった。特に、本校は、片浜一帯が被災し、海に近づくことも産業も全て停止した時期がある。

そのような状況下であるからこそ、震災復興のキャッチフレーズとして「海と生きる」を掲げる気仙沼市の中で、学校教育を通して子どもたちに海と関わらせる中で、自然科学的・社会科学的知見や文化、思想、芸術に触れさせ、郷土愛を育む海洋教育を行うことは大いに意義がある。

(2) 児童の実態から

本学級の児童は素直で、与えられた課題に対して、意欲的に向き合うことができる。しかし、主体的に課題を見付け、解決に向かおうとする力は、まだまだ弱く、探究的な学習を進めるまでには至っていない。

そこで本地域素材を生かし、総合的な学習の時間を通して海洋教育を行い、自分の問いをもち、学びに向かう力を蓄え、持続可能な社会の担い手となる知識・技能、思考力・判断力・表現力を有する子どもを育成していく。

また、総合的な学習の時間と各教科の学習内容とを関連付け、教科を基盤とした様々な知識を児童が獲得することを、探究の土台として位置付けることで、児童の知識・技能の習得を図る。その上で、児童自らが課題を解決していくために、多様な体験活動や各種専門家との学習などを準備（豊富なステークホルダーの活用）し、自ら問いをもち、問い直しを重ね、「もっと知りたい」「自分ができることを追究したい」という学びに向かう力を高め、思考する児童を育成することがねらいである。

以上のことから、自ら問いをもち探究し続ける子ども、学びでの対話を楽しみ自己肯定感を高める児童を目指したい。

(3) 本校の海洋教育における素材から

「海と生きる」という気仙沼市のアイデンティティを本校では、以下に挙げる学習材を通して探究させ、持続可能な社会について考える子どもを育成する。

- ①徳仙丈山及び長の森山から気仙沼湾までの森と川、海がつながる地形を有すること。
- ②気仙沼市の水産業を支える水産物加工会社やふかひれ工場など、海から離れた場所においても、産業を支える数多くの会社があること。
- ③片浜地区の人たちが、震災の被害に遭った養殖業を復活させ、地域の水産業の基盤をつくってきたという歴史的な背景があること。
- ④震災によって壊滅的な被害を受けた後も、水産業を再開し、地域産業を復興させた人たちがいること。
- ⑤漁業に従事する人の減少、高齢化、後継者不足など労働環境を取り巻く環境には多くの課題もあること。
- ⑥「海と生きる」気仙沼にとって、水産業を取り巻く環境は、年々厳しくなっており、水産都市・気仙沼の将来に対する課題が多くあること。

3 研究主題の捉え

今年度から本校では、総合的な学習の時間を中心に海洋教育を5年生でスタートさせた。

「思考の習慣化」とは、学習課題に対して自分の考えを持つことと捉えた。総合的な学習の時間に限らず、国語や社会などの他教科においても、課題に対して「なぜ」「どうして」と疑問を持って考え、必要に応じて思考ツールを活用し、情報を整理したり考えを可視化したりすることと捉えた。

「教科等とESDの往還」とは、各教科の学習内容と関連付け様々な知識を児童が獲得することで、探究の礎として、夢中になって様々な事象を思考し、考えたことをペアやグループなどの協働での学び合いを通して、自分の考えを深めたり、自分や友達の考えの良さに気付いたりできることと捉えた。

4 目指す子どもの姿

- ・課題に対して、「なぜ」「どうして」と課題意識を持ち続け探究し続ける子ども
- ・自分ができることを追究したいという学びに向かう力を高める子ども

5 研究目標

海洋教育に特化し、思考の習慣化を図り、教科等とESDの往還を重視した授業づくりの在り方について実践を通して明らかにする。

6 研究の視点

自ら問いをもち、学びに向かおうとする子どもを育成するために、次の2つの視点に沿った手立てを工夫しながら授業を展開する。

	視点	手立て
視点 1	『考え方を教える』授業づくりの工夫	① 思考ツールの活用
		② 考えを持たせるワークシートの利用
視点 2	『探究スパイラル』を意識した授業展開の工夫	① 単元構想図を活用した探究型プログラムの授業展開
		② 探究型学習の展開
		③ 教科等との関連を図る学びの展開

7 研究計画

内容	月												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
研究主題, 目標, 視点の設定													
研究内容, 方法などの検討													
授業実践計画の立案													
意識調査													
授業実践													
授業実践の検討・考察													
研究のまとめ													

8 授業実践・・・別紙

気仙沼市立松岩小学校 教諭 三浦 大樹

9 成果と課題

(1) 成果

【視点1】『考え方を教える』授業づくりの工夫

① 思考ツールの活用

- 子どもにとって、自分の考えを持ったり、整理したりすることができる思考ツールは有効であった。

② 考えを持たせるワークシートの利用

- 課題解決まで、学習の流れの見通しを持たせたワークシートを用いて、自分の考えを言語化させることで、考えを整理し意見の交流につながった。

【視点2】『探究スパイラル』を意識した授業展開の工夫

① 単元構想図の活用

- ・ 海洋教育初年度ということもあり、教師側で単元構想図を作成し、単元の指導に見通しをもって指導することができた。また、海の学習に関する講話やワカメの作業体験など計画的に学習に取り組むことができた。
- ・ 今年度は、多様な体験活動を準備し、児童が海洋に対して関心をもち、自分の身近にある海について、環境・社会・経済の面から、のぞき見ることができた。

② 探究型学習の展開

- ・ 多くの地域人材を活用した学習は、子どもたちにとって多様な知識を獲得することができ、一人一人が自分なりに課題をもつことができた。
- ・ 問いを探究するために、ゲストティーチャーにFAXで質問をしたり、オンラインで専門家に直接「問い」を投げかけさせたりする場を作り、探究を深めさせることができた。

③ 教科との関連

- ・ 国語科や社会科の学習から、資料を使って分かりやすくまとめるスキルを身に付けることができた。各教科で獲得した知識が海洋学習の下支えになり教科との関連を図ることができた。

(2) 課題

【視点1】『考え方を教える』授業づくりの工夫

- ・ 思考の習慣化を図るために、思考ツールを他教科でも活用し、思考の整理を各児童が行うことができるよう、考える授業作りを工夫していく必要がある。

【視点2】『探究スパイラル』を意識した授業展開の工夫

- ・ 児童が立てた問いを、地域課題と重ねながら探究することができるよう得た知識を整理させ、児童一人一人が深い問いに結び付けていくことができる指導を行う。
- ・ 児童が課題解決を行う際に、教師が準備した体験や資料を活用して課題を解決するだけでなく、自分の問いを解決するために必要な情報を、自分自身で収集し取捨選択できるようにする必要がある。

第5学年1組 総合的な学習の時間学習指導案

日 時 令和2年10月26日（月）5校時
場 所 わかばホール
指導者 教諭 三浦 大樹

1 単元名 海と生きる ～ぼくらは気仙沼の海大使～

2 単元の目標

- (1) 地域の産業と自然環境や自分たちとの関わりに気付き、海と共に生きていく気仙沼の在り方について多角的に考えることができる。
- (2) 地域の産業、自然環境、そこに生きる人々の現状について捉えた上で、地域に誇りを持ち、自分たちができることを行う。

3 指導に当たって

(1) 単元について

本単元は、リアス式海岸の特徴をもつ三陸復興国立公園の南部に位置し、天然の良港として古くから漁業の街として栄えてきた気仙沼が、どのようにして豊かな自然資源を活用し、水産業を要として社会形成を行ってきたかという知識・理解を得ると共にリアス式海岸という地形が育んだ気仙沼湾がその豊かな自然資源を活用し水産業を要とした社会形成を行っているという知識・理解を得ると共に、有限性のある「ひと・もの・こと・社会・自然」を持続可能な「ひと・もの・こと・社会・自然」に具現化しようとしている人々の考えや努力に触れさせ、「海と生きる気仙沼」の在り方について実感をもって捉えさせることをねらいとしている。

上記のねらいに到達させるために、本学年では、「海を守る」「海を利用する」という海洋教育の2つの視点から、1年間に渡り、学習を進めていく。

前期は、松岩地区は、片浜漁港と面瀬川、大川そして徳仙丈を有しており、海・川・森の繋がりを学習する上で、非常に適した場所である。地の利を生かし、校舎から見える気仙沼湾が、豊かな海である理由を植林活動や舞根森里海研究所での体験、終末処理場の見学を通して実感させ、自然環境の保全への努力について目を向けさせた。

後期より、気仙沼の経済基盤をなす水産業について取り上げ、松岩地区の水産加工業者「石渡商店」や魚市場やお魚市場の見学を行い、水産業への興味・関心を高めさせた。

以上の共通体験を「問いをもつ」上での入り口とし、児童が気仙沼の海に関する事柄を自分事として考えられるよう、児童1人1人を「気仙沼の海大使」と銘打ち、自分が興味をもち、調べていきたいことを探究し、他者に発信することをゴールとする学習を展開する。

また、探究の視点として、自然環境、産業、人々の3つの視点を児童に与え、その視点を中心に、多様な気付きや考えを尊重した学習を構成していく。この学習を通して、海と人との共生に関わる持続可能な社会づくりの構成概念である多様性や相互性、有限性、公平性、連携性、責任性にも気付かせていきたい。

最後に、教科との連携という点では、理科や社会の学習を知識基盤とするばかりではなく、国語の学習で、事象の問題点に気付き、収集した資料から、必要な情報を選択して情報をまとめ、自分の意見を根拠に基づいて文章にすることを学んでいる。こうした他教科で培った力を活用しながら、本学習を進めていく。

(2) 本単元で身に付けさせたい気仙沼ESDコンピテンシー

探究の段階	気仙沼ESDコンピテンシー	身に付けさせたい力
①問いをもつ	情報の読解力 【知識及び技能】	見学での観察や資料等の情報から、気仙沼の自然環境と産業、そこに生きる人々について、問いをもつことができる。
②課題の設定	批判的思考力と自己決定力 【思考力、判断力、表現力】	持続可能な気仙沼の水産業について、環境・産業・人々の繋がりに焦点をあてて全体で共有した多角的・多面的な課題の中から、自己の課題を決定することができる。
③情報の収集 ④整理・分析 ⑤まとめ・表現	科学的思考力と挑戦する心 【思考力、判断力、表現力】	自己の課題に応じて、教科の知識を基にしながら、専門家への問い直しや図書、PCを利用し、自己の課題について、持続可能な社会づくりの6点の構成概念を意識し、必要な情報やデータを収集・整理できる。 収集した情報を基に、自己の課題に応じて効果的に表現する方法を選択した上で、国語科で身に付けた力を活用し、相手に分かりやすいよう発信ができるよう思考し、表現できる。
⑥振り返り・考えの更新	協働して価値を生み出す感性と志 【学びに向かう力、人間性】	自己の課題を解決すると同時に、他者の課題についても発表を聞き、多角的・多面的に「海と生きる気仙沼」について捉えることができる。 持続可能な産業や環境の維持のために、人々のたゆまぬ努力があることに感じ取ることができる。 学習したことを基に、更なる問いをもつことができる。

(3) 児童の実態 (計33名)

児童は、海に関する学習に対して意欲的に取り組んでいる。また、それぞれの事象について多角的な視点から物事を考える児童もおり、全体として思考する過程を楽しむ児童が多い。反面、気仙沼港が日本有数の漁港であることはなんとなく知っているが、どんな魚が水揚げされているのか、漁獲量は他地域と比較しどの程度なのかといった基本的な知識・理解が不足している児童が多くいる。また、これまでに学習してきた社会や理科の知識を活用して事象を理解したり、必要な情報を収集して自己の意見を表現したりすることは、苦手である。更に、探究的な学び方については、経験が少なく、今後学びのスキルを高めていく必要がある。

(4) 指導の構想

本単元では、上記の児童の実態を踏まえ、本校の研究視点に基づき、手立てを工夫して指導に当たる。

① 本年度の本校の研究主題

「自ら問いをもち、学びに向かう力を高める児童の育成」
～思考の習慣化を図り、教科等とE S Dの往還を重視した授業作り～

② 研究の視点

【視点1】「考え方を教える」授業作りの工夫
【視点2】「探究のスパイラル」を意識した授業展開の工夫

【視点1】「考え方を教える」授業作りの工夫

ア 思考ツールの活用と思考スキルの習得について

- ① 問いをもったり、課題を立てたりする場面では、「海と生きる気仙沼」の特徴を環境・産業・人とのつながりの3つの側面から、思考ツールを使って比較・分類させ、その中から自己の課題を選択する。
- ② KWLなどの思考ツールを活用し、情報の収集と整理を図ると共に、更なる課題につなげていく。
- ③ 海大使として、他者に気仙沼の海について発信する際は、持続可能な社会づくりの6つの構成概念をレーダーチャートにし、アピールポイントを可視化させる。

イ 教科等の関連の図り方について

相手に向けて自分たちが学習してきた成果を発信するために、国語科「環境問題について報告しよう」の学習で学んだ情報整理を意識させ、相手に分かりやすく伝えさせる。

【視点2】「探究のスパイラル」を意識した授業展開の工夫

ア 問いのもたせ方

森・川・海のとつながりの学習、魚市場や水産加工工場の見学などの共通体験を行い、気仙沼の海に関する興味や関心を高める。見学等で得た様々な事象を整理しながら、自己が見つめたい問いをもたせる。

イ 課題設定

環境・産業・人とのつながりの3視点を基にし、児童一人一人が海大使として、気仙沼の海について発信したい内容を自己課題として決定させる。また、松岩中学校の生徒から海洋ゴミを除去する装置を作成した話を聞く機会を作り、小学生なりに、自分ができることを探すことも課題の一つとして考えることができることに気付かせる。

ウ 情報収集・整理・分析

課題が近い仲間とのグルーピングを行い、対話を通して学習を広げたり深めたりさせる。また、児童が知りたい事柄については、質問内容に応じて、多様な人々に問い直しを行ったり、図書、新聞、PCを活用したりさせ、情報を収集させる。

エ まとめ・表現・振り返り

児童課題に応じた表現方法を選択させる。これまでお世話になった方々を招待し、児童の考えを発信する機会をつくる。

4 単元の評価基準 ※ルーブリック（指導主事訪問時に配布）

5 単元構想図 ※別紙参照

6 本時の指導

(1) 単元名「海と生きる」～ぼくらは気仙沼の海大使～

(2) 本時のねらい

- ・これまでに学習した事柄を、環境・産業・人とのつながりから整理し、海と生きる気仙沼の特徴を見つめることができる。

(3) 「問いをもつ」段階で身に付けさせる気仙沼 ESD コンピテンシー

- ・見学での観察や資料等の情報から、気仙沼の自然環境と産業、そこに生きる人々について、問いをもつことができる。**情報の読解力**

(4) 本時の指導の手立て

- ・明確な問いをもたせるために、「海と生きる気仙沼」の特徴を環境・産業・人とのつながりの3つの側面から、マトリクス表を使って比較・分類させる。

【視点1ーア①】

(5) 準備物

<教師> マトリクス表（掲示用）、学習成果物

<児童> 筆記用具、総合ファイル、付箋紙、添付用画用紙

(6) 学習過程

段階	<p>主な学習活動：数字 教師の発問：◎，指示：○ 予想される児童の反応：・</p>	<p>指導上の留意点：・ 研究の視点に基づく手立て：○ 視点との関連：【視点○】</p>	<p>身に付けさせたい気仙沼 ESDコンピテンシー：☆ 評価：・ 評価の方法：() 準備物等：※</p>
導入 6分	<p>1 前時までの学習を振り返る。 ◎校外学習では，どのようなことを学習してきたか写真を見ながら振り返ろう。 2 本時の課題をつかむ。</p>	<p>・学習してきたことをスライドショーの写真で振り返る。 森や海の学習，産業について学習を想起させる。</p>	<p>※テレビ ※パソコン</p>
<p>① 海大使として，海に生きる気仙沼の今を見つめよう。</p>			
展開 36分	<p>3 気仙沼の海について気付いたことをグループで考えさせる。 ◎気仙沼の海について見学などで分かったことをグループで整理しよう。 ・森と海がつながっている。 ・山に木があることで，栄養を含んだ水が海に流れる。 ・気仙沼の海にはプランクトンが豊富にある。 ・汚い水がきれいになって海へ流れ出る。 ・牡蠣の身や殻も残さずすべて加工している。 ・加工した商品は，市内だけでなく国内や海外でも販売している。 ・水産加工業では，魅力的な新製品を作ろうとしている。</p>	<p>・前時に気仙沼の海の学習から気付いた強み(よさや工夫していること)をピンクの付箋紙に，弱み(困っていること)を青の付箋紙に記入させておく。 ・グループで情報共有を行い，似たような意見は，画用紙にまとめて整理させる。 ・教師は環境，産業，人とのつながりを視点としてもち，座席表を使い，グループの考えを捉え，全体共有につなげる。</p>	<p>※4つ切画用紙，ペン ※記入した付箋紙</p>

	<p>4 全体で意見を共有する。</p> <p>◎グループから出た意見を全員で共有しましょう。</p> <p>◎よい点について話し合しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の豊かさと海の豊かさはつながっている。 ・環境保全活動をしている。 ・豊かな水質の海であるので養殖も盛んだ。 ・水産加工業では、気仙沼の製品が、日本中で購入してもらえるようにインターネットを利用している。 ・魚の全てを使い切り、資源を大切にしている。 ・魚市場は、機械化が図られ、働く人が少なくてもよくなった。 <p>◎問題点について話し合しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋ゴミは、気仙沼の海も汚している。 ・気仙沼の水揚げ高が少なくなってきた。 	<p>○意図的指名をして発表させる。教師は、3つの視点に応じて、マトリクス表に児童の意見を整理する。</p> <p>【視点1-ア①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よさや工夫した点をじっくり情報共有した後、現在の問題点について取り上げる。 ・機械化により労働者の人数が減少したことについて触れる意見が出れば、それが強みなのか弱みなのかを揺さぶる。 ・児童が、問題点に気付いていない場合は、揺さぶりの発問を行い問題点もあることにも気付かせる。全ての事象には、良い点と課題となる点があることに触れ、多面的な物の見方を学ばせる。 	<p>※マトリクス表</p> <p>☆見学での観察や資料等の情報から、気仙沼の自然環境と産業、そこに生きる人々について、問いをもつことができる。読</p> <p>・これまでに学習した事柄を、環境・産業・人とのつながりから整理し、海と生きる気仙沼の特徴を見つめることができたか。(発表・観察)</p>
<p>終末3分</p>	<p>5 次時の予告をする。</p> <p>◎今日の学習を通して、次時ではどのようなことを考えていきたいか書いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境面以外の問題点も考えたい。 ・新聞なども見るようにして、自分が調べていきたい課題を探すようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時を振り返る際に、気になったところを明確にさせ、次時では、課題設定してさらに考えていくことを伝える。 	<p>※ワークシート</p>

(7) 評価

- ・これまでの学習した事柄を，環境・産業・人とのつながりから整理し，海と生きる気仙沼の特徴を見つめることができたか。

(8) 板書計画

10 / 26 海と生きる

～ぼくらは気仙沼の海大使～

課 海大使として，海に生きる気仙沼の今を見つめよう。

今までの学習では

- ・舞根湾（環境）
- ・水産試験場の方（環境）
- ・魚市場（産業）
- ・終末処理場（環境）
- ・迎（産業）
- ・石渡商店（産業）

	強み (よさ・工夫)	弱み (困っていること)
環境		
産業		
人々		

<振り返り>

- ・問題点なども考えてみたい。
- ・新聞なども読んで，情報を集めたい。

発行 令和3年3月31日
編集 気仙沼市教育委員会 学校教育課
印刷 菅原印刷



SPF 笹川平和財団

◎ 海洋政策研究所